

科目名称	日本語学概論 I		
科目分類	111-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Survey of Japanese Linguistics I	授業区分	講義
科目責任者	柏野 和佳子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	柏野 和佳子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	日本語の音声・音韻論、文字・表記論、文法論、語彙論の基本的な事項について学ぶ。また、この授業では、PC を用いた実習を行う。実習のタイミングは授業時に指示する。		
到達目標	(1)日本語に関する基本的な知識を身につける。(2)日本語全体に関心を持ち、観察し、分析する視点を獲得する。(3)学んだ日本語の知識を日常の言語行動や教育に活用できる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：最近気になる言葉を1つ以上見つけておく 授業：イントロダクション 日本語学とは 復習：国立国語研究所のコーパスを使う</p> <p>【第2回】 予習：身の回りで、カタカナで表記されているものを観察する 授業：文字と表記（1）日本語の文字 復習：身の回りの表記を文字種に着目して観察する</p> <p>【第3回】 予習：振り仮名（ルビ）で面白いと思う用例を見つける 授業：文字と表記（2）仮名遣いと送り仮名 復習：『現代日本語書き言葉均衡コーパス』で表記のゆれを検索して確認する</p> <p>【第4回】 予習：テレビ音声を耳で聞いて文字化してみる 授業：音声と音韻（1）音声・発音 復習：発音の練習をする</p> <p>【第5回】 予習：早口言葉を練習する 授業：音声と音韻（2）音韻・韻律 復習：『日本語日常会話コーパス』で発音のゆれを検索して確認する</p> <p>【第6回】 予習：程度がはなはだしいことを表す副詞を挙げる 授業：文法（1）形態論 復習：人や物をほめる時に使える形容詞・形容動詞を挙げる</p> <p>【第7回】 予習：「○○が熱い」「熱い○○」「熱く○○」それぞれを使った例文を作る 授業：文法（2）活用 復習：『現代日本語書き言葉均衡コーパス』で用例の活用形を確認する</p> <p>【第8回】 予習：新聞記事などを読みわかりやすい文の構造について考える 授業：文法（3）文の構造 復習：自身の書いた文章が一文一義になるよう見直す</p> <p>【第9回】 予習：新聞記事などに受動文がどれくらい使われているかを確認する 授業：文法（4）文法カテゴリー ヴォイス 復習：身近にある文章で受動文・使役文の使用例を確認する</p> <p>【第10回】 予習：ブログ記事などで「～だろう」「～かもしれない」など書き手の主観が現れていると思う文末表現を確認する 授業：文法（5）文法カテゴリー テンス・アスペクト・ムード 復習：身近にある文章でテンス・アスペクト・ムードの使用例を確認する</p> <p>【第11回】 予習：図書室などで類語辞典を読んでみる 授業：語彙（1）語と語彙 復習：『分類語彙表』を用いて興味のあるカテゴリに入る語を確認する</p> <p>【第12回】 予習：難易度の異なる文章の語を比較する 授業：語彙（2）基本語彙、さまざまな語彙</p>			

復習：使用語彙と理解語彙の差を確認する 【第13回】 予習：身近にある外来語の例を確認する 授業：語彙（3）語種 復習：興味のある文章で用いられている語の語種を確認する 【第14回】 予習：身近にある複合語の例を確認する 授業：語彙（4）語構成と語形成 復習：複合名詞、複合動詞、複合形容詞、複合形容動詞、複合副詞の例を確認する 【第15回】 予習：分析してみたい歌詞のテキストを用意する 授業：まとめ 歌詞の形態素解析 復習：形態素解析をした結果をまとめてレポートを作成する								
授業開始前学習	日頃から国語辞典（形態は問わない）を引くよう習慣づけるとよい。また、日本語・日本語学に関わる新書等を読んでおくことが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法	課題は主にネットワーク経由のアンケート方式で配付・回収する。授業時に、個別の質問・意見等への回答を含め、結果全体について講評する。							
テキスト・教材	主に Google Classroom にて資料を配付する。							
参考書	沖森卓也ほか(2006)『図解 日本語』／(2011)『図解 日本の文字』／(2011)『図解 日本の語彙』（三省堂）、荻野綱男編著(2018)『現代日本語学入門改訂版』（明治書院）、伊坂淳一(2016)『新ここからはじまる日本語学』（ひつじ書房）							
評価の基準と方法	平常点（授業への参加状況等）40%と、レポート60%によって、評価を行う。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎		△	◎			
関連科目								
その他	パソコン教場の空き状況により、実習日が変更になる可能性がある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	国立国語研究所の実務経験あり。日本語の基本的な事項について講義する。							

科目名称	日本語学概論Ⅱ		
科目分類	111-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Survey of Japanese Linguistics II	授業区分	講義
科目責任者	柏野 和佳子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	柏野 和佳子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	日本語の意味論、位相、敬語、社会とことば、及び応用分野の基本的な事項について学ぶ。また、この授業では、PC を用いた実習を行う。実習のタイミングは授業時に指示する。		
到達目標	(1)日本語に関する基本的な知識を身につける。(2)日本語全体に関心を持ち、観察し、分析する視点を獲得する。(3)学んだ日本語の知識を日常の言語行動や教育に活用できる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：身の回りにある類義語や反義語を観察する 授業：意味（1）同義語・類義語・反義語 復習：『現代日本語書き言葉均衡コーパス』で類義語を検索して用例を比較する</p> <p>【第2回】 予習：意味が変化したと思う語を見つけてみる 授業：意味（2）意味の変化 復習：『現代日本語書き言葉均衡コーパス』で意味が変化した語の用例を確認する</p> <p>【第3回】 予習：意味がたくさんありそうな語を国語辞典で引く 授業：意味（3）多義語 復習：『現代日本語書き言葉均衡コーパス』で多義語の用例を確認する</p> <p>【第4回】 予習：気になる方言を1つ以上見つけておく 授業：位相（1）方言と共通語 復習：方言が広く使われている例を確認する</p> <p>【第5回】 予習：性別や世代による言葉使いの違いを考えてみる 授業：位相（2）性別差・世代差 復習：身の回りにあるさまざまな語の位相について確認する</p> <p>【第6回】 予習：レポートや論文に使わない方がよいと思われる話し言葉的な表現を見つけてみる 授業：位相（3）話し言葉・書き言葉 復習：『日本語日常会話コーパス』で話し言葉の用例を確認する</p> <p>【第7回】 予習：身の回りで使われているさまざまな敬語表現を観察する 授業：敬語（1）敬語表現の分類 復習：『日本語日常会話コーパス』で敬語表現の例を確認する</p> <p>【第8回】 予習：どのような場面で敬語が用いられているかを観察する 授業：敬語（2）敬語の変化 復習：地域社会と敬語行動の関係について理解する</p> <p>【第9回】 予習：気になる新語・流行語を1つ以上見つけておく 授業：社会と言葉（1）新語・流行語 復習：コーパス等で新語・流行語の用例を確認する</p> <p>【第10回】 予習：身の回りにある製品の中でうまいと思う命名を見つけておく 授業：社会と言葉（2）命名 復習：身の回りにある物に対し自分でも命名をしてみる</p> <p>【第11回】 予習：集団語・若者語の例を確認する 授業：社会と言葉（3）集団語・若者語 復習：コーパス等で集団語・若者語の用例を確認する</p> <p>【第12回】 予習：気になる語について国語辞典を引いて意味を確認する 授業：社会と言葉（4）辞書 復習：気になる語の新しい語釈を考えてみる</p>			

<p>【第13回】 予習：図書室などで日本語教育の教材がどのようなものか見てみる 授業：応用（1）国語教育、日本語教育 復習：「外国語としての日本語」の教育という点について確認する 【第14回】 予習：図書室などでどのような「言語学」関連の本があるのかを見てみる 授業：応用（2）認知言語学、コンピュータ言語学、社会言語学 復習：研究事例の資料を読む 【第15回】 予習：『日本語日常会話コーパス』で用例分析をする語を考える 授業：まとめ『日本語日常会話コーパス』の用例分析 復習：用例分析結果をまとめてレポートを作成する</p>								
授業開始前学習	日頃から国語辞典（形態は問わない）を引くよう習慣づけるとよい。また、日本語・日本語学に関わる新書等を読んでおくことが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法	課題は主に、Google Classroom にて指示する。授業時に、個別の質問・意見等への回答を含め、結果全体について講評する。							
テキスト・教材	Google Classroom にて資料を配付する。							
参考書	沖森卓也ほか(2006)『図解 日本語』／(2011)『図解 日本の文字』／(2011)『図解 日本の語彙』（三省堂）、荻野綱男編著(2018)『現代日本語学入門改訂版』（明治書院）、伊坂淳一(2016)『新ここからはじまる日本語学』（ひつじ書房）							
評価の基準と方法	平常点（授業への参加状況等）40%と、レポート60%によって、評価を行う。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎		△	◎			
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	国立国語学研究所の実務経験あり。日本語の応用分野の基本的な事項を講義する。							

科目名称	日本語学 I		
科目分類	111-331-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese Linguistics I	授業区分	講義
科目責任者	石川 創	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石川 創	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40~12:10 金曜日 10:40~12:10 後期 月曜日 10:40~12:10 金曜日 10:40~12:10	研究室	10-510
授業概要	小中高等学校で扱う学校文法について概観するとともに、現代の日本語文法について歴史的な言語変化という観点から理解を深める。		
到達目標	現代の学校文法の基礎を理解し、古典文法との関わりや日本語文法が抱える諸問題について、論理的に説明できるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスを熟読・確認する 授業：日本語史の時代区分と古典語・現代語、現代日本語と中央語・共通語・方言 復習：講義内容・配布資料の復習</p> <p>【第2回】 予習：講義内容・配布資料の復習 授業：学校文法における品詞分類と品詞名 復習：講義内容・配布資料の復習</p> <p>【第3回】 予習：講義内容・配布資料の復習 授業：学校文法における活用と活用形 復習：講義内容・配布資料の復習</p> <p>【第4回】 予習：講義内容・配布資料の復習 授業：文章・文・文節・単語・形態素 復習：講義内容・配布資料の復習</p> <p>【第5回】 予習：講義内容・配布資料の復習 授業：学校文法における各品詞の概要 復習：講義内容・配布資料の復習</p> <p>【第6回】 予習：講義内容・配布資料の復習 授業：現代語の動詞（1）—動詞の分類— 復習：講義内容・配布資料の復習</p> <p>【第7回】 予習：講義内容・配布資料の復習 授業：現代語の動詞（2）—活用の歴史— 復習：講義内容・配布資料の復習</p> <p>【第8回】 予習：講義内容・配布資料の復習 授業：現代語の形容詞・小テスト 復習：講義内容・配布資料の復習</p> <p>【第9回】 予習：講義内容・配布資料の復習 授業：現代語の形容動詞 復習：講義内容・配布資料の復習</p> <p>【第10回】 予習：これまでの講義内容・配布資料の復習 授業：現代語の名詞・代名詞 復習：講義内容・配布資料の復習</p> <p>【第11回】 予習：講義内容・配布資料の復習 授業：現代語の副詞・連体詞 復習：講義内容・配布資料の復習</p> <p>【第12回】 予習：講義内容・配布資料の復習 授業：現代語の接続詞・感動詞 復習：講義内容・配布資料の復習</p>			

<p>【第13回】 予習：講義内容・配布資料の復習 授業：現代語の助動詞 復習：講義内容・配布資料の復習 【第14回】 予習：講義内容・配布資料の復習 授業：現代語の助詞（1）—助詞の分類— 復習：講義内容・配布資料の復習 【第15回】 予習：これまでの講義内容・配布資料の復習 授業：現代語の助詞（2）—「が」と「は」の違い—・小テスト 復習：講義全体の復習</p>								
授業開始前学習	中学校・高等学校の時に使用した口語文法・古典文法の教科書を通読すること。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業時に実施するワークシートは、次週に解説および個別質問への回答を行う。							
テキスト・教材	特定のテキストは使用せず、必要に応じてプリントを配布する。							
参考書	森山卓郎『ここからはじまる日本語文法』ひつじ書房。他、授業時に適宜紹介する。							
評価の基準と方法	授業内における小テスト2回（80%）、各回のコメントシート（20%）							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	日本語学Ⅱ		
科目分類	111-331-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese Linguistics II	授業区分	講義
科目責任者	石川 創	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石川 創	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40~12:10 金曜日 10:40~12:10 後期 月曜日 10:40~12:10 金曜日 10:40~12:10	研究室	10-510
授業概要	本授業では、日本語の語と語彙について、さまざまな観点から取り上げる。語の音声、意味、語構成、文法、位相の違い等について、現代における指針・規則や国語教育における扱いなどを紹介するとともに、過去から現在にかけてどのような変遷をたどってきたのか、各時代の文学作品や国語辞書等の用例を示しながら具体的に解説する。		
到達目標	①日本語の単語の語種や語構成、アクセント等について正しく理解できる。②年代、性別、地域、文法、文体などを根拠として語を分類し、それぞれの語群の特性について説明できる。③国語辞書の特色や歴史を理解し、適切に辞書を使いこなせる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：英語と日本語の「アクセント」の違いについて考える。 授業：語の音声（音節・拍、アクセント等）と意味（語義、語感等）について（教科書 10 頁から 15 頁）（グループ・ワーク） 復習：復習プリント（日本語の共通語アクセントの規則）に取り組む。</p> <p>【第2回】 予習：予習プリント（日本語の形態素）に取り組む。 授業：日本語の単語の語構成、ならびに語を構成する要素（語基・接辞）について（教科書 16 頁から 21 頁） 復習：復習プリント（日本語の単語の分類）に取り組む。</p> <p>【第3回】 予習：予習プリント（学校文法における品詞分類）に取り組む。 授業：日本語の単語の、語種や品詞による分類について（教科書 36 頁から 43 頁） 復習：復習プリント（現代における混種語）に取り組む。</p> <p>【第4回】 予習：予習プリント（日本語の感情語彙）に取り組む。 授業：日本語の身体語彙や感情語彙について（教科書 44 頁から 55 頁） 復習：復習プリント（類義語と対義語）に取り組む。</p> <p>【第5回】 予習：予習プリント（現代日本語のオノマトペ）に取り組む。 授業：日本語のオノマトペについて（教科書 60 頁から 63 頁） 復習：復習プリント（オノマトペ接尾辞の機能）に取り組む。</p> <p>【第6回】 予習：予習プリント（世界の数詞）に取り組む。 授業：日本語の数詞・助数詞について（教科書 56 頁から 59 頁） 復習：復習プリント（日本語における「数え方」）に取り組む。</p> <p>【第7回】 予習：予習プリント（語種と類義語・対義語）に取り組む。 授業：語同士の意味関係（類義語・対義語、上位語・下位語等）について（教科書 68 頁から 77 頁） 復習：復習プリント（類義語の意味の違い）に取り組む。</p> <p>【第8回】 予習：予習プリント（「国語に関する世論調査」にみることばの変化）に取り組む。 授業：ことばの意味や語形が変化する原理、および語の言い換えについて（教科書 82 頁から 93 頁）（グループ・ワーク） 復習：復習プリント（言い換えと語種）に取り組む。</p> <p>【第9回】 予習：予習プリント（和語と多義語）に取り組む。 授業：和語・漢語の歴史について（教科書 98 頁から 118 頁） 復習：復習プリント（漢語と字音）に取り組む。</p> <p>【第10回】 予習：予習プリント（現代日本語における外来語）に取り組む。 授業：外来語・混種語の歴史について（教科書 119 頁から 125 頁） 復習：復習プリント（外来語の表記）に取り組む。</p> <p>【第11回】 予習：予習プリント（新方言について）に取り組む。 授業：地域のことば（方言語彙）や集団のことば（職業語、挨拶語等）について（教科書 126 頁から 129 頁、148 頁から 151 頁）（グループ・ワーク） 復習：復習プリント（キャンパス言葉について）に取り組む。</p> <p>【第12回】 予習：予習プリント（女性語とは何か）に取り組む。 授業：年齢やジェンダーとことばの関係（若者言葉、女性語・男性語等）について（教科書 130 頁から 135 頁） 復習：復習プリント（若者言葉の語構成）に取り組む。</p>			

<p>【第13回】 予習：予習プリント（商品の命名）に取り組む。 授業：日本語における命名や、文芸のことばについて（教科書 152 頁から 157 頁） 復習：復習プリント（洒落の構造）に取り組む。</p> <p>【第14回】 予習：予習プリント（現代の国語辞書の情報）に取り組む。 授業：現代の国語辞書の特色について（教科書 158 頁から 161 頁）（グループ・ワーク） 復習：復習プリント（現代の国語辞書の語釈）に取り組む。</p> <p>【第15回】 予習：予習プリント（近代の国語辞書の語釈）に取り組む。 授業：日本における辞書の歴史について（教科書 115 頁から 117 頁、158 頁から 161 頁） 復習：復習プリント（近代の新語辞書）に取り組む。</p>								
授業開始前学習	テキスト・参考書を通読し、不明な点を授業前に整理しておくことが望ましい。							
授業内課題の フィードバックの方法	予習・復習プリントを各回の授業において回収し、各学生から寄せられた質問や意見について、次回の授業内で紹介・回答する。							
テキスト・教材	沖森卓也・木村義之・田中牧郎・陳力衛・前田直子『図解 日本の語彙』（三省堂、2011 年）							
参考書	沖森卓也編著、木村一・鈴木功眞・吉田光浩著『日本語ライブラリー 語と語彙』（朝倉書店、2012 年）							
評価の基準と方法	平常点（予習・復習プリントへの取り組み・30%）と定期試験の成績（70%）によって評価を行う。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○		
関連科目	日本語学 I							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	☆古典文学概論		
科目分類	111-331-11 (2022年～入学者) 111-331-12 (～2021年入学者)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Survey of Japanese Classical Literature	授業区分	講義
科目責任者	三田 誠司	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三田 誠司	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10	研究室	10-611
授業概要	本講義は主要な古典文学作品を読み味わいながら、古典を読むときに必要な基礎的知識を再確認し、古典文学研究の基礎作りを行うことを目的とする。具体的には、上代から近世までの主要な日本の古典文学作品を取り上げ、作品の概要や基礎的な事項を解説しながら、近世までの文学の流れについて概観する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で扱った事項に関する簡単な質問に正しく答えることができる。 ・様々なジャンルの古典文学作品の概要を簡潔に説明することができる。 ・文学にあらわれたものの見方や考え方などについて、自分なりの言葉で表現することができる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：古典文学作品のうち、一番興味を持っている作品は何か考えておく 授業：「古典」の意義（授業の目的と内容に関するオリエンテーション） 復習：本授業の目的を理解し、要点をまとめる</p> <p>【第2回】 予習：『古事記』の成立年次を調べておく 授業：『古事記』を読む 復習：『古事記』について感想等をまとめる</p> <p>【第3回】 予習：『万葉集』の歌をインターネットを使って探してみる 授業：『万葉集』を読む 復習：『万葉集』について感想等をまとめる</p> <p>【第4回】 予習：『竹取物語』の冒頭部を読んでおく 授業：『竹取物語』を読む 復習：『竹取物語』について感想等をまとめる</p> <p>【第5回】 予習：『伊勢物語』の成立について調べておく 授業：『伊勢物語』を読む 復習：『伊勢物語』について感想等をまとめる</p> <p>【第6回】 予習：『古今和歌集』の成立年次について調べる 授業：『古今和歌集』を読む 復習：『古今和歌集』について感想等をまとめる</p> <p>【第7回】 予習：『落窪物語』の冒頭部を読んでおく 授業：『落窪物語』を読む 復習：『落窪物語』について感想等をまとめる</p> <p>【第8回】 予習：『源氏物語』と紫式部について調べておく 授業：『源氏物語』を読む 復習：『源氏物語』について感想等をまとめる</p> <p>【第9回】 予習：『新古今和歌集』の成立年次を調べておく 授業：『新古今和歌集』を読む 復習：『新古今和歌集』について感想等をまとめる</p> <p>【第10回】 予習：『今昔物語集』の成立年次について調べておく 授業：『今昔物語集』を読む 復習：『今昔物語集』について感想等をまとめる</p> <p>【第11回】 予習：『徒然草』と兼好法師について調べておく 授業：『徒然草』を読む 復習：『徒然草』について感想等をまとめる</p> <p>【第12回】 予習：「連歌」について調べておく 授業：「連歌」について 復習：連歌について感想等をまとめる</p>			

<p>【第13回】 予習：「俳諧」という語について辞書で確認しておく 授業：「俳諧」について 復習：俳諧について感想等をまとめる</p> <p>【第14回】 予習：『雨月物語』と上田秋成について調べておく 授業：『雨月物語』を読む 復習：『雨月物語』について感想等をまとめる</p> <p>【第15回】 予習：『南総里見八犬伝』と曲亭馬琴について調べておく 授業：『南総里見八犬伝』を読む 復習：『南総里見八犬伝』について感想等をまとめる</p>								
授業開始前学習	なるべく多くの古典文学作品にふれておく（現代語訳のものでもかまわない）。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回の授業内容に対する質問・感想は、次回授業時までには適宜コメントをつけて返却する。							
テキスト・教材	授業担当者が作成した資料を配付する。							
参考書	池田亀鑑『古典学入門』（岩波文庫）、同『平安朝の生活と文学』（ちくま学芸文庫） 田辺聖子『文車日記』（新潮文庫） この他、適宜授業内で紹介する。							
評価の基準と方法	毎回の課題（70%）、レポート（30%）によって判断する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎		△	◎			
関連科目	「日本文学史」「古典文学」							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	近代文学概論		
科目分類	111-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Survey of Modern Japanese Literature	授業区分	講義
科目責任者	木内 英実	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木内 英実	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 10:40～12:10	研究室	10-620
授業概要	明治以降の日本の近代小説の歴史を概説しながら、時代ごとの代表的な作家とその近代を代表する作品を解説する。小説というジャンルが日本に根つき、「文学」の主要な位置を占めるようになってから、どのような発展を遂げてきたかを見ていくと共に、近代から現代へと至る文化の変遷の中で、「文学」の果たした役割について考察する。この授業では課題解決型学習を行う。		
到達目標	明治期において小説というジャンルがどのように形成され、現代の小説の形式につながるのか、その概要を説明できるようになる。小説を中心とした「文学」が、近代から現代へと至る文化の変遷の中でどのような役割を果たしたのかを理解し、それをもとに具体的な作品を論じるための能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：日本近代文学についての自分の知識を確認しておく 授業：授業の進め方について・日本近代文学という枠組みについて（キーワード：近代、欧米の文学、小説、出版メディア、ビルドゥングスroman） 復習：授業の進め方を理解し、授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第2回】 予習：A 教科書「硝子戸の中」を読んでおく 授業：文明開化と「文学」の変容（A 教科書 19-74 頁）（キーワード：文明開化、江戸から東京へ、翻訳小説）（課題解決型学習） 復習：文明開化と文学について学んだことをまとめる</p> <p>【第3回】 予習：A 教科書「硝子戸の中」を読み直す 授業：「小説」とノベル（A 教科書 19～74 頁）（キーワード：ロマンスとノベル、夏目漱石「硝子戸の中」） 復習：夏目漱石について学んだことをまとめる</p> <p>【第4回】 予習：A 教科書「銀の匙」を読んでおく 授業：明治後期の小説文体（A 教科書 24-31 頁）（キーワード：言文一致、文体、自然観察、子ども歳時記） 復習：中勘助について学んだことをまとめる</p> <p>【第5回】 予習：A 教科書「銀の匙」を読み直す 授業：自然主義文学と漱石（A 教科書 24-31 頁 課題 1 提出）（キーワード：自然主義、夏目漱石、木曜会、）（課題解決型学習） 復習：自然主義文学と夏目漱石・中勘助について学んだことをまとめる</p> <p>【第6回】 予習：A 教科書「天龍」を読んでおく 授業：大正文壇の成立と鴉外（DVD『1910年の文学』視聴）（キーワード：森鴉外、「明星」「スバル」、耽美派、谷崎潤一郎、白樺派、志賀直哉） 復習：大正文壇と森鴉外について学んだことをまとめる</p> <p>【第7回】 予習：配付プリント「大正文壇の成立」を読んでおく 授業：大正文壇の成立（DVD『1910年の文学』視聴）（キーワード：耽美派、谷崎潤一郎、白樺派、志賀直哉） 復習：大正文壇について学んだことをまとめる『新思潮』と大正期教養主義について学んだことをまとめる</p> <p>【第8回】 予習：A 教科書「トロッコ」・「風の又三郎」・「久助君の話」を読んでおく 授業：賢治童話・未明童話・南吉童話と「赤い鳥」（A 教科書 47-74 頁、課題 2 提出）（キーワード：御伽噺・文部省唱歌から童謡童話へ）（課題解決型学習） 復習：童謡童話運動・「トロッコ」・「風の又三郎」・「久助君の話」について学んだことをまとめる</p> <p>【第9回】 予習：B 教科書「戦時下の文学」「大衆文学と演劇」を読んでおく 授業：「大衆文学」の成立（DVD『放浪記』視聴 B 教科書 50-126）（キーワード：大衆文学、探偵小説、通俗小説、『キング』） 復習：大衆文学・「放浪記」について学んだことをまとめる</p> <p>【第10回】 予習：A 教科書「風琴と魚の町」「女生徒」を読んでおく 授業：文芸復興と「転向文学」（A 教科書 84-96 頁 B 教科書 201-226）（キーワード：文芸復興、純粋小説、転向文学、太宰治） 復習：林芙美子・太宰治について学んだことをまとめる</p> <p>【第11回】 予習：A 教科書「鮫」「伊豆の踊子」を読んでおく 授業：第二次世界大戦と文学（A 教科書 126-140 頁 B 教科書 27-48 課題 3 提出）（キーワード：女性作家の活躍、言論統制、ノーベル文学賞） 復習：岡本かの子・川端康成について学んだことをまとめる</p>			

<p>【第12回】 予習：B教科書「戦前詩と戦後詩」「短歌と俳句」を読んでおく 授業：戦後文学の展開（B教科書127～178頁）（キーワード：『新日本文学』、『近代文学』、無頼派、戦争体験）（課題解決型学習） 復習：戦後文学について学んだことをまとめる</p> <p>【第13回】 予習：B教科書「第三の新人」「現代の文学へ」を読んでおく 授業：現代の文学（B教科書227-278頁）（キーワード：「日本」という概念、原理原則の脱構築、村上春樹） 復習：現代の文学について学んだことをまとめる</p> <p>【第14回】 予習：配付プリント「世界文学としての日本現代文学」を読んでおく 授業：カズオ・イシグロの文学（DVD『カズオ・イシグロ文学白熱教室』視聴 課題4提出）（キーワード：「日本」という概念、グローバリズム） 復習：世界文学としての日本文学について学んだことをまとめる</p> <p>【第15回】 予習：現代の文学について考える 授業：現代における「文学」の位置づけ（キーワード：映像文化、メディアミックス、文学概念の変容） 復習：これまで学んできたことをもとに日本の近現代文学史について考える</p>								
授業開始前学習	授業に関連する日本の近現代文学作品を出来るだけ読んでおくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内容に関連した授業内課題を提出してもらう。それをもとに解説を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	A『伸び支度 名作に描かれた少年少女』上田博監修（おうふう）、B『昭和の文学を読む』外村彰編（ひつじ書房）							
参考書	『日本近代小説史』安藤宏（中公選書）							
評価の基準と方法	授業内課題（40%）と、学期末レポート（60%）で評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎		△	◎			
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	古典文学 I (上代・中古)		
科目分類	111-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Classical literature I (Ancient Times)	授業区分	講義
科目責任者	三田 誠司	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三田 誠司	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10	研究室	10-611
授業概要	上代・中古の文学に関する基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、日本文学の源泉である『古事記』を取り上げて、同時代の『万葉集』や中古文学と関連付けつつ概説する。一語一語大切に読み解きながら、古典文学の世界に親しみ、現代までつづく「日本文学」の基礎的な問題点について考察を深める。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの興味・関心をもって古典文学作品と向かい合うことができる。 ・授業で取り扱った上代・中古の文学作品について、その要点を自分なりの表現で説明することができる。 		
アクティブ・ラーニング 型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：教材プリント 1 を一読する 授業：『古事記』概説「天地始発」 復習：本時の課題に取り組む（Classroom）</p> <p>【第 2 回】 予習：教材プリント 2 を一読する 授業：「国土生成」 復習：本時の課題に取り組む（Classroom）</p> <p>【第 3 回】 予習：教材プリント 3 を一読する 授業：「神生み」 復習：本時の課題に取り組む（Classroom）</p> <p>【第 4 回】 予習：教材プリント 4 を一読する 授業：「黄泉国訪問」 復習：本時の課題に取り組む（Classroom）</p> <p>【第 5 回】 予習：教材プリント 5 を一読する 授業：「三貴子誕生」 復習：本時の課題に取り組む（Classroom）</p> <p>【第 6 回】 予習：教材プリント 6 を一読する 授業：「天の石戸」 復習：本時の課題に取り組む（Classroom）</p> <p>【第 7 回】 予習：教材プリント 7 を一読する 授業：「ヤマタノオロチ」 復習：本時の課題に取り組む（Classroom）</p> <p>【第 8 回】 予習：教材プリント 8 を一読する 授業：「オオナムチ」 復習：本時の課題に取り組む（Classroom）</p> <p>【第 9 回】 予習：教材プリント 9 を一読する 授業：「大国主」 復習：本時の課題に取り組む（Classroom）</p> <p>【第 10 回】 予習：教材プリント 10 を一読する 授業：「出雲神話」 復習：本時の課題に取り組む（Classroom）</p> <p>【第 11 回】 予習：教材プリント 11 を一読する 授業：「天の若日子」 復習：本時の課題に取り組む（Classroom）</p> <p>【第 12 回】 予習：教材プリント 12 を一読する 授業：「国譲り」 復習：本時の課題に取り組む（Classroom）</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習：教材プリント13を一読する 授業：「天孫降臨」 復習：本時の課題に取り組む（Classroom） 【第14回】 予習：教材プリント14を一読する 授業：「山幸海幸」 復習：本時の課題に取り組む（Classroom） 【第15回】 予習：教材プリント15を一読する 授業：「ウガヤフキアヘズの命」『古事記』上巻のまとめ 復習：本時の課題に取り組む（Classroom）								
授業開始前学習	古事記に関する簡単な概説書を一冊読んでおくことが望ましい。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回の授業の内容の要約および質問感想は、次回授業時まで、教員のコメントを付して返却する。							
テキスト・教材	授業担当者が作成した資料を用いる。							
参考書	授業内で指示する。							
評価の基準と方法	各回の課題（70%）、レポート（30%）により総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	古典文学Ⅱ(中世・近世)		
科目分類	111-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Classical literature II (Middle Ages)	授業区分	講義
科目責任者	大内 瑞恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大内 瑞恵	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	江戸時代の俳諧師、芭蕉の『おくのほそ道』を通して、江戸時代の歴史、地理的感覚、文化、文学を原典資料の画像や絵画・絵図・地図を用いて講義します。 元禄 2 年 (1689)、芭蕉は門人曾良とともに江戸を旅立ち、東北・北陸を巡り、大垣に着き、再び旅立つところで紀行は結ばれます。 この名所・歌枕を訪ね、発句および文を記した本作は、名作として知られています。 俳諧は、「冢瀧や料理何食ふ神祭 (曾良)」のように、各地の行事や風俗を読みこみます。 この授業では、俳諧・紀行文をさまざまな視点から読みこむことによって、日本の歴史と社会、江戸時代の文化や、その文学に親しむことを目標とします。		
到達目標	文学作品を読み、日本語の表現と歴史・社会・文化的背景を理解することができる。 原典資料の画像や絵画・絵図・地図などを見て楽しむことができる。 (1) 季節感と四季の行事 (2) 江戸の文化と旅の風俗 (3) 和歌や古典文学の知識 (4) 狂歌や俳諧の表現 (言葉)		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習 (予習・復習)			
<p>【第 1 回】 予習：『おくのほそ道』全文を通読し、シラバスの内容を確認する 授業：ガイダンス 講義の目的と概要、テキストと参考文献の解説 復習：図書館等で参考文献・データベースの使い方を確認しておく</p> <p>【第 2 回】 予習：テキスト全体に目を通し、その構成を確認する 授業：『おくのほそ道』を知るための基礎知識 (1) 芭蕉と俳諧史概説 復習：連歌・俳諧の展開、芭蕉の経歴・作風を整理する</p> <p>【第 3 回】 予習：テキストの解説を読んでおく 授業：『おくのほそ道』を知るための基礎知識 (2) 旅の目的と創作意識 復習：芭蕉の奥羽行脚の目的と俳文・紀行の執筆意図を確認する</p> <p>【第 4 回】 予習：テキストの「日光山」の章段を読み、内容を把握する 授業：『撰集抄』の正直房と仏五左衛門 復習：『撰集抄』の隠遁者像と仏五左衛門の人物造形についてまとめる</p> <p>【第 5 回】 予習：テキストの「那須野」の章段を読み、内容を把握する 授業：謡曲『錦木』と「草刈るおのこ」これまでの感想の発表と質疑応答 (発表) 復習：謡曲の文句取りとその効果について整理する</p> <p>【第 6 回】 予習：テキストの「雲巖寺」の章段を読み、内容を把握する 授業：『撰集抄』の道歌と「山居の跡」 復習：『撰集抄』の道歌のスタイルをふまえ、仏頂和尚の位置づけを確認する</p> <p>【第 7 回】 予習：テキストの「殺生石」の章段を読み、内容を把握する 授業：謡曲『殺生石』と「石の毒気」 復習：謡曲の世界観を踏まえ、当該章段の描写を読み返す</p> <p>【第 8 回】 予習：テキストの「遊行柳」の章段を読み、内容を把握する 授業：謡曲『遊行柳』と「清水ながるるの柳」 復習：西行和歌・謡曲の筋立て・芭蕉発句の関係性を整理する</p> <p>【第 9 回】 予習：テキストの「安積山・信夫の里」の章段を読み、内容を把握する 授業：謡曲『黒塚 (安達原)』と「黒塚の岩屋」 復習：本文の中では語られない「岩屋一見」の意義を謡曲により補完する</p> <p>【第 10 回】 予習：テキストの「瑞巖寺」の章段を読み、内容を把握する 授業：『撰集抄』の見仏上人と瑞巖寺 これまでの感想の発表と質疑応答 (発表) 復習：見仏上人への追慕と『撰集抄』との関わりをまとめる</p>			

<p>【第 11 回】 予習：テキストの「平泉」の章段を読み、内容を把握する 授業：謡曲『邯鄲』と「栄耀一睡」 復習：「一睡」が正しくは「一炊」であることの意味を確認する</p> <p>【第 12 回】 予習：テキストの「市振」の章段を読み、内容を把握する 授業：江口の遊女と市振の遊女 復習：遊女との同宿という状況を演出した芭蕉の意図を考える</p> <p>【第 13 回】 予習：テキストの「小松」の章段を読み、内容を把握する 授業：謡曲『実盛』と「太田の神社」 復習：斎藤別当実盛の逸話をふまえ、章段全体を読み直す</p> <p>【第 14 回】 予習：これまでの学習内容を整理しておく 授業：到達度確認テスト（記述式・持ち込み可予定） 復習：テスト問題とプリントを照らし合わせ、出題箇所を確認する</p> <p>【第 15 回】 予習：自己のテスト回答を確認しておく 授業：到達度確認テストの講評と返却、これまでの感想の発表と質疑応答（発表） 復習：学修内容全体を振り返り、自己の理解度を確認する</p>								
授業開始前学習	テキスト以外の書籍・媒体でも構わないので、『おくのほそ道』全体を読んでおく。							
授業内課題の フィードバックの方法	リアクションペーパー：毎時間、授業内でコメント。 到達度確認テスト：第 15 回授業において解説。							
テキスト・教材	瀬原退蔵・尾形仿訳注『新版 おくのほそ道』（角川ソフィア文庫・KADOKAWA 2003 年） ほか、授業時にプリントを配布する。							
参考書	尾形仿ほか編『俳文学大辞典』角川書店、1995 年 ※同内容の普及版（2008 年刊）もある。 井本農一ほか校注訳『新編日本古典文学全集 松尾芭蕉集②』小学館、1997 年 堀切実編『おくのほそ道』解釈事典』東京堂出版、2003 年 西野春雄校注『新日本古典文学大系 謡曲百番』岩波書店、1998 年 等							
評価の基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> 到達度確認テストの成績（60%） リアクションペーパー・発表・質疑応答（40%） 							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○		
関連科目								
その他	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業時にリアクションペーパーを配布し、授業に対する質問・感想を記入。 記載内容は予定であり、開講時の状況や聴講者の関心・理解度に応じて変更する可能性がある。 							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	日本文学史 I		
科目分類	111-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	History of Japanese Literature I	授業区分	講義
科目責任者	三田 誠司	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三田 誠司	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10	研究室	10-611
授業概要	本講義は上代から中古までの日本の文学作品を通時的に学び、基礎的な知識を修得し、文学の史的展開について理解することを目的とする。具体的には『古今和歌集』などの和歌文学や『竹取物語』『源氏物語』などの物語文学など、各時代を代表するジャンルの作品を取り上げ、作品・作者について概説しながら、基礎的な知識を身につけさせるとともに、時代と作品との関連性や、文学形態の発展過程等、文学の史的展開について考察していく。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各時代における主要な作品名・作者名・成立時等を正しく答えることができる。 上代から中古に至る文学史の流れを、各ジャンルを意識しつつ総括的に論述することができる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：日本史の時代区分について再確認しておく 授業：文学史に求められるもの（授業の内容と目的に関するオリエンテーション） 復習：授業内容を整理し、要点をまとめる</p> <p>【第 2 回】 予習：前回配付の資料を一読しておく 授業：奈良時代以前の漢文系作品 復習：本時の内容について概要をまとめる</p> <p>【第 3 回】 予習：ミニテストに備える 授業：奈良時代以前の和歌とその周辺 復習：万葉集について概要をまとめる</p> <p>【第 4 回】 予習：ミニテストに備える 授業：平安時代初期の漢詩と漢文 復習：勅撰漢詩集や六国史について概要をまとめる</p> <p>【第 5 回】 予習：ミニテストに備える 授業：平安時代初期の和歌 復習：平安時代初期の歌人について概要をまとめる</p> <p>【第 6 回】 予習：ミニテストに備える 授業：平安時代初期の物語・日記 復習：歌物語と作り物語について概要をまとめる</p> <p>【第 7 回】 予習：ミニテストに備える 授業：平安時代中期の漢詩と漢文 復習：平安時代中期の漢詩集などについて概要をまとめる</p> <p>【第 8 回】 予習：ミニテストに備える 授業：平安時代中期の和歌 復習：平安時代中期のおもな歌人について概要をまとめる</p> <p>【第 9 回】 予習：ミニテストに備える 授業：平安時代中期の物語・日記（前編） 復習：村上朝から一条朝の物語類について概要をまとめる</p> <p>【第 10 回】 予習：ミニテストに備える 授業：平安時代中期の物語・日記（後編） 復習：一条朝以降の物語類の概要をまとめる</p> <p>【第 11 回】 予習：ミニテストに備える 授業：平安時代後期の漢詩・漢文 復習：後期の漢詩・漢文の流れを整理する</p> <p>【第 12 回】 予習：ミニテストに備える 授業：平安時代後期の和歌 復習：平安時代後期の和歌について概要をまとめる</p>			

<p>【第13回】 予習：ミニテストに備える 授業：平安時代後期の物語・日記 復習：平安時代後期の物語類について概要をまとめる</p> <p>【第14回】 予習：ミニテストに備える 授業：平安時代後期の説話・歴史物語 復習：平安時代後期の説話作品と歴史物語の主要な作品について概要をまとめる</p> <p>【第15回】 予習：ミニテストに備える 授業：上代から中古の文学的展開（まとめ） 復習：平安時代の文学状況全体を整理し、重要な作品の特色と意義をまとめる</p>								
授業開始前学習	様々な日本の文学作品に広く触れておくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内容に関するミニテストを実施、または課題を提出させ、次回以降返却する。							
テキスト・教材	『日本古典文学史』乾安代ほか編 暁印書館 ほか、授業時にプリントを配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	授業内の課題（70%）、期末試験またはレポート（30%）による。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○	○	
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	日本文学史Ⅱ		
科目分類	111-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	History of Japanese Literature Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	大内 瑞恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大内 瑞恵	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	この授業は、中世から近世までの日本の文学作品を、読み楽しむことができることを目的とする。歴史的な流れ、作品を読解するための基本的な知識を身につけて、古典文学がいかに関現代の生活に影響しているかを考察する。古代から続く「和歌」・「物語」を基本として、中世・近世において広まった「連歌」「俳諧」のおもしろさを味わっていただきたい。そして、「能」「浄瑠璃・歌舞伎」といった芸能や、近世の「小説」に至る流れを把握し、理解し、楽しむものである。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中世から近世にかけての主要な作品・作者について簡潔に説明できること。 ・現代の文学・芸能への影響関係を理解し、楽しむことができること。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：日本の中世から近世の歴史について書籍等で概観しておく 授業：ガイダンス 講義の目的と概要、参考文献の解説、本講義に関する課題の案内 復習：課題への回答作成</p> <p>【第 2 回】 予習：勅撰和歌集、とくに『新古今和歌集』について調べておく 授業：鎌倉時代の和歌と連歌 一連歌とは何か一 復習：鎌倉時代の和歌と連歌の歴史について整理する</p> <p>【第 3 回】 予習：鎌倉時代の主な物語などについて調べておく 授業：鎌倉時代の物語・随筆・日記 一方丈記・十六夜日記一 復習：主な物語・日記類について概要をまとめておく</p> <p>【第 4 回】 予習：室町時代について概要を調べておく 授業：室町時代の和歌と連歌 一宗祇・正風連歌と俳諧連歌一 復習：連衆と付合の文芸について考えたことをまとめておく</p> <p>【第 5 回】 予習：室町時代後期、戦国時代について調べておく 授業：室町時代の物語・日記・紀行・芸能 一能・狂言・連歌師の紀行文一 復習：中世文芸の特色についてまとめる</p> <p>【第 6 回】 予習：江戸時代の歴史について概要を調べておく 授業：江戸時代前期の和歌と俳諧 一後水尾院・堂上歌壇・貞門俳諧・談林俳諧一 復習：貞門俳諧、談林俳諧の特色についてまとめておく</p> <p>【第 7 回】 予習：江戸時代の出版事情について調べておく 授業：江戸時代前期の物語・小説 一仮名草子・浮世草子一 復習：井原西鶴についてまとめておく</p> <p>【第 8 回】 予習：貞門俳諧・談林俳諧について特色を再確認しておく 授業：江戸時代中期の和歌と俳諧 1 一堂上歌学批判・芭蕉の俳諧 1一 復習：芭蕉の俳風の変遷を整理する</p> <p>【第 9 回】 予習：元禄時代に活躍した芭蕉以外の俳人について調べておく 授業：江戸時代中期の和歌と俳諧 2 一芭蕉の俳諧 2・蕉門十哲・蕉風その後・雑俳 復習：「前句付」課題に取り組む</p> <p>【第 10 回】 予習：前句付け課題に取り組む 授業：江戸時代中期の小説・芸能 一黄表紙・洒落本など一 「前句付」課題発表（発表） 復習：江戸時代中期の小説類についてまとめておく</p> <p>【第 11 回】 予習：浄瑠璃について調べておく 授業：浄瑠璃一近松門左衛門 復習：浄瑠璃などについてまとめておく</p> <p>【第 12 回】 予習：歌舞伎について調べておく 授業：歌舞伎 復習：歌舞伎などについてまとめておく</p>			

<p>【第 13 回】 予習：馬琴など江戸時代後期の戯作者について調べておく 授業：江戸時代後期の小説類 一読本・人情本・滑稽本・合巻など 復習：江戸時代後期の小説類について要点をまとめておく</p> <p>【第 14 回】 予習：到達度確認テストにむけて準備する 授業：到達度確認テストと中世・近世の文学に関する意見交換（ディスカッション） 復習：テスト問題とプリントを照らし合わせ、出題箇所を確認する</p> <p>【第 15 回】 予習：自己のテスト解答を確認しておく 授業：到達度確認テストの講評、返却、質疑応答 復習：学修内容全体を振り返り、自己の理解度を確認する</p>								
授業開始前学習	江戸時代の文学に関連する書籍・漫画・メディア作品のいずれかに触れておく。 第 1 回の課題で関連する出題がある（委細は第 1 回の授業時に説明する）。							
授業内課題の フィードバックの方法	各回の授業に対する質問・感想、第 1 回課題：次回以降の授業内で適宜言及。 前句付：第 10 回の発表時にコメント。 到達度確認テスト：第 15 回授業において講評・解説。							
テキスト・教材	『日本古典文学史』乾安代ほか編 暁印書館 ほか、授業時にプリントを配布する。							
参考書	授業内で適宜紹介する。							
評価の基準と方法	・到達度確認テストの成績（60%） ・リアクションペーパー・第 1 回課題・前句付等の小課題（40%）							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○	○	
関連科目								
その他	・各回の授業時、リアクションペーパーに授業を通して理解した点、質問・感想を記入してもらう。 ・記載内容は予定であり、開講時の状況や聴講者の関心・理解度に応じて変更する可能性がある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	近現代文学 I (近代)		
科目分類	111-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Modern and Contemporary Literature I (Modern)	授業区分	講義
科目責任者	木内 英実	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木内 英実	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 10:40～12:10	研究室	10-620
授業概要	明治期後半の日本の近代小説の中から、夏目漱石「坊っちゃん」、田山花袋「少女病」、志賀直哉「小僧の神様」、谷崎潤一郎「夢喰ふ蟲」を読む。小説の内容と時代背景を理解し、小説に描かれている事物の同時代的な意味を把握する。その上で、人物の造型や心理、小説の文体や描写、語りの構造などについての考察を行っていく。この授業では課題解決型学習を行う。		
到達目標	明治期の小説を読んでその内容を理解し、当時の小説の文体や描写の特徴を読み取ることができる。夏目漱石、田山花袋、志賀直哉、谷崎潤一郎といった当時の作家たちに関する知識を学び、その作品の傾向や、どのように評価されてきたかを説明できるようになる。小説についての自分の意見を、根拠を示しながら論理的に説明する能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：明治期の日本近代文学について自分の知識を確認しておく 授業：授業の進め方について・明治期後半の近代小説についての説明（キーワード：近代小説、言文一致、自然主義、日露戦争） 復習：授業の進め方を理解し、授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第2回】 予習：「坊っちゃん」を読んでおく 授業：夏目漱石「坊っちゃん」を読む1（教科書 142～155 頁、夏目漱石について・英国留学との関わり・小説家になるまで）（キーワード：夏目漱石、英国留学、「文学論」） 復習：夏目漱石と「坊っちゃん」について、授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第3回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：夏目漱石「坊っちゃん」を読む2（内容の説明と構成・課題1提出）（キーワード：松山、正岡子規、「ホトギス」）（課題解決型学習） 復習：「坊っちゃん」の内容と構成について、授業で学んだことをまとめ、課題1に取り組む</p> <p>【第4回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：夏目漱石「坊っちゃん」を読む3（人物の造型や心理に関する分析）（キーワード：「おれ」の人物造型、「清」・「赤シャツ」の人物像系） 復習：人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第5回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：夏目漱石「坊っちゃん」を読む4（小説の文体や描写・本文異同・語りの構造に関する分析・課題1解説）（キーワード：文体の特徴、語りの構造、歴史と創作） 復習：授業で学んだことをもとに、「坊っちゃん」についての自分の意見をまとめる</p> <p>【第6回】 予習：「少女病」を読んでおく 授業：田山花袋「少女病」を読む1（教科書 83～97 頁、田山花袋について・内容の説明と構成・課題2提出）（キーワード：田山花袋、自然主義、平面描写、日露戦争、都市空間）（課題解決型学習） 復習：田山花袋と「少女病」について、授業で学んだことをまとめ、課題2に取り組む</p> <p>【第7回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：田山花袋「少女病」を読む2（人物の造型や心理に関する分析）（キーワード：「かれ」の人物造型、「かれ」の心理、「かれ」の死） 復習：人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第8回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：田山花袋「少女病」を読む3（小説の文体や描写・語りの構造に関する分析・課題2解説）（キーワード：平面描写による文体、語りの構造、無理想無解決） 復習：授業で学んだことをもとに、「少女病」についての自分の意見をまとめる</p> <p>【第9回】 予習：「小僧の神様」を読んでおく 授業：志賀直哉「小僧の神様」を読む1（教科書 9～19 頁、志賀直哉について・内容の説明と構成・課題3提出）（キーワード：志賀直哉、白樺派、理想主義とリアリズム、小説の神様）（課題解決型学習） 復習：志賀直哉と「小僧の神様」について、授業で学んだことをまとめ、課題3に取り組む</p> <p>【第10回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：志賀直哉「小僧の神様」を読む2（人物の造型や心理に関する分析）（キーワード：「仙吉」及び「A」の人物造型、「B」及び「細君」の人物造型、） 復習：人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる</p>			

<p>【第11回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：志賀直哉「小僧の神様」を読む3（小説の文体や描写・語りの構造に関する分析・課題3解説）（キーワード：簡潔な文体、テキスト論、メタフィクション） 復習：授業で学んだことをもとに、「小僧の神様」についての自分の意見をまとめる</p> <p>【第12回】 予習：「蓼喰ふ蟲」を読んでおく 授業：谷崎潤一郎「蓼喰ふ蟲」を読む1（教科書185～201頁、谷崎潤一郎について・内容の説明と構成・課題4提出）（キーワード：谷崎潤一郎、耽美派、新聞小説、上方文化）（課題解決型学習） 復習：谷崎潤一郎と「蓼喰ふ蟲」について、授業で学んだことをまとめ、課題4に取り組む</p> <p>【第13回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：谷崎潤一郎「蓼喰ふ蟲」を読む2（人物の造型や心理に関する分析）（キーワード：語り手の「要」、「美佐子」「お久」「老人」の人物造型） 復習：人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第14回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：谷崎潤一郎「蓼喰ふ蟲」を読む3（小説の文体や描写・語りの構造に関する分析・課題4解説）（キーワード：文体の特徴、語りの構造、挿絵、メディア） 復習：授業で学んだことをもとに、「蓼喰ふ蟲」についての自分の意見をまとめる</p> <p>【第15回】 予習：これまでの授業で学んだことを読み返す 授業：明治期後半における作家・作品の位置づけ（キーワード：自然主義、芸術と実生活、日露戦争の影響） 復習：明治期後半の小説について授業で学んだことをまとめる</p>								
授業開始前学習	授業で扱う文学作品を事前に読んでおくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業で取り上げる4つの作品について、それぞれ授業内課題を提出してもらう。それをもとに解説を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	『大学生のための文学トレーニング 近代編』河野龍也、佐藤淳一、古川裕佳、山根龍一、山本良編著（三省堂）							
参考書	『大学生のための文学トレーニング 現代編』浅野麗、小野祥子、河野龍也、佐藤淳一、山根龍一、山本良編著（三省堂）							
評価の基準と方法	授業内課題（40%）と学期末レポート（60%）で評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成	社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成	日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成	日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	近現代文学Ⅱ(現代)		
科目分類	111-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Modern and Contemporary Literature Ⅱ (Contemporary)	授業区分	講義
科目責任者	木内 英実	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木内 英実	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 10:40～12:10	研究室	10-620
授業概要	第二次世界大戦後のいわゆる「戦後文学」と呼ばれる小説の中から、石川淳「焼跡のイエス」、三島由紀夫「卒塔婆小町」、深沢七郎「榎山節考」、石牟礼道子「ゆき女きき書き」を読む。小説の内容と時代背景を理解し、小説に描かれている事物の同時代的な意味を把握する。その上で、人物の造型や心理、小説の文体や描写、語りの構造などについての考察を行っていく。この授業では課題解決型学習を行う。		
到達目標	第二次世界大戦後のいわゆる「戦後文学」と呼ばれる小説を読んでその内容を理解し、当時の小説の文体や描写の特徴を読み取ることができる。 石川淳、三島由紀夫、深沢七郎、石牟礼道子といった当時の作家たちに関する知識を学び、その作品の傾向や、どのように評価されてきたかを説明できるようになる。 小説についての自分の意見を、根拠を示しながら論理的に説明する能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：第二次世界大戦後の「戦後文学」について自分の知識を確認しておく 授業：授業の進め方の説明・第二次世界大戦後の「戦後文学」についての説明（キーワード：敗戦、GHQの占領政策、価値観の変容、雑誌の創刊・復刊） 復習：授業の進め方を理解し、授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第2回】 予習：「焼跡のイエス」を読んでおく 授業：石川淳「焼跡のイエス」を読む1（『大学生のための文学トレーニング 近代編』128～140頁、石川淳について・内容の説明と語釈・課題1出題）（キーワード：石川淳、フランス文学、芥川賞、無頼派、闇市、浮浪児）（課題解決型学習） 復習：授業で学んだことをまとめ、課題1に取り組む</p> <p>【第3回】 予習：前回学んだことをもとに「焼跡のイエス」を読み直す 授業：石川淳「焼跡のイエス」を読む2（人物の造型や心理に関する分析）（キーワード：闇市の中の「わたし」、上野の闇市の描写、少年の行動） 復習：人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第4回】 予習：前回学んだことをもとに「焼跡のイエス」を読み直す 授業：石川淳「焼跡のイエス」を読む3（小説の文体や描写・語りの構造に関する分析・課題1解説）（キーワード：「わたし」の語り口、SCAP、言論統制） 復習：授業で学んだことをもとに、「焼跡のイエス」について自分の意見をまとめる</p> <p>【第5回】 予習：「卒塔婆小町」を読んでおく 授業：三島由紀夫「卒塔婆小町」を読む1（教科書24～37頁、三島由紀夫について・内容の説明と語釈・課題2出題）（キーワード：三島由紀夫、「近代能楽集」、卒塔婆小町）（課題解決型学習） 復習：授業で学んだことをまとめ、課題2に取り組む</p> <p>【第6回】 予習：前回学んだことをもとに「卒塔婆小町」を読み直す 授業：三島由紀夫「卒塔婆小町」を読む2（人物の造型や心理に関する分析）（キーワード：詩人の美的体験、老婆の美的体験） 復習：人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第7回】 予習：前回学んだことをもとに「卒塔婆小町」を読み直す 授業：三島由紀夫「卒塔婆小町」を読む3（小説の文体や描写・語りの構造に関する分析・課題2解説）（キーワード：美の認識、間テクスト性、言葉の力） 復習：授業で学んだことをもとに、「卒塔婆小町」について自分の意見をまとめる</p> <p>【第8回】 予習：「榎山節考」を読んでおく 授業：深沢七郎「榎山節考」を読む1（教科書76～101頁、深沢七郎について・内容の説明と語釈・課題3出題）（キーワード：深沢七郎、説話的設定、オリエンタリズム）（課題解決型学習） 復習：授業で学んだことをまとめ、課題3に取り組む</p> <p>【第9回】 予習：前回学んだことをもとに「榎山節考」を読み直す 授業：深沢七郎「榎山節考」を読む2（人物の造型や心理に関する分析）（キーワード：オリエンタリズムとジェンダー、自己犠牲、他者） 復習：人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第10回】</p>			

予習：前回学んだことをもとに「楢山節考」を読み直す
 授業：深沢七郎「楢山節考」を読む3（小説の文体や描写・語りの構造に関する分析・課題3解説）（キーワード：説話的な語り、オリエンタリズム、グロテスクと神聖）
 復習：授業で学んだことをもとに、「楢山節考」について自分の意見をまとめる
 【第11回】
 予習：「ゆき女さき書き」を読んでおく
 授業：石牟礼道子「ゆき女さき書き」を読む1（教科書102～123頁、石牟礼道子について・「苦海浄土」について・課題4出題）（キーワード：石牟礼道子、水俣病患者、「苦海浄土」）（課題解決型学習）
 復習：授業で学んだことをまとめ、課題4に取り組む
 【第12回】
 予習：前回のノートを見ながら「ゆき女さき書き」を読み直す
 授業：石牟礼道子「ゆき女さき書き」を読む2（内容の説明と語釈）（キーワード：水俣病患者、坂上ゆきの語り、サバルタン）
 復習：作品の内容について授業で学んだことをまとめる
 【第13回】
 予習：前回学んだことをもとに「ゆき女さき書き」を読み直す
 授業：石牟礼道子「ゆき女さき書き」を読む3（人物の造型や心理に関する分析・課題4解説）（キーワード：他者を語ることの困難、環境問題、自然観）
 復習：人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる
 【第14回】
 予習：前回学んだことをもとに「ゆき女さき書き」を読み直す
 授業：石牟礼道子「ゆき女さき書き」を読む4（小説の文体や描写、語りの構造に関する分析）（キーワード：文体の特徴、私の語りと「ゆき女」に「あんた」と呼ばれる私、語りの構造）
 復習：授業で学んだことをもとに、「ゆき女さき書き」について自分の意見をまとめる
 【第15回】
 予習：これまで授業で学んだことをもとに各作品を読み直す
 授業：「戦後文学」における作家・作品の位置づけ（キーワード：価値観の変容、戦争体験、時代状況との関わり）・学期末レポート提出
 復習：「戦後文学」について授業で学んだことをまとめる

授業開始前学習	授業で扱う文学作品を事前に読んでおくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業で取り上げる4つの作品について、それぞれ授業内課題を提出してもらう。それをもとに解説を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	『大学生のための文学トレーニング 現代編』浅野麗、小野祥子、河野龍也、佐藤淳一、山根龍一、山本良編著（三省堂）							
参考書	『大学生のための文学トレーニング 近代編』河野龍也、佐藤淳一、古川裕佳、山根龍一、山本良編著（三省堂）、『昭和の文学を読む』外村彰編（ひつじ書房）							
評価の基準と方法	授業内課題（40%）と学期末レポート（60%）で評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	中国文学 I (漢文学)		
科目分類	111-331-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Chinese Literature I (Written Chinese)	授業区分	講義
科目責任者	長谷川 清貴	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	長谷川 清貴	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	中国文学（漢文学）で用いられる漢字・漢語は、日本語の必須構成要素である。日本人は文字獲得に漢字を採用し、漢字漢語を学び取り入れつつ日本語を発展させた。また、日本人の教育・教養において中国文学は長く重要な地位を占め、知識のみならず人生や政治の指針を得る対象であった。現代では相対的に地位は低下しているが、今なお中国文学を学ぶことは、日本語を見つめる上でも、生き方を考える上でも大切である。本授業は、漢字漢語・中国文学の基本内容と訓読法、あわせて教科教育としての国語・漢文に必要な知識について解説する。		
到達目標	1、漢字・漢語の特徴について理解し、正しい訓読ができる力を身につける。 2、中国の文学・歴史・思想について基本的な知識を獲得する。 3、日本語・日本文学と漢語・中国文学の関係について理解する。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第 1 回】 予習：教科書『精講 漢文』第一章「漢文入門」を熟読する 授業：言語 1 漢字と漢文学・中国文学 復習：漢字の特徴についてまとめる 【第 2 回】 授業：言語 2 漢語・中国語と日本語とのちがい 復習：漢語の特徴と、日本語とのちがいについてまとめる 【第 3 回】 授業：言語 3 漢文訓読 復習：漢文訓読の歴史・意義・訓読法についてまとめる 【第 4 回】 予習：教科書『精講 漢文』第二章「歴史」を熟読する 授業：文章 1 故事成語とその背景／日本人と漢文教材（グループワーク） 復習：漢文教材の分類と故事成語についてまとめる 【第 5 回】 授業：文章 2 史伝とその位置づけ（1）——『十八史略』 復習：中国の王朝の変遷についてまとめる 【第 6 回】 授業：文章 3 史伝とその位置づけ（2）——紀伝体と編年体 復習：中国の歴史書の特徴についてまとめる 【第 7 回】 予習：教科書『精講 漢文』第三章「詩文」第一・二・四節を熟読する 授業：文学 1 古人のうた——『詩経』と『楚辞』 復習：韻文と散文、『詩経』と『楚辞』についてまとめる 【第 8 回】 授業：文学 2 古体詩と近体詩 復習：中国詩の特徴についてまとめる 【第 9 回】 授業：文学 3 唐詩の世界（1）——唐詩の重要性と時期区分 復習：唐詩の重要性と時期区分についてまとめる 【第 10 回】 予習：教科書『精講 漢文』第三章「詩文」第六・七節を熟読する 授業：文学 4 唐詩の世界（2）——李白と杜甫（グループワーク） 復習：李白と杜甫についてまとめる 【第 11 回】 授業：文学 5 唐詩の世界（3）——中唐・晩唐の詩人 復習：中唐・晩唐の詩人についてまとめる 【第 12 回】 授業：歴史 1 王朝の盛衰と交代——夏・殷・周・春秋・戦国時代 復習：王朝の盛衰と交代についてまとめる 【第 13 回】 予習：教科書『精講 漢文』第五章「思想」第一・二節を熟読する 授業：思想 1 孔子と『論語』（1）——孔子の生涯と思想 復習：孔子の生涯と思想についてまとめる			

<p>【第14回】 授業：思想2 孔子と『論語』（2）——孔子と門人（ディスカッション） 復習：孔子と門人との関わり方についてまとめる 【第15回】 授業：中国の文学・歴史・思想の総合 復習：中国の文学・歴史・思想の関係についてまとめる</p>								
授業開始前学習	教科書『精講 漢文』は難しくはないが大部であるため、「各回の授業内容と課題学習（予習・復習）」を参照し、授業開始前に読み込みを進めてほしい。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業時に実施する小テストについては、採点して次回授業時に返却する。							
テキスト・教材	<ul style="list-style-type: none"> ・前野直彬『精講 漢文』筑摩書房（ちくま学芸文庫） ・戸川芳郎他『全訳 漢辞海（第四版）』三省堂 ・その他、適宜講義内で資料を配付する。 							
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・井波律子『故事成語でたどる楽しい中国史』岩波書店（岩波ジュニア新書） ・高島俊男『李白と杜甫』講談社（講談社学術文庫） ・渋沢栄一『論語と算盤』角川書店（角川ソフィア文庫） 							
評価の基準と方法	小テスト 30%、レポート 40%、授業態度 30%							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎		○	
関連科目								
その他	漢和辞典・漢文文法書については「テキスト・教材」に挙げたものに統一し、活用していく。毎時間持参のこと。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	中国文学Ⅱ(漢文学)		
科目分類	111-331-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Chinese LiteratureⅡ (Written Chinese)	授業区分	講義
科目責任者	長谷川 清貴	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	長谷川 清貴	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	前期「中国文学Ⅰ(漢文学)」に引き続き、中国文学の基本的内容を解説する(「中国文学Ⅰ」の内容はごく要約して示すが、履修しておくことが望ましい)が、後期ではそれに加えて、教科教育としての国語・漢文において、これまでの学修内容をいかに活用して漢字・漢文を教えるかについても探究する。実際の教材に即して調査し、読解・鑑賞することを通して、基礎知識を応用し、総合的に発展させることを目指す。		
到達目標	1、中国の文学・歴史・思想について基本的な知識を獲得し、その関係を理解する。 2、教科教育における漢字・漢文の活用の方法を考え、修得する。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
<p>【第1回】 予習：教科書『精講 漢文』第五章「思想」第一・二節を熟読する 授業：思想1 孔子の後継者たちと対立者たち——諸子百家(1) 儒家：孟子・荀子(ディスカッション) 復習：孟子・荀子の思想についてまとめる</p> <p>【第2回】 授業：思想2 孔子の後継者たちと対立者たち——諸子百家(2) 道家・墨家 復習：道家・墨家の思想についてまとめる</p> <p>【第3回】 授業：思想3 孔子の後継者たちと対立者たち——諸子百家(3) 法家 復習：法家の思想についてまとめる</p> <p>【第4回】 予習：教科書『精講 漢文』第二章「歴史」を熟読する 授業：歴史1 司馬遷と『史記』(グループワーク) 復習：司馬遷と『史記』についてまとめる</p> <p>【第5回】 授業：歴史2・思想4 儒教の確立と学問の大系 復習：儒教の確立と学問の大系についてまとめる</p> <p>【第6回】 授業：総合1 文学・歴史・思想の関係 復習：中国の文学・歴史・思想の関係についてまとめる</p> <p>【第7回】 予習：教科書『精講 漢文』第三章「詩文」第七・八節／第四章「小説」第一～三節を熟読する 授業：文学1 唐宋八大家の文章 復習：唐宋八大家についてまとめる</p> <p>【第8回】 授業：文学2 知識人と民衆の文学 復習：中国小説の特徴についてまとめる</p> <p>【第9回】 授業：国語教育における漢字漢語の役割 復習：国語教育における漢字漢語の役割についてまとめる</p> <p>【第10回】 予習：教科書『精講 漢文』第六章「日本の漢文学」第一・二節を熟読する 授業：故事成語・寓話 ～教材研究の方法(グループワーク) 復習：教材研究の方法についてまとめる</p> <p>【第11回】 授業：唐詩の鑑賞 ～鑑賞のための主要事項 復習：唐詩の鑑賞についてまとめる</p> <p>【第12回】 授業：史伝の鑑賞「項羽と劉邦」(1) ——登場人物を整理して読む 復習：項羽と劉邦の争いについてまとめる</p> <p>【第13回】 予習：『精講 漢文』中の項羽と劉邦に関する記述部分を調べて熟読する 授業：史伝の鑑賞「項羽と劉邦」(2) ——前提知識を生かして読む(ディスカッション) 復習：「項羽と劉邦」の読み方についてまとめる</p> <p>【第14回】 授業：総合学習 ～「長恨歌」(1) ——時代・作者の理解を生かす 復習：「長恨歌」についてまとめる</p>			

<p>【第15回】 授業：総合学習 ～「長恨歌」（2）——登場人物に感情移入する／総括（ディスカッション） 復習：中国文学作品の読み方についてまとめる</p>								
授業開始前学習	教科書『精講 漢文』は難しくはないが大部であるため、「各回の授業内容と課題学習（予習・復習）」を参照し、授業開始前に読み込みを進めてほしい。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業時に実施する小テストについては、採点して次回授業時に返却する。							
テキスト・教材	<ul style="list-style-type: none"> ・前野直彬『精講 漢文』筑摩書房（ちくま学芸文庫） ・戸川芳郎他『全訳 漢辞海（第四版）』三省堂 ・その他、適宜講義内で資料を配付する。 							
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・井波律子『故事成語でたどる楽しい中国史』岩波書店（岩波ジュニア新書） ・加藤徹『漢文の素養～誰が日本文化をつくったのか？～』光文社（光文社新書） ・司馬遼太郎『項羽と劉邦』新潮社（新潮文庫） 							
評価の基準と方法	小テスト 30%、レポート 40%、授業態度 30%							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎		○	
関連科目								
その他	漢和辞典・漢文文法書については「テキスト・教材」に挙げたものに統一し、活用していく。常時参照のこと。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	書道実習 I		
科目分類	111-331-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Calligraphy Practice I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	日向 雅之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	日向 雅之	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	1) 道具を用意する・片付けるといった、書道の実習を行う。 2) 基本的な楷書課題について、分析・理解し、実技と添削指導により、提出作品を完成させる。 3) 学生自身による実習を行い、氏名点呼・範書を経験する。 4) 中学校書写の指導理論について、教科書『国語科書写の理論と実践！』（菅原書房）を用いて講義を聞きレポートを作成する。		
到達目標	1) 書道の実技の実施において、準備・揮毫・片付けまでを確実に行うことができる。 2) 基礎的な楷書・行書の課題について、分析と理解を深め、書技を高める。 3) 学生自身の実習で、氏名点呼・範書を経験することで、教師としての資質を高める。 4) 中学書写の指導理論を、課題レポートにより習得する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：授業のテーマ・到達目標を事前に読了し、理解しておくこと。 授業：講座案内、書写指導の意義と概論（テキスト4 p～5 p） 復習：実技をするために必要な内容について確認する。</p> <p>【第2回】 予習：テキスト34、35 pの楷書に調和するひらがなの欄を読んで、予習しておくこと。 授業：実技-楷書に調和するひらがな 復習：楷書に調和するひらがなについて再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第3回】 予習：テキスト36、37 pの楷書に調和する片仮名の欄を読んで、予習しておくこと。 授業：実技-楷書に調和する片仮名 復習：楷書に調和する片仮名について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第4回】 予習：テキスト38、39 pの楷書と字形を読み予習しておくこと。 授業：実技-楷書と字形 復習：楷書と字形について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第5回】 予習：テキスト44 p～45 pの筆順について、予習しておくこと。 授業：実技-楷書基本点画に複数のバリエーションがあることを理解する。課題「左右」 復習：基本点画の変化について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第6回】 予習：テキスト46 p～47 p点画の長短について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「山寺」 復習：楷書の筆順について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第7回】 予習：テキスト48 p、49 pの点画の方向について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「友人」 復習：点画の方向について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第8回】 予習：テキスト50 p～51 pの点画の接し方について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「日光」 復習：点画の接し方について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第9回】 予習：テキスト52 p～53 p点画の交わり方について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「文武」 復習：点画の交わり方について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第10回】 予習：テキスト54 p～55 pの左右から成る文字の組み立て方について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「金銀」 復習：左右から成る文字の組み立て方について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第11回】 予習：テキスト56 p～57 p上下から成る文字の組み立て方について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「竹笛」 復習上下から成る文字の組み立て方について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p>			

<p>【第12回】 予習：テキスト 58p～59p の内外から成る文字の組み立て方について、予習しておくこと。 授業：実技-「進展」 復習：内外から成る文字の組み立て方について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第13回】 予習：テキスト 60p 文字の大きさと配列について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「美しい山の緑」 復習：文字の大きさと配列について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第14回】 予習：テキスト 61p 点画のつながりについて、予習しておくこと。 授業：実技-課題「うさぎ追いし・・・」 復習：点画のつながりについて再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第15回】 予習：テキスト 62p の硬筆縦書きについて、予習しておくこと。 授業：実技-課題「学習のステップ・・・」 復習：硬筆縦書きについて再確認し、実技を習得し理解を深める。</p>								
授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	提出した作品を授業内で添削し、各回のテーマ習得に添うよう適宜指導します。 模擬実習を行い、より効果が高い指導が出来るよう検討し、適宜指導します。							
テキスト・教材	『国語科書写の理論と実践！』（菅原書房） 書道用具一式 硬筆用－2B以上の鉛筆と消しゴム							
参考書								
評価の基準と方法	提出課題（70%）・模擬実習及び授業態度（30%）を点数化したものの合計にて評価します。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			△		◎	
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	書道実習Ⅱ		
科目分類	111-331-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Calligraphy Practice II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	日向 雅之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	日向 雅之	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	1) 道具を用意する・片付けるといった、書道の実習を行う。 2) 基本的な楷書課題について、分析・理解し、実技と添削指導により、提出作品を完成させる。 3) 学生自身による実習を行い、氏名点呼・範書を経験する。 4) 中学校書写の指導理論について、教科書『国語科書写の理論と実践！』（萱原書房）を用いて講義を聞きレポートを作成する。		
到達目標	1) 書道の実技の実施において、準備・揮毫・片付けまでを確実に行うことができる。 2) 基礎的な楷書・行書の課題について、分析と理解を深め、書技を高める。 3) 学生自身の実習で、氏名点呼・範書を経験することで、教師としての資質を高める。 4) 中学書写の指導理論を、課題により習得する。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 タイトル：【第1回】 授業：行書と楷書の違いとテキスト64pの内容に沿って確認する。 復習：行書と楷書の違いを再確認する。</p> <p>【第2回】 タイトル：【第2回】「点画の丸み、方向や形の変化1」『大木』 予習：テキスト65pの点画の丸み方向の変化を読んで、予習しておくこと。 授業：実技-「大木」 復習：点画の丸み方向の変化①について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第3回】 タイトル：【第3回】「点画の丸み、方向や形の変化3」『北西』 予習：テキスト66pの点画の丸み方向の変化②を読んで、予習しておくこと。 授業：実技-課題「北西」 復習：点画の丸み方向の変化②について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第4回】 タイトル：【第4回】「点画の連続1 筆脈の実線化」『清心』 予習：テキスト68pの筆脈の実線化を読んで、予習しておくこと。 授業：実技-課題「清心」 復習：筆脈の実線化について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第5回】 タイトル：【第5回】「点画の連続2 直接連続」『元気』 予習：テキスト69pの点画の連続直接連続を読み、予習しておくこと。 授業：実技-課題「元気」 復習：点画の連続直接連続について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第6回】 タイトル：【第6回】「点画の省略」『秋霜』 予習：テキスト71pの点画の省略について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「秋霜」 復習：点画の省略について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第7回】 タイトル：【第7回】「筆順の変化」『書聖』 予習：テキスト72p筆順の変化について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「書聖」 復習：筆順の変化について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第8回】 タイトル：【第8回】「行書に調和する仮名」『はれやかな朝』 予習：テキスト74pの「行書に調和する仮名」について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「はれやかな朝」 復習：「行書に調和する仮名」について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第9回】 タイトル：【第9回】「文字の大きさと配列行書1」『赤とんぼ・・・』 予習：テキスト76p文字の大きさと配列について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「赤とんぼ・・・」 復習：文字の大きさと配列について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p>			

【第10回】
 タイトル：【第10回】「文字の大きさと配列行書2」『自然との調和』
 予習：テキスト77pの文字の大きさと配列のポイントについて、予習しておくこと。
 授業：実技-課題「自然との調和」
 復習：文字の大きさと配列のポイントについて再確認し、実技を習得し理解を深める。

【第11回】
 タイトル：【第11回】「実用書式 封筒」
 予習：テキスト78pの「実用書式」について、予習しておくこと。
 授業：実技-課題「佐藤・・・」
 復習：「実用書式」について再確認し、実技を習得し理解を深める。

【第12回】
 タイトル：【第12回】「実用書式 葉書」
 予習：テキスト79pの「はがきの書き方」について、予習しておくこと。
 授業：実技-課題「佐藤・・・」
 復習：「はがきの書き方」について再確認し、実技を習得し理解を深める。

【第13回】
 タイトル：【第13回】「実用書式 手紙」
 予習：テキスト80p「手紙文を書く」をよく読んでおく。
 授業：実技-「拝「手紙文を書く」啓・・・」
 復習：「手紙文を書く」について再確認し、実技を習得し理解を深める。

【第14回】
 タイトル：【第14回】「原稿用紙を書く」
 予習：テキスト81p上段の原稿用紙に書く(縦書き)について、予習しておくこと。
 授業：実技-「私たち・・・」の課題
 復習：原稿用紙に書く(縦書き)について再確認し、実技を習得し理解を深める。

【第15回】
 タイトル：【第15回】「書き初めを書く」
 予習：テキスト82pの書き初め課題について、予習しておくこと。
 授業：実技-書き初めの筆課題
 復習：書き初めの実践と指導について再確認し、実技を習得し理解を深める。

授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法	提出した作品を授業内で添削し、各回のテーマ習得に添うよう適宜指導します。模擬実習を行い、より効果が高い指導が出来るよう検討し、適宜指導します。							
テキスト・教材	『国語科書写の理論と実践！』（菅原書房） 書道用具一式 硬筆用 - 2B以上の鉛筆と消しゴム							
参考書								
評価の基準と方法	提出課題（70%）・模擬実習及び授業態度（30%）を点数化したものの合計にて評価します。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成	社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成	日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成	日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			△		◎	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	☆国語科教育法 I		
科目分類	111-411-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese Teaching Methods I	授業区分	講義
科目責任者	野中 潤	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野中 潤	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	高等学校における国語科教育の目標や内容や方法などについて、最新の教育実践を視野に入れながら、講義や体験授業、ワークショップなどを通して学び、新しい時代に即した国語科の授業を作るための基礎的・基本的な知識や技能を習得する。		
到達目標	これからの時代に求められる資質・能力を踏まえて、必要な知識や技能を習得するとともに、それらを活用して高等学校において新しい国語科の授業を実践するための基本的な方向性やそのための具体的な手立てを理解することを目標とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
※毎回の授業の開始時に、知識・技能の関わるルーティンワーク（ワードハント等）を単元として実施する			
【第 1 回】 予習：新しい学習指導要領に基づく各社の教科書（現代の国語、言語文化、論理国語、古典探究など）の概要を調べる 授業：これからの時代に向けて国語科教育に求められているもの 復習：講義ノートに学習内容をまとめる			
【第 2 回】 予習：「現代の国語」における「話すこと・聞くこと」の内容の構成や授業時数について確認する 授業：話すこと・聞くことの授業 1（双六対話・グループワーク） 復習：講義ノートに学習内容をまとめる			
【第 3 回】 予習：高等学校の各科目の「内容の取扱い」に示された各領域における授業時数について確認する 授業：文学的な文章を読むことの授業（クラウド共有ファイルによる「問い立て」・ワークショップ） 復習：講義ノートに学習内容をまとめる			
【第 4 回】 予習：クラウド共有ファイルに書き込まれた他の受講生の「問い立て」を確認する 授業：「問い立て」を利用して場面ごとに主たる発問を考える 復習：講義ノートに学習内容をまとめる			
【第 5 回】 予習：場面ごとの主たる発問に対する答えを考える 授業：主たる発問を活用した選択式問題と正解選択肢、不正解選択肢を作成する（グループワーク） 復習：講義ノートに学習内容をまとめる			
【第 6 回】 予習：漢字テストの採点基準についての動画を視聴する 授業：漢字や語彙の学習と自動採点テストの活用（グループワーク） 復習：講義ノートに学習内容をまとめる			
【第 7 回】 予習：事前課題アンケートに回答する 授業：話すこと・聞くことの授業 2（哲学対話・グループワーク） 復習：講義ノートに学習内容をまとめる			
【第 8 回】 予習：哲学対話で得られた考えを文章にまとめる 授業：哲学対話で得られた考えを発表する 復習：講義ノートに学習内容をまとめる			
【第 9 回】 予習：『学習評価の在り方ハンドブック』高等学校編を読む 授業：『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を読む（ABD・ワークショップ） 復習：講義ノートに学習内容をまとめる			
【第 10 回】 予習：板書についての動画を視聴する 授業：板書・発問・プリント作成の方法（ジグソー法・グループワーク） 復習：講義ノートに学習内容をまとめる			
【第 11 回】 予習：担当テーマのスライドを作成する 授業：板書・発問・プリント作成の方法を動画をまとめる（エキスパート活動・グループワーク） 復習：講義ノートに学習内容をまとめる			
【第 12 回】 予習：他の受講生の動画を視聴する 授業：板書・発問・プリント作成の実験 復習：講義ノートに学習内容をまとめる			

<p>【第13回】 予習：新しい学習指導要領に基づく高等学校の教科書を図書館で閲覧する 授業：任意の科目の教科書を観点を決めて精読し、ポイントをまとめる（グループワーク） 復習：講義ノートに学習内容をまとめる</p> <p>【第14回】 予習：他のグループがまとめた内容を参照しながら、図書館で教科書の内容を再確認する 授業：模擬授業で取り上げたいものを選び、教材研究する（個人ワーク） 復習：講義ノートに学習内容をまとめる</p> <p>【第15回】 予習：これまでの授業を振り返り、講義ノートを整理する 授業：これからの時代に求められる授業を実践するために必要なこと 復習：講義ノートに学習内容をまとめ、半期の授業をふりかえる</p>								
授業開始前学習	学習指導要領の改訂など、国語科教育をめぐる状況の変化について、文部科学省のHPなどで公開されている情報を学習しておくことが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法	Google Classroom を活用し、随時フィードバックを行う。							
テキスト・教材	適宜資料を配信する。							
参考書								
評価の基準と方法	平常点（授業参画度・課題提出）70%、講義ノート30%							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	◎
関連科目								
その他	授業中に情報端末を使います。パソコン教室を使う場合もありますが、できるだけインターネットにアクセスできる情報機器を持参して下さい。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	中学校および高等学校教諭として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、国語科教育の実践方法に関する授業を行う。							

科目名称	国語科教育法Ⅱ		
科目分類	111-411-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese Teaching Methods II	授業区分	講義
科目責任者	野中 潤	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野中 潤	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	高等学校における国語科教育の目標や内容や方法などについて、模擬授業の準備および模擬授業を通して確認し、国語科の授業を作るための知識や技能をいかに活用するのを実践的に学ぶ。		
到達目標	これからの時代に求められる資質・能力を踏まえ、高等学校において国語科教育を実践するために習得した知識や技能をいかに活用するのかを、主体的に探求することができるようになることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：高等学校国語の学習指導案の実例を参照し、書き方について確認する 授業：指導案の基本的な書き方（課題解決型学習） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第2回】 予習：高等学校国語科の教材を読む 授業：教材の読み合わせと教材価値の確認（グループワーク） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第3回】 予習：授業プランを書く 授業：単元指導計画の検討（グループワーク） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第4回】 予習：本時案の草案を作る 授業：シナリオ型指導案の作成（発表） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第5回】 予習：補助教材を作る 授業：補助教材の検討（ディスカッション） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第6回】 予習：加筆修正された本時案に基づき、単元指導計画を修正する 授業：模擬授業のシミュレーション（発表） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第7回】 予習：古文の模擬授業の準備 授業：古文の模擬授業（実習） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第8回】 予習：漢文の模擬授業の準備 授業：漢文の模擬授業（実習） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第9回】 予習：評論文の模擬授業の準備 授業：評論文の模擬授業（実習） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第10回】 予習：物語文の模擬授業の準備 授業：物語文の模擬授業（実習） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第11回】 予習：随筆の模擬授業の準備 授業：随筆の模擬授業（実習） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第12回】 予習：模擬授業の問題点を見直す 授業：模擬授業のふりかえり（ワールドカフェ方式） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : 自分が担当した教材の導入を再検討する 授業 : 導入の語り(ミニ模擬授業) 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる 【第14回】 予習 : 自分が担当した教材のまとめを再検討する 授業 : まとめ語り(ミニ模擬授業) 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる 【第15回】 予習 : これまでの模擬授業を振り返り、学んだことを整理する 授業 : これからの国語科教育を考える 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめ、授業全体をふりかえる								
授業開始前学習	学習指導要領の改訂など、国語科教育をめぐる状況の変化について、文部科学省のHPなどで公開されている情報を学習しておくことが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法	Google Classroom を活用し、随時フィードバックを行う。							
テキスト・教材	適宜資料を配信する。							
参考書								
評価の基準と方法	平常点(授業参画度・課題提出) 70%、講義ノート 30%							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	◎
関連科目								
その他	授業中に情報端末を使います。パソコン教室を使う場合もありますが、できるだけインターネットにアクセスできる情報機器を持参して下さい。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	中学校および高等学校教諭として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、国語科教育の実践方法に関する授業を行う。							

科目名称	国語科教育法Ⅲ		
科目分類	111-411-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese Teaching MethodsⅢ	授業区分	講義
科目責任者	野中 潤	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野中 潤	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	中学校における国語科教育の目標や内容や方法などについて、最新の教育実践を視野に入れながら、講義や体験授業、ワークショップなどを通して学び、新しい時代に即した国語科の授業を作るための基礎的・基本的な知識や技能を習得する。		
到達目標	これからの時代に求められる資質・能力を踏まえて、必要な知識や技能を習得するとともに、それらを活用して中学校において新しい国語科の授業を実践するための基本的な方向性やそのための具体的な手立てを理解することを目標とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>※毎回の授業の開始時に、知識・技能の関わるルーティンワーク（ワードハント等）を単元として実施する</p> <p>【第1回】 予習：中学校学習指導要領の国語科の改訂のポイントを調べる 授業：国語科の特徴・特質をカードに書き出し、思考ツールを使って比較・分析してまとめる（発散→収束） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第2回】 予習：国語科の特徴・特質について、他の受講生の考えをクラウド共有された資料で確認する 授業：国語科の特徴・特質の小論文作成（協働作業によるパラグラフライティング・グループワーク） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第3回】 予習：小論文で担当したパラグラフをナレーションの録音用カードを作成する 授業：小論文の音読カードを作成し、互いに視聴してフィードバックし合う（リレー形式のプレゼンスライド作成・グループワーク） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第4回】 予習：「言語技術教育」について、概要を調べる 授業：読み手が図形を再現できるような説明文を、読み手の立場に立って表現を整えながら作成する 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第5回】 予習：「やさしい日本語」について調べる 授業：「やさしい日本語」のグループ学習（張り紙表現の修正・グループワーク） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第6回】 予習：メディアリテラシーについて調べる 授業：メディアリテラシーに関する探究（ジグソー法・グループワーク） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第7回】 予習：エキスパート課題について調べる 授業：メディアリテラシーに関する課題をまとめる（ジグソー法・発表） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第8回】 予習：メディアリテラシーのポイントのスライドにまとめる 授業：メディアリテラシーについて学ぶ絵本の構成を考える（協働作業・グループワーク） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第9回】 予習：絵本の担当ページのテキスト部分を作成する 授業：メディアリテラシーについて学ぶ絵本を完成させる（協働作業・グループワーク） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第10回】 予習：百人一首について調べる 授業：ロイロノート・スクールによる百人一首の学習 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第11回】 予習：担当する歌について調べる 授業：百人一首カルタの取り札と読み札をつくる（個人ワーク） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第12回】 予習：取り札と読み札を確認する 授業：ロイロノート・スクールによる百人一首カルタ大会 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p>			

<p>【第13回】 予習：公開されている文学的な文章の授業案を調べる 授業：文学的な文章の授業案を追試する（ワークショップ） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第14回】 予習：公開されている説明的な文章の授業案を調べる 授業：説明的な文章の授業案を追試する（ワークショップ） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第15回】 予習：中学校学習指導要領の国語科の改定のポイントを再確認する 授業：講義ノートの相互閲覧によるふりかえり 復習：学習内容を講義ノートにまとめ、半期の授業全体をふりかえる</p>								
授業開始前学習	学習指導要領の改訂など、国語科教育をめぐる状況の変化について、文部科学省のHPなどで公開されている情報を学習しておくことが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法	主としてロイロノート・スクールを活用しながら、必要に応じて Google Classroom も利用し、随時フィードバックを行う。							
テキスト・教材	適宜資料を配信する。							
参考書								
評価の基準と方法	平常点（授業参画度・課題提出）70%、講義ノート30%							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	◎
関連科目								
その他	授業中に情報端末を使います。パソコン教室を使う場合もありますが、できるだけインターネットにアクセスできる情報機器を持参して下さい。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	中学校および高等学校教諭として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教科の枠組みにとらわれず、生徒の実態に合わせて、課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力等の向上をはかるための教育実践に関する授業を行う。							

科目名称	国語科教育法Ⅳ		
科目分類	111-411-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese Teaching MethodsⅣ	授業区分	講義
科目責任者	野中 潤	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野中 潤	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	中学校における国語科教育の目標や内容や方法などについて、模擬授業の準備および模擬授業を通して確認し、国語科の授業を作るための知識や技能をいかに活用するのを実践的に学ぶ。		
到達目標	これからの時代に求められる資質・能力を踏まえ、中学校において国語科教育を実践するために習得した知識や技能をいかに活用するのかを、主体的に探求することができるようになることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：中学校国語の学習指導案の実例を参照し、書き方について確認する 授業：指導案の基本的な書き方 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第2回】 予習：「中学国語」の教材を読む 授業：教材の読み合わせと教材価値の確認（グループワーク） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第3回】 予習：授業プランを書く 授業：単元指導計画の検討（ディスカッション） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第4回】 予習：本時案の草案を作る 授業：シナリオ型指導案の作成 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第5回】 予習：補助教材を作る 授業：補助教材の検討（ディスカッション） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第6回】 予習：加筆修正された本時案に基づき、単元指導計画を修正する 授業：模擬授業のシミュレーション（グループワーク） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第7回】 予習：古文の模擬授業の準備 授業：古文の模擬授業（実習） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第8回】 予習：漢文の模擬授業の準備 授業：漢文の模擬授業（実習） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第9回】 予習：評論文の模擬授業の準備 授業：評論文の模擬授業（実習） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第10回】 予習：物語文の模擬授業の準備 授業：物語文の模擬授業（実習） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第11回】 予習：随筆の模擬授業の準備 授業：随筆の模擬授業（実習） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第12回】 予習：模擬授業の問題点を見直す 授業：模擬授業のふりかえり（ワールドカフェ方式） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : 自分が担当した教材の導入を再検討する 授業 : 導入の語り(ミニ模擬授業) 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる 【第14回】 予習 : 自分が担当した教材のまとめを再検討する 授業 : まとめ語り(ミニ模擬授業) 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる 【第15回】 予習 : これまでの模擬授業を振り返り、学んだことを整理する 授業 : これからの国語科教育を考える 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめ、授業全体をふりかえる								
授業開始前学習	学習指導要領の改訂など、国語科教育をめぐる状況の変化について、文部科学省のHPなどで公開されている情報を学習しておくことが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法	主としてロイロノート・スクールを活用しながら、必要に応じて Google Classroom も利用し、随時フィードバックを行う。							
テキスト・教材	適宜資料を配信する。							
参考書								
評価の基準と方法	平常点(授業参画度・課題提出) 70%、講義ノート 30%							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	◎
関連科目								
その他	授業中に情報端末を使います。パソコン教室を使う場合もありますが、できるだけインターネットにアクセスできる情報機器を持参して下さい。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	中学校および高等学校教諭として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教科の枠組みにとらわれず、生徒の実態に合わせて、課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力等の向上をはかるための教育実践に関する授業を行う。							

科目名称	英語学概論 I		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Introduction to English Linguistics I	授業区分	講義
科目責任者	神谷 昇	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神谷 昇	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	この授業は、英語、日本語あるいは言葉一般に見られるさまざまな特徴について学習しながら、「ことば」とは何か、「ことば」を使用する人間とはどのようなものであるのかについて理解することを目的とする。この授業では、発音、語彙、英語の歴史、英語と社会とのかかわり、文の仕組みについて、基本的事項の修得を目指す。		
到達目標	英語の発音、語彙、英語の歴史、英語と社会とのかかわり、文の仕組みなどについて、重要な概念を具体例を用いて説明できるようにすることを目指す。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：（1）オンライン上のシラバスを読み、授業の流れを理解しておくこと （2）『探検！ことばの世界』（大津由紀雄）を読んでおく 授業：授業内容の説明、および、英語学とはどのような分野であるのかの説明 復習：授業で扱った基本的事項の復習</p> <p>【第2回】 予習：教科書 p. 2-p. 9 までを講読 授業：第1章「ことばの起源と語族」（教科書 p. 2-p. 9） 復習：教科書 p. 2-p. 9 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第3回】 予習：教科書 p. 10-p. 17 までを講読 授業：第2章「人間のことばと言語研究」（教科書 p. 10-p. 17）（発表） 復習：教科書 p. 10-p. 17 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第4回】 予習：教科書 p. 18-p. 25 までを講読 授業：第3章「英語の発音とスペリング」（教科書 p. 18-p. 25）（発表） 復習：教科書 p. 18-p. 25 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第5回】 予習：教科書 p. 26-p. 33 までを講読 授業：第4章「英語の語彙の多様性」（教科書 p. 26-p. 33）（発表） 復習：教科書 p. 26-p. 33 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第6回】 予習：教科書 p. 34-p. 41 までを講読 授業：第5章「標準英語の成立」（教科書 p. 34-p. 41）（発表） 復習：教科書 p. 34-p. 41 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第7回】 予習：教科書 p. 42-p. 49 までを講読 授業：第6章「英語のバリエーション」（教科書 p. 42-p. 49）（発表） 復習：教科書 p. 42-p. 49 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第8回】 予習：教科書 p. 50-p. 57 までを講読 授業：第7章「ことばの変化」（教科書 p. 50-p. 57）（発表） 復習：教科書 p. 50-p. 57 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第9回】 予習：教科書 p. 58-p. 65 までを講読 授業：第8章「ことばと音声」（教科書 p. 58-p. 65）（発表） 復習：教科書 p. 58-p. 65 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第10回】 予習：教科書 p. 66-p. 73 までを講読 授業：第9章「音の組み合わせとアクセント」（教科書 p. 66-p. 73）（発表）</p>			

<p>復習：教科書 p. 66-p. 73 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第 11 回】 予習：教科書 p. 74-p. 81 までを講読 授業：第 10 章「単語ができるしくみ」（教科書 p. 74-p. 81）（発表） 復習：教科書 p. 74-p. 81 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第 12 回】 予習：教科書 p. 82-p. 89 までを講読 授業：第 11 章「文ができるしくみ」（教科書 p. 82-p. 89）（発表） 復習：教科書 p. 82-p. 89 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第 13 回】 予習：教科書 p. 90-p. 97 までを講読 授業：第 12 章「文の内部構造」（教科書 p. 90-p. 97）（発表） 復習：教科書 p. 90-p. 97 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第 14 回】 予習：教科書 p. 2-p. 49 までを再講読 授業：教科書 p. 2-p. 49 までの内容に沿った練習問題 復習：教科書 p. 2-p. 49 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第 15 回】 予習：教科書 p. 50-p. 97 までを再講読 授業：教科書 p. 50-p. 97 までの内容に沿った練習問題 復習：教科書 p. 50-p. 97 に掲載されている用語の再確認</p>								
授業開始前学習	各回の授業においては、授業前にテキストを一読し、新規の専門用語について辞典などで調べて授業に臨むことを強く勧める。							
授業内課題の フィードバックの方法	課題の内容については授業中に確認と解説を行う。							
テキスト・教材	長谷川瑞穂（編著）『はじめての英語学 <改訂版>』（研究社） ISBN 978-4-327-40165-8							
参考書	大津由紀雄『探検！ことばの世界』（ひつじ書房） 斎藤純男、田口善久、西村義樹（編）『明解言語学辞典』（三省堂） この他の参考書については、授業で適宜紹介する。							
評価の基準と方法	授業中の演習、期末レポートなどを踏まえ総合的に行う。内訳は、期末課題（40%）、授業中の演習（30%）、授業態度（30%）である。							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○			△
関連科目	英語音声学 I・II（本授業の第 9 回と第 10 回の学習内容をさらに深める。） グラマー・レビュー I・II / グラマー・使える英文法 I・II（本授業の第 12 回と第 13 回の学習内容の基礎となる内容を扱う。）							
その他	英語の辞書（英和辞典、和英辞典等）を持参すること。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	英語学概論Ⅱ		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Introduction to English Linguistics II	授業区分	講義
科目責任者	神谷 昇	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神谷 昇	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	この授業は、「英語学概論Ⅰ」に引き続き、英語、日本語あるいは言葉一般に見られる様々な特徴について学習しながら、「ことば」とは何か、「ことば」を使用する人間とはどのようなものであるのかについて理解することを目的とする。この授業では、意味、語用論、英語と文化、英語と社会とのかかわり、英語教育についての基本的事項の修得を目指す。		
到達目標	意味、語用論、英語と文化、英語と社会とのかかわり、英語教育などについて、重要な概念を具体例を用いて説明ができることを目指す。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：教科書第1章から第12章までの再講読 授業：後期の授業内容の説明と、前期の学習内容の復習 復習：授業で扱った重要概念の復習</p> <p>【第2回】 予習：教科書 p. 98-p. 105 までを講読 授業：第13章「ことばの意味とは何だろう」（教科書 p. 98-p. 105）（発表） 復習：教科書 p. 98-p. 105 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第3回】 予習：教科書 p. 106-p. 113 までを講読 授業：第14章「語の間の意味関係」（教科書 p. 106-p. 113）（発表） 復習：教科書 p. 106-p. 113 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第4回】 予習：教科書 p. 114-p. 121 までを講読 授業：第15章「意味の拡張」（教科書 p. 114-p. 121）（発表） 復習：教科書 p. 114-p. 121 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第5回】 予習：教科書 p. 122-p. 129 までを講読 授業：第16章「ことばの意味に見られる主観性」（教科書 p. 122-p. 129）（発表） 復習：教科書 p. 122-p. 129 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第6回】 予習：教科書 p. 130-p. 137 までを講読 授業：第17章「ことばの意味とコンテキスト」（教科書 p. 130-p. 137）（発表） 復習：教科書 p. 130-p. 137 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第7回】 予習：教科書 p. 138-p. 145 までを講読 授業：第18章「まとまりのある文章」（教科書 p. 138-p. 145）（発表） 復習：教科書 p. 138-p. 145 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第8回】 予習：教科書 p. 146-p. 153 までを講読 授業：第19章「文章中の談話構造」（教科書 p. 146-p. 153）（発表） 復習：教科書 p. 146-p. 153 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第9回】 予習：教科書 p. 154-p. 161 までを講読 授業：第20章「ことばのやりとりにおけるルール」（教科書 p. 154-p. 161）（発表） 復習：教科書 p. 154-p. 161 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第10回】 予習：教科書 p. 162-p. 169 までを講読 授業：第21章「コミュニケーションの民族誌」（教科書 p. 162-p. 169）（発表） 復習：教科書 p. 162-p. 169 に掲載されている用語の再確認</p>			

<p>【第11回】 予習：教科書 p. 170-p. 177 までを講読 授業：第22章「英語と文化」（教科書 p. 170-p. 177）（発表） 復習：教科書 p. 170-p. 177 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第12回】 予習：教科書 p. 178-p. 185 までを講読 授業：第23章「ことばと社会」（教科書 p. 178-p. 185）（発表） 復習：教科書 p. 178-p. 185 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第13回】 予習：教科書 p. 186-p. 193 までを講読 授業：第24章「ことばと国家」（教科書 p. 186-p. 193）（発表） 復習：教科書 p. 186-p. 193 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第14回】 予習：教科書 p. 194-p. 201 までを講読 授業：第25章「日本の英語教育と教授法」（教科書 p. 194-p. 201）（発表） 復習：教科書 p. 194-p. 120 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第15回】 予習：教科書 p. 98-p. 201 までを再講読 授業：教科書 p. 98-p. 201 までの内容に沿った練習問題 復習：教科書 p. 98-p. 201 に掲載されている用語の再確認</p>								
授業開始前学習	各回の授業においては、授業前にテキストを一読し、新規の専門用語について辞典などで調べて授業に臨むことを勧める。							
授業内課題のフィードバックの方法	課題の内容については授業中に確認と解説を行う。							
テキスト・教材	長谷川瑞穂（編著）『はじめての英語学 <改訂版>』（研究社） ISBN 978-4-327-40165-8							
参考書	大津由紀雄『探検！ことばの世界』（ひつじ書房） 斎藤純男、田口善久、西村義樹（編）『明解言語学辞典』（三省堂） この他の参考書については、授業で適宜紹介する。							
評価の基準と方法	授業中の演習、期末レポートなどを踏まえ総合的に行う。内訳は、期末課題（40%）、授業中の演習（30%）、授業態度（30%）である。							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○			△
関連科目	英語学概論 I（英語学概論 I で学習した内容を踏まえてこの授業を行う。）							
その他	英語の辞書（英和辞典、和英辞典等）を持参すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	英語学概論Ⅱ		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Introduction to English Linguistics II	授業区分	講義
科目責任者	M.ブラウン	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	M.ブラウン	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-619
授業概要	この授業は、「英語学概論Ⅰ」に引き続き、英語、日本語あるいは言葉一般に見られる様々な特徴について学習しながら、「ことば」とは何か、「ことば」を使用する人間とはどのようなものであるのかについて理解することを目的とする。この授業では、意味、語用論、英語と文化、英語と社会とのかかわり、英語教育についての基本的事項の修得を目指す。		
到達目標	意味、語用論、英語と文化、英語と社会とのかかわり、英語教育などについて、重要な概念を具体例を用いて説明ができることを目指す。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：教科書第1章から第12章までの再講読 授業：後期の授業内容の説明と、前期の学習内容の復習 復習：授業で扱った重要概念の復習</p> <p>【第2回】 予習：教科書 p. 98-p. 105 までを講読 授業：第13章「ことばの意味とは何だろう」（教科書 p. 98-p. 105）（発表） 復習：教科書 p. 98-p. 105 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第3回】 予習：教科書 p. 106-p. 113 までを講読 授業：第14章「語の間の意味関係」（教科書 p. 106-p. 113）（発表） 復習：教科書 p. 106-p. 113 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第4回】 予習：教科書 p. 114-p. 121 までを講読 授業：第15章「意味の拡張」（教科書 p. 114-p. 121）（発表） 復習：教科書 p. 114-p. 121 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第5回】 予習：教科書 p. 122-p. 129 までを講読 授業：第16章「ことばの意味に見られる主観性」（教科書 p. 122-p. 129）（発表） 復習：教科書 p. 122-p. 129 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第6回】 予習：教科書 p. 130-p. 137 までを講読 授業：第17章「ことばの意味とコンテキスト」（教科書 p. 130-p. 137）（発表） 復習：教科書 p. 130-p. 137 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第7回】 予習：教科書 p. 138-p. 145 までを講読 授業：第18章「まとまりのある文章」（教科書 p. 138-p. 145）（発表） 復習：教科書 p. 138-p. 145 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第8回】 予習：教科書 p. 146-p. 153 までを講読 授業：第19章「文章中の談話構造」（教科書 p. 146-p. 153）（発表） 復習：教科書 p. 146-p. 153 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第9回】 予習：教科書 p. 154-p. 161 までを講読 授業：第20章「ことばのやりとりにおけるルール」（教科書 p. 154-p. 161）（発表） 復習：教科書 p. 154-p. 161 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第10回】 予習：教科書 p. 162-p. 169 までを講読 授業：第21章「コミュニケーションの民族誌」（教科書 p. 162-p. 169）（発表） 復習：教科書 p. 162-p. 169 に掲載されている用語の再確認</p>			

<p>【第11回】 予習：教科書 p. 170-p. 177 までを講読 授業：第22章「英語と文化」（教科書 p. 170-p. 177）（発表） 復習：教科書 p. 170-p. 177 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第12回】 予習：教科書 p. 178-p. 185 までを講読 授業：第23章「ことばと社会」（教科書 p. 178-p. 185）（発表） 復習：教科書 p. 178-p. 185 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第13回】 予習：教科書 p. 186-p. 193 までを講読 授業：第24章「ことばと国家」（教科書 p. 186-p. 193）（発表） 復習：教科書 p. 186-p. 193 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第14回】 予習：教科書 p. 194-p. 201 までを講読 授業：第25章「日本の英語教育と教授法」（教科書 p. 194-p. 201）（発表） 復習：教科書 p. 194-p. 120 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第15回】 予習：教科書 p. 98-p. 201 までを再講読 授業：教科書 p. 98-p. 201 までの内容に沿った練習問題 復習：教科書 p. 98-p. 201 に掲載されている用語の再確認</p>								
授業開始前学習	各回の授業においては、授業前にテキストを一読し、新規の専門用語について辞典などで調べて授業に臨むことを勧める。							
授業内課題のフィードバックの方法	課題の内容については授業中に確認と解説を行う。							
テキスト・教材	長谷川瑞穂（編著）『はじめての英語学 <改訂版>』（研究社） ISBN 978-4-327-40165-8							
参考書	大津由紀雄『探検！ことばの世界』（ひつじ書房） 斎藤純男、田口善久、西村義樹（編）『明解言語学辞典』（三省堂） この他の参考書については、授業で適宜紹介する。							
評価の基準と方法	授業中の演習、期末レポートなどを踏まえ総合的に行う。内訳は、期末課題（40%）、授業中の演習（30%）、授業態度（30%）である。							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○			△
関連科目	英語学概論 I（英語学概論 I で学習した内容を踏まえてこの授業を行う。）							
その他	英語の辞書（英和辞典、和英辞典等）を持参すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	英語音声学 I		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	English Phonetics I	授業区分	講義
科目責任者	神谷 昇	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神谷 昇	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	英語で使用される様々な音について、発音方法などについて学習しながら、個々の音に対する理解を深める。その上で、単語や文章を用いて発音練習を行い、実際に個々の音が正しく発音できるようになることを目指す。この授業では、主に英語の子音について学習する。		
到達目標	英語の個々の子音について、発音の方法などを習得し、実際に単語や文を正しい発音で読むことができるようになることを目指す。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：オンライン上のシラバスを読んで、授業の概要と流れを理解する 授業：（1）授業内容の説明 （2）Lesson 1: World Englishes（教科書 p. 2-p. 5） （3）Lesson 2: Speech Organs（教科書 p. 6-p. 7） （4）Lesson 3: Speech Sounds（教科書 p. 8-p. 9） 復習：教科書 p. 2-p. 9 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第2回】 予習：教科書 p. 18-p. 19 までを自習 授業：Lesson 7: [p]-[b]（教科書 p. 18-p. 19）（実習） 復習：教科書 p. 18-p. 19 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第3回】 予習：教科書 p. 20-p. 21 までを自習 授業：Lesson 8: [t]-[d]（教科書 p. 20-p. 21）（実習） 復習：教科書 p. 20-p. 21 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第4回】 予習：教科書 p. 22-p. 23 までを自習 授業：Lesson 9: [k]など（教科書 p. 22-p. 23）（実習） 復習：教科書 p. 22-p. 23 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第5回】 予習：教科書 p. 24-p. 25 までを自習 授業：Lesson 10: [f]-[v]（教科書 p. 24-p. 25）（実習） 復習：教科書 p. 24-p. 25 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第6回】 予習：教科書 p. 26-p. 27 までを自習 授業：Lesson 11: th などの音（教科書 p. 26-p. 27）（実習） 復習：教科書 p. 26-p. 27 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第7回】 予習：教科書 p. 28-p. 29 までを自習 授業：Lesson 12: [s]-[z]（教科書 p. 28-p. 29）（実習） 復習：教科書 p. 28-p. 29 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第8回】 予習：教科書 p. 30-p. 31 までを自習 授業：Lesson 13: sh などの音（教科書 p. 30-p. 31）（実習） 復習：教科書 p. 30-p. 31 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第9回】 予習：教科書 p. 32-p. 33 までを自習 授業：Lesson 14: ch などの音（教科書 p. 32-p. 33）（実習） 復習：教科書 p. 32-p. 33 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第10回】</p>			

<p>予習：教科書 p. 34-p. 35 までを自習 授業：Lesson 15: [m]-[n]などの音（教科書 p. 34-p. 35）（実習） 復習：教科書 p. 34-p. 35 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第 11 回】 予習：教科書 p. 36-p. 37 までを自習 授業：Lesson 16: [r]-[l]（教科書 p. 36-p. 37）（実習） 復習：教科書 p. 36-p. 37 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第 12 回】 予習：教科書 p. 38-p. 42 までを自習 授業：（1）Lesson 17: [h]（教科書 p. 38-p. 39）（実習） （2）Lesson 18: [j]-[w]-[hw]（教科書 p. 40-p. 42）（実習） 復習：教科書 p. 38-p. 42 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第 13 回】 予習：教科書 p. 18-p. 29 までを再講読 授業：Lesson 7 - Lesson 12 の復習と発音の再確認（教科書 p. 18-p. 29）（実習） 復習：教科書 p. 18-p. 29 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第 14 回】 予習：教科書 p. 30-p. 42 までを再講読 授業：Lesson 13 - Lesson 18 の復習と発音の再確認（教科書 p. 30-p. 42）（実習） 復習：教科書 p. 30-p. 42 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第 15 回】 予習：教科書 p. 18-p. 42 までを再講読 授業：Lesson 7 - Lesson 18 の復習と発音の再確認（教科書 p. 18-p. 42）（実習） 復習：教科書 p. 18-p. 42 に掲載されている語句の発音について復習</p>								
授業開始前学習	音声学の概論知識を学習しておくことと授業が理解しやすい。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内課題については、毎回の授業の際に確認と解説を行う。							
テキスト・教材	津田塾大学英語英文学科（編）『アメリカ英語の発音教本（四訂版）』（研究社） ISBN 978-4-327-40176-4							
参考書	有本純・河内山真理・佐伯林規江・中西のりこ・山本誠子『英語発音の指導—基礎知識からわかりやすい指導法・使いやすい矯正方法まで—』（三修社） ISBN: 978-4-384-05952-6							
評価の基準と方法	授業中の演習、期末レポートなど、総合的に行う。内訳は、期末課題（40%）、授業中の演習（30%）、授業態度（30%）である。							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○			△
関連科目	英語学概論 I（英語学概論 I の第 9 回と第 10 回で本授業に関連する基本的な内容を扱う）							
その他	英語の辞書（英和辞典、和英辞典等）を持参すること。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	英語音声学Ⅱ		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	English Phonetics Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	神谷 昇	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神谷 昇	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	英語で使用される様々な音について、発音方法などについて学習しながら、個々の音に対する理解を深める。その上で、単語や文章を用いて発音練習を行い、実際に個々の音が正しく発音できるようになることを目指す。この授業では、主に英語の母音、ストレス、リズム、イントネーションについて学習する。		
到達目標	英語の個々の母音などについて、発音の方法を習得し、実際に単語や文を正しい発音で読むことができるようになることを目指す。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：オンライン上のシラバスを読んで、授業の概要と流れを理解する。また、教科書 p. 2- p. 9 を読み、内容を理解する。 授業：（1）授業内容の説明 （2）前期の復習：世界の英語、発音方法について（教科書 p. 2-p. 9） 復習：教科書 p. 2-p. 9 の内容、および、授業で配布した資料の内容について再確認</p> <p>【第2回】 予習：教科書 p. 44-p. 45 までを自習 授業：Lesson 19: [i:]などの音（教科書 p. 44-p. 45）（実習） 復習：教科書 p. 44-p. 45 に掲載されている語句について発音練習</p> <p>【第3回】 予習：教科書 p. 46-p. 47 までを自習 授業：Lesson 20: [u:]などの音（教科書 p. 46-p. 47）（実習） 復習：教科書 p. 46-p. 47 に掲載されている語句について発音練習</p> <p>【第4回】 予習：教科書 p. 48-p. 49 までを自習 授業：Lesson 21: 前舌母音などについて（教科書 p. 48-p. 49）（実習） 復習：教科書 p. 48-p. 49 に掲載されている語句について発音練習</p> <p>【第5回】 予習：教科書 p. 50-p. 51 までを自習 授業：Lesson 22: [ou]-[ɔ:]（教科書 p. 50-p. 51）（実習） 復習：教科書 p. 50-p. 51 に掲載されている語句について発音練習</p> <p>【第6回】 予習：教科書 p. 52-p. 53 までを自習 授業：Lesson 23: [ɑ]-[ɑ:]-[ʌ]（教科書 p. 52-p. 53）（実習） 復習：教科書 p. 52-p. 53 に掲載されている語句について発音練習</p> <p>【第7回】 予習：教科書 p. 54-p. 55 までを自習 授業：Lesson 24: 二重母音について（教科書 p. 54-p. 55）（実習） 復習：教科書 p. 54-p. 55 に掲載されている語句について発音練習</p> <p>【第8回】 予習：教科書 p. 56-p. 57 までを自習 授業：Lesson 25: あいまい母音を含む音について（1）（教科書 p. 56-p. 57）（実習） 復習：教科書 p. 56-p. 57 に掲載されている語句について発音練習</p> <p>【第9回】 予習：教科書 p. 58-p. 59 を自習 授業：Lesson 26: あいまい母音を含む音について（2）（教科書 p. 58-p. 59）（実習） 復習：教科書 p. 58-p. 59 に掲載されている語句について発音練習</p> <p>【第10回】 予習：教科書 p. 10-p. 11 までを自習 授業：Lesson 4: Word Stress（教科書 p. 10-p. 11）（実習）</p>			

<p>復習：教科書 p. 10-p. 11 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第 11 回】 予習：教科書 p. 12-p. 13 までを自習 授業：Lesson 5: Sentence Rhythm (教科書 p. 12-p. 13) (実習) 復習：教科書 p. 12-p. 13 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第 12 回】 予習：教科書 p. 14-p. 16 までを自習 授業：Lesson 6: Intonation (教科書 p. 14-p. 16) (実習) 復習：教科書 p. 14-p. 16 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第 13 回】 予習：教科書 p. 44-p. 51 までを再講読 授業：Lesson 19 - Lesson 22 の復習と発音の再確認 (教科書 p. 44-p. 51) (実習) 復習：教科書 p. 44-p. 51 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第 14 回】 予習：教科書 p. 52-p. 59 までを再講読 授業：Lesson 23 - Lesson 26 の復習と発音の再確認 (教科書 p. 52-p. 59) (実習) 復習：教科書 p. 52-p. 59 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第 15 回】 予習：教科書 p. 10-p. 16 までを再講読 授業：Lesson 4 - Lesson 6 の復習と発音の再確認 (教科書 p. 10-p. 16) (実習) 復習：教科書 p. 10-p. 16 に掲載されている語句の発音について復習</p>								
授業開始前学習	音声学の概論知識を学習しておくことと授業が理解しやすい。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内課題については、毎回の授業の際に確認と解説を行う。							
テキスト・教材	津田塾大学英語英文学科 (編)『アメリカ英語の発音教本 (四訂版)』(研究社) ISBN 978-4-327-40176-4							
参考書	有本純・河内山真理・佐伯林規江・中西のりこ・山本誠子『英語発音の指導—基礎知識からわかりやすい指導法・使いやすい矯正方法まで—』(三修社) ISBN: 978-4-384-05952-6							
評価の基準と方法	授業中の演習、期末レポートなど、総合的に行う。内訳は、期末課題 (40%)、授業中の演習 (30%)、授業態度 (30%) である。							
ディプロマポリシー	世界の言語 (英語)・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語 (英語)・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語 (英語)・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○			△
関連科目	英語学概論 I (英語学概論 I の第 9 回と第 10 回で本授業に関連する基本的な内容を扱う)							
その他	英語の辞書 (英和辞典、和英辞典等) を持参すること。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	イギリス文学 I		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	British Literature I	授業区分	講義
科目責任者	松山 響子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松山 響子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 10:40~12:10 水曜日 13:00~14:30 後期 水曜日 10:40~12:10 水曜日 13:00~14:30	研究室	10-605
授業概要	この講義では 7 世紀から 18 世紀までの約千年にわたるイギリス文学史の概要を理解することを目標としています。主要な作家、作品を取り上げながら講義します。スライドや映像などできるだけ併用しながら、作品や作品を生み出した時代に対するイメージを具体的にとらえることを目標とします。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文学における様々なジャンルとその変遷を理解することができるようになる ・歴史と文学のかかわりを理解することができるようになる 		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：授業シラバスに目を通してのこと 授業：西欧文学を学ぶ前に知っておくべき基礎知識 復習：授業目的の確認</p> <p>【第 2 回】 予習：教科書 P.2~P.5 を読む 授業：古英語の時代と文学作品、現代英語と文字や言語構造の違いを知る 復習：課題・教科書 P.2~P.5 を読む</p> <p>【第 3 回】 予習：教科書 P.6~P.10 を読む 授業：中世英文学、他言語の流入による言語と文学の変化を学ぶ 復習：課題・教科書 P.6~P.10 を読む</p> <p>【第 4 回】 予習：教科書 P.11~P.14 を読む 授業：中世からルネッサンスへの過渡期の言語と文学の関連を学ぶ 復習：課題・教科書 P.11~P.14 を読む</p> <p>【第 5 回】 予習：教科書 P.14~P.22 を読む 授業：イギリス・ルネッサンス文学と宮廷詩人による詩の発展 復習：課題・教科書 P.14~P.22 を読む</p> <p>【第 6 回】 予習：教科書 P.23~P.31 を読む 授業：イギリス演劇の誕生、大衆に開かれた文学作品とそれを取り巻く文化 復習：課題・教科書 P.23~P.31 を読む</p> <p>【第 7 回】 予習：教科書 P.32~P.38 を読む 授業：イギリス演劇の発展、洗練される演劇文化と文学作品の言語への影響 復習：課題・教科書 P.32~P.38 を読む</p> <p>【第 8 回】 予習：教科書 P.39~P.43 を読む 授業：シェイクスピアの登場と言語的・文化的影響 復習：課題・教科書 P.39~P.43 を読む</p> <p>【第 9 回】 予習：教科書 P.39~P.43 を読む 授業：シェイクスピアの登場と言語的・文化的影響(1) 復習：課題・教科書 P.39~P.43 を読む</p> <p>【第 10 回】 予習：教科書 P.39~P.43 を読む 授業：シェイクスピアの登場と言語的・文化的影響(2) 復習：課題・教科書 P.39~P.43 を読む</p> <p>【第 11 回】 予習：教科書 P.44~P.50 を読む 授業：ルネッサンス後期の演劇作品と政治・文化(3) 復習：課題・教科書 P.44~P.50 を読む</p> <p>【第 12 回】 予習：教科書 P.51~P.58 を読む 授業：清教徒革命が詩人に与える影響 復習：課題・教科書 P.51~P.58 を読む</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習 : 教科書 P.59~P.66 を読む 授業 : 課題・ジョン・ミルトンと『パラダイス・ロスト』 復習 : 課題・教科書 P.59~P.66 を読む 【第 14 回】 予習 : 教科書 P.66~P.71 を読む 授業 : 詩から散文へ、日常使用の言語による文学作品の登場 復習 : 課題・教科書 P.66~P.71 を読む 【第 15 回】 予習 : 教科書 P.72~P.77 を読む 授業 : 小説の登場、日常使用の言語による文学作品の発展 復習 : 課題・教科書 P.72~P.77 を読む								
授業開始前学習	かならず事前に指定をされた教科書の該当箇所を読んでくる。教科書の指定箇所は授業進度に合わせて適宜変更する。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業内容についての感想を毎回授業終了時に提出をする。授業内で授業中に紹介をした文学作品に関する質問、あるいは文化的事象についての質問を毎回受け付ける。質問に関しては次回の授業で無記名で回答を行う。							
テキスト・教材	川崎寿彦著 『イギリス文学史入門』(研究社)							
参考書	石塚久郎編『イギリス文学入門』(三修社) 神山妙子編著『はじめて学ぶイギリス文学史』(ミネルヴァ書房) 白井義昭『読んで愉しむイギリス文学史入門』(春風社)							
評価の基準と方法	期末レポート、授業内で行う課題、授業参加態度で評価します。 期末レポート : 60% 授業内課題・授業参加 : 40% 出席が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は、単位を認定することができません。							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△			○			
関連科目								
その他	現在でも様々な場面で使われる英語の「決まり文句」は、大部分この期間に書かれた文学作品から引用されています。期間の長さに驚かず、イギリスの文学作品がどんなものなのかを考えるきっかけにして下さい。 提出物等は Google Classroom を通じて行います。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	伴り文学Ⅱ		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	British Literature II	授業区分	講義
科目責任者	松山 響子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松山 響子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-605
授業概要	この講義では 18 世紀から現在までのイギリス文学を解説し、それを通してロマン派、ビクトリア朝、そして現代までのイギリス文学史について、主要な作家、作品を取り上げながら講義します。スライドや映像などもできるだけ併用しながら、作品や時代に対するイメージを具体的にとらえることを目標とします。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文学における様々なジャンルとその変遷を理解することができるようになる ・歴史と文学のかかわりを理解することができるようになる ・20 世紀における文学の転換とそのきっかけとなった歴史的出来事のつながりを理解することができるようになる 		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：教科書 P.81～P.84 を読む 授業：18 世紀の演劇とヨーロッパから流入してきた演劇文化への対応 復習：教科書 P.81～P.84 を読む</p> <p>【第 2 回】 予習：教科書 P.85～P.92 を読む 授業：18 世紀の小説（1）人気小説の誕生と識字率向上による文化環境の変化 復習：授業内容を 400 字程度にまとめて提出</p> <p>【第 3 回】 予習：教科書 P.92～P.98 を読む 授業：18 世紀の小説（2）女流小説家の誕生と発展、女性を取り巻く文化の変化 復習：教科書 P.85～P.92 を読む</p> <p>【第 4 回】 予習：教科書 P.99～P.106 を読む 授業：ロマン派の詩人たち（1）ワーズワースとコールリッジ 復習：教科書 P.99～P.106 を読む</p> <p>【第 5 回】 予習：教科書 P.106～P.112 を読む 授業：ロマン派の詩人たち（2）キーツ、バイロンとシェリー 復習：教科書 P.106～P.112 を読む</p> <p>【第 6 回】 予習：教科書 P.113～P.121 を読む 授業：ヴィクトリア朝時代の詩と散文、時代的な風潮の文化への影響 復習：教科書 P.113～P.121 を読む</p> <p>【第 7 回】 予習：教科書 P.121～P.128 を読む 授業：ラファエロ前派、文学作品と絵画による相互作用の時代 復習：教科書 P.121～P.128 を読む</p> <p>【第 8 回】 予習：教科書 P.129～P.136 を読む 授業：ヴィクトリア朝時代の小説家たち（1）産業革命と社会運動 復習：教科書 P.129～P.136 を読む</p> <p>【第 9 回】 予習：教科書 P.137～P.145 を読む 授業：ヴィクトリア朝時代の小説家たち（2）進化論の登場と文化への影響 復習：教科書 P.137～P.145 を読む</p> <p>【第 10 回】 予習：教科書 P.146～P.158 を読む 授業：20 世紀の詩と演劇（1）消費される文学作品と過去との差異化 復習：教科書 P.146～P.158 を読む</p> <p>【第 11 回】 予習：教科書 P.146～P.158 を読む 授業：20 世紀の詩と演劇（2）過去との差異化 復習：教科書 P.146～P.158 を読む</p> <p>【第 12 回】 予習：教科書 P.159～P.166 を読む 授業：20 世紀の小説（1）小説とは何か、イギリスへのアメリカ・アイルランドの影響 復習：教科書 P.159～P.166 を読む</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習 : 教科書 P.167~P.173 を読む 授業 : 20 世紀の小説 (2) 広がる英語圏の文学、オーストラリア・インド・南アフリカの影響 復習 : 教科書 P.167~P.173 を読む 【第 14 回】 予習 : 教科書 P.178~P.173 を読む 授業 : 現代の英文学、英語圏の文学と文学の社会における役割 復習 : 教科書 P.178~P.173 を読む 【第 15 回】 授業 : 木間 t レポート作成時の注意								
授業開始前学習	かならず事前に指定をされた教科書の該当箇所を読んでくる。教科書の指定箇所は授業進度に合わせて適宜変更する。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内容についての感想を毎回授業終了時に提出をする。授業内で授業中に紹介をした文学作品に関する質問、あるいは文化的事象についての質問を毎回受け付ける。質問に関しては次回の授業で無記名で回答を行う。							
テキスト・教材	川崎寿彦著 『イギリス文学史入門』(研究社)							
参考書	石塚久郎編『イギリス文学入門』(三修社) 神山妙子編著『はじめて学ぶイギリス文学史』(ミネルヴァ書房) 白井義昭『読んで愉しむイギリス文学史入門』(春風社)							
評価の基準と方法	期末レポート、授業内で行う課題、授業参加態度で評価します。 期末レポート : 60% 授業内課題・授業参加 : 40% 出席が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は、単位を認定することができません。							
ディプロマポリシー	世界の言語 (英語) ・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語 (英語) ・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語 (英語) ・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△			○			
関連科目								
その他	現在までのイギリス文学を通して、自分の好きな作品を見つけてみてください。同時に 20 世紀までの英文学と 20 世紀以降の今につながる英文学との違いを実感してみてください。提出物等は Google Classroom を通じて行います。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	アメリカ文学 I		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	American Literature I	授業区分	講義
科目責任者	佐野 陽子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐野 陽子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	この授業では、アメリカの植民地時代から南北戦争までのアメリカ文学の中で、それぞれの時代を代表する作品を取り上げ、原文の抜粋も読みながら、人種、階級、ジェンダー、宗教といったアメリカ文学の重要テーマについて考える。講義を中心とするが、ディスカッションやプレゼンテーションも取り入れる。		
到達目標	アメリカの植民地時代から南北戦争までの文学史を概観した上で、アメリカ文学の重要テーマを学び、また作品を実際にも読むことで英文を読む力を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 イントロダクション：アメリカ文学を学ぶということ</p> <p>【第 2 回】 予習：植民地時代のアメリカの歴史について調べる。（教科書 pp. 2-3） 授業：植民地時代のアメリカの歴史・文学・文化の概説 復習：植民地時代のアメリカの歴史・文学・文化についてまとめる。</p> <p>【第 3 回】 予習：ジョナサン・エドワーズとベンジャミン・フランクリンについて調べる。 授業：ジョナサン・エドワーズ「怒れる神の手の中にある罪人」、ベンジャミン・フランクリン『自伝』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第 4 回】 予習：独立期から南北戦争までのアメリカの歴史について調べる。（教科書 pp. 4-11） 授業：独立期から南北戦争までのアメリカの歴史・文学・文化の概説 復習：独立期から南北戦争までのアメリカの歴史・文学・文化についてまとめる。</p> <p>【第 5 回】 予習：ハナ・ウェブスター・フォスターについて調べる。 授業：ハナ・ウェブスター・フォスター『クケット』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第 6 回】 予習：ラルフ・ウォルドー・エマソンについて調べる。（教科書 pp. 60-61） 授業：ラルフ・ウォルドー・エマソン「自然」「自己信頼」講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第 7 回】 予習：ナサニエル・ホーソーンについて調べる。（教科書 pp. 64-65） 授業：ナサニエル・ホーソーン『緋文字』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第 8 回】 予習：エドガー・アラン・ポーについて調べる。（教科書 pp. 58-59） 授業：エドガー・アラン・ポー「アッシャー家の崩壊」講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第 9 回】 予習：ハリエット・ビーチャー・ストウについて調べる。（教科書 pp. 72-73） 授業：ハリエット・ビーチャー・ストウ『アンクル・トムの小屋』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第 10 回】 予習：ハリエット・ジェイコブスについて調べる。 授業：ハリエット・ジェイコブス『ある奴隷少女に起こった出来事』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第 11 回】 予習：ヘンリー・デイヴィッド・ソローについて調べる。（教科書 pp. 62-63） 授業：ヘンリー・デイヴィッド・ソロー『ウォールデン』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第 12 回】 予習：ハーマン・メルヴィルについて調べる。（教科書 pp. 66-69） 授業：ハーマン・メルヴィル『白鯨』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第 13 回】 予習：ウォルト・ホイットマン、エミリー・ディキンソンについて調べる。（教科書 pp. 76-79） 授業：ウォルト・ホイットマン、エミリー・ディキンソン講義、ディスカッション</p>			

<p>復習：作品の原文の抜粋を精読する。 【第14回】 予習：第1回プレゼンテーションの担当者は、前期に読んだ作品の中からひとつもしくは複数選び、テーマを設定して、プレゼンテーションの準備をする。 授業：プレゼンテーション（第1回）とディスカッション 復習：前期に読んできた作品を見直し、学んだことを振り返る。 【第15回】 予習：第2回プレゼンテーションの担当者は、前期に読んだ作品の中からひとつもしくは複数選び、テーマを設定して、プレゼンテーションの準備をする。 授業：プレゼンテーション（第2回）とディスカッション 復習：前期に読んできた作品を見直し、学んだことを振り返る。</p>								
授業開始前学習	前期の授業で扱う作品の中からひとつ興味のあるものを選んで、事前に1冊読んでおくことが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の授業で取り上げる作品についてのコメントと学期末のプレゼンテーションに対して、授業内でフィードバックをします。							
テキスト・教材	竹内理矢・山本洋平編著『深まりゆくアメリカ文学 源流と展開』（ミネルヴァ書房）							
参考書	授業で扱った作品を、各自、原書や翻訳などで読むことが望ましい。							
評価の基準と方法	授業参画度（40%） プレゼンテーション（60%）							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△			○			
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	アメリカ文学Ⅱ		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	American Literature II	授業区分	講義
科目責任者	佐野 陽子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐野 陽子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	この授業では、アメリカの南北戦争後から冷戦終結までのアメリカ文学の中で、それぞれの時代を代表する作品を取り上げ、原文の抜粋も読みながら、人種、階級、ジェンダー、宗教といったアメリカ文学の重要テーマについて考える。講義を中心とするが、ディスカッションやプレゼンテーションも取り入れる。		
到達目標	アメリカの南北戦争後から冷戦終結までの文学史を概観した上で、アメリカ文学の重要テーマを学び、また作品を実際に読むことで英文を読む力を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 イントロダクション：アメリカ文学を学ぶということ</p> <p>【第2回】 予習：南北戦争後から第1次世界大戦までのアメリカの歴史について調べる。（教科書 pp. 12-17） 授業：南北戦争後から第1次世界大戦までのアメリカの歴史・文学・文化の概説 復習：南北戦争後から第1次世界大戦までのアメリカの歴史・文学・文化についてまとめる。</p> <p>【第3回】 予習：マーク・トウェインについて調べる。（教科書 pp. 80-81） 授業：マーク・トウェイン『ハックルベリー・フィン』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第4回】 予習：ヘンリー・ジェイムズについて調べる。（教科書 pp. 82-83） 授業：ヘンリー・ジェイムズ『ある婦人の肖像』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第5回】 予習：イーディス・ウォートンについて調べる。（教科書 pp. 92-93） 授業：イーディス・ウォートン『歓楽の家』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第6回】 予習：シオドア・ドライサーについて調べる。（教科書 pp. 90-91） 授業：シオドア・ドライサー『シスター・キャリー』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第7回】 予習：第1次世界大戦後から第2次世界大戦までのアメリカの歴史について調べる。（教科書 pp. 16-31） 授業：第1次世界大戦後から第2次世界大戦までのアメリカの歴史・文学・文化の概説 復習：第1次世界大戦後から第2次世界大戦までのアメリカの歴史・文学・文化についてまとめる。</p> <p>【第8回】 予習：ウィラ・キャザーについて調べる。（教科書 pp. 94-95） 授業：ウィラ・キャザー『私のアントニア』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第9回】 予習：F・スコット・フィッツジェラルドについて調べる。（教科書 pp. 110-111） 授業：F・スコット・フィッツジェラルド『偉大なるギャツビー』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第10回】 予習：ウィリアム・フォークナーについて調べる。（教科書 pp. 114-117） 授業：ウィリアム・フォークナー『八月の光』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第11回】 予習：アーネスト・ヘミングウェイについて調べる。（教科書 pp. 112-113） 授業：アーネスト・ヘミングウェイ『老人と海』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第12回】 予習：第2次世界大戦後から冷戦終結までのアメリカの歴史について調べる。（教科書 pp. 32-41） 授業：第2次世界大戦後から冷戦終結までのアメリカの歴史・文学・文化の概説 復習：第2次世界大戦後から冷戦終結までのアメリカの歴史・文学・文化についてまとめる。</p> <p>【第13回】 予習：トルーマン・カポーティについて調べる。（教科書 pp. 132-133） 授業：トルーマン・カポーティ『ティファニーで朝食を』講義、ディスカッション</p>			

<p>復習：作品の原文の抜粋を精読する。 【第 14 回】 予習：トニ・モリソンについて調べる。(教科書 pp. 148-149) 授業：トニ・モリソン『青い眼がほしい』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。 【第 15 回】 授業：プレゼンテーションの担当者は、後期に読んだ作品の中からひとつもしくは複数選び、テーマを設定して、プレゼンテーションの準備をする。 授業：プレゼンテーションとディスカッション 復習：後期に読んできた作品を見直し、学んだことを振り返る。</p>									
授業開始前学習	後期の授業で扱う作品の中からひとつ興味のあるものを選んで、事前に 1 冊読んでおくことが望ましい。								
授業内課題の フィードバックの方法	毎回の授業で取り上げる作品についてのコメントと学期末のプレゼンテーションに対して、授業内でフィードバックをします。								
テキスト・教材	竹内理矢・山本洋平編著『深まりゆくアメリカ文学 源流と展開』（ミネルヴァ書房）								
参考書	授業で扱った作品を、各自、原書や翻訳などで読むことが望ましい。								
評価の基準と方法	授業参画度（40%） プレゼンテーション（60%）								
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当	◎	△			○				
関連科目									
その他									
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）								
実務経験を活かした 教育内容									

科目名称	日本紹介の英語		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Introducing Japan in English	授業区分	講義
科目責任者	ムスリン・イーリヤ (MUSULIN, Ilja)	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	I.ムスリン	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	Students will develop the ability to introduce the places and culture representative of various regions of Japan, and learn to explain things Japanese which may be commonplace to them but unfamiliar to someone visiting Japan for the first time.		
到達目標	This course is designed to enhance the communicative skills necessary to introduce Japan to a foreign visitor. A range of regionally specific and diverse source materials introducing Japan and its culture via English will be presented to students. In addition to activities designed to develop core language ability, students will engage in a wide variety of student-centered skills based communicative tasks.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習 : Think about how you would introduce Japan to a foreign visitor 授業 : Class introduction. Chapter 1: Japan's Top Three Castles, pp.6-9 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Group skit (Speaking, with written review task) 復習 : Revise class notes</p> <p>【第2回】 予習 : Read next chapter and work on class activity 授業 : Chapter 2: Japan's Top Three Festivals, pp.10-13 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Group skit (Speaking, with written review task) 復習 : Revise class notes</p> <p>【第3回】 予習 : Read next chapter and work on class activity 授業 : Chapter 3: Japan's Top Three Mountains, pp.14-17 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Group skit (Speaking, with written review task) 復習 : Revise class notes</p> <p>【第4回】 予習 : Read next chapter and work on class activity 授業 : Chapter 4: Japan's Top Three Oldest Hot Springs, pp.18-21 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Group task (Reading/writing based question and answer) 復習 : Revise class notes</p> <p>【第5回】 予習 : Read next chapter and work on class activity 授業 : Chapter 5: Japan's Top Three Gardens, pp.22-25 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Group task (Reading/writing based question and answer) 復習 : Revise class notes</p> <p>【第6回】 予習 : Read next chapter and work on class activity 授業 : Chapter 6: Japan's Top Three Pottery Styles, pp. 26-29 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Group task (Reading/writing based question and answer) 復習 : Revise class notes</p> <p>【第7回】 予習 : Read next chapter and work on class activity 授業 : Chapter 7: Japan's Top Three Night Views, pp.30-33 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Group skit (Speaking, with written review task) 復習 : Revise class notes</p> <p>【第8回】 予習 : Read next chapter and work on class activity 授業 : Chapter 8: Japan's Top Three Famous Foods, pp.34-37 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Group skit (Speaking, with written review task) 復習 : Revise class notes</p>			

<p>【第9回】 予習 : Read next chapter and work on class activity 授業 : Chapter 9: Japan's Top Three Limestone Caves, pp.38-41 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Group skit (Speaking, with written review task) 復習 : Revise class notes</p> <p>【第10回】 予習 : Read next chapter and work on class activity 授業 : Chapter 10: Japan's Top Three Scenic Spots, pp. 42-45 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Individual presentations and reports on a given topic (Speaking, with written review task) 復習 : Revise class notes</p> <p>【第11回】 予習 : Read next chapter and work on class activity 授業 : Chapter 11: Japan's Top Three Waterfalls, pp.46-49 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Individual presentations and reports on a given topic (Speaking, with written review task) 復習 : Revise class notes</p> <p>【第12回】 予習 : Read next chapter and work on class activity 授業 : Chapter 12: Japan's Top Three Disappointing Places, pp.50-53 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Individual presentations and reports on a given topic (Speaking, with written review task) 復習 : Revise class notes</p> <p>【第13回】 予習 : Read next chapter and work on class activity 授業 : Chapter 13: Japan's Top Three Ekiben, pp.54-57 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Individual presentations and reports on a given topic (Speaking, with written review task) 復習 : Revise class notes</p> <p>【第14回】 予習 : Read next chapter and work on class activity 授業 : Chapter 14: Japan's Top Three Udon, pp.58-61 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Individual presentations and reports on a given topic (Speaking, with written review task) 復習 : Revise class notes</p> <p>【第15回】 予習 : Practice presentation 授業 : Student presentations: Introducing things Japanese (free topic) (Writing and speaking task) 復習 : Review entire course</p>								
授業開始前学習	Please read as widely as possible on the subject of Japanese culture.							
授業内課題の フィードバックの方法	Students will receive feedback on all assessed classwork.							
テキスト・教材	Toshiyuki Sakabe, Noriaki Okajima, and William Noel, "Touring Japan in English", Nanundo, 2015 (坂部俊行、岡島徳昭、ウィリアム ノエル『英語で学ぶ日本三選』、南雲堂、2015年)							
参考書	Morris, J. et al. [Eigo taiyaku de tabi suru Kyoto 英語対訳で旅する京都]、Jippisha, 2014 Morris, J. et al. [Eigo taiyaku de tabi suru Tokyo 英語対訳で旅する東京]、Jippisha, 2015							
評価の基準と方法	Individual class participation (reading, discussion, presentations): 40%, Group work (skits and other group tasks): 20%, Final written report: 40%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	
関連科目								
その他	Students must attend at least 2/3 of the lectures to pass the course							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	Japan Studies I		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japan Studies I	授業区分	講義
科目責任者	ムスリン・イーリヤ (MUSULIN, Ilja)	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	I.ムスリン	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	This English medium course provides an introduction to Anglophone Japan Studies. Basic knowledge of modern and contemporary Japanese Cultural History will be developed through a variety of topic based lectures. A foundational knowledge of Japanese Cultural History will be developed by lectures and set readings on the diversity of society on the Japanese islands, food culture, consumer culture, sleep, family and Buddhism in post-war Japan.		
到達目標	Cultivate a foundational knowledge of Japanese Cultural History through English.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習 : Investigate strategies for taking lectures in English 授業 : Orientation and introductory lecture: 'To The Ends of Japan' Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes</p> <p>【第2回】 予習 : Reading activity 授業 : Food (1) Pre-Modern Food Culture Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes</p> <p>【第3回】 予習 : Reading activity 授業 : Food (2) Modern Food Culture Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes</p> <p>【第4回】 予習 : Reading activity 授業 : Food and Consumer Culture (3) Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes</p> <p>【第5回】 予習 : Reading activity 授業 : Sleep Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes</p> <p>【第6回】 予習 : Reading activity 授業 : Family (1) Gender Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes</p> <p>【第7回】 予習 : Reading activity 授業 : Family (2) Generations Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. Students submit a review of content in lessons 1-6 復習 : Revise class notes</p> <p>【第8回】 予習 : Reading activity 授業 : 'Japanese Temple Buddhism' (1) Buddhist Sects Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task.</p>			

復習 : Revise class notes
【第 9 回】
予習 : Reading activity
授業 : 'Japanese Temple Buddhism' (2) Current Issues
Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation
Active reading/writing task.
Students receive feedback on their review of content

復習 : Revise class notes
【第 10 回】
予習 : Reading activity
授業 : Documentary movie: 'Souls of Zen'
Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation
Active reading/writing task.

復習 : Movie review activity
【第 11 回】
予習 : Movie review activity
授業 : 3.11 research
Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation
Active reading/writing task.

復習 : Revise class notes
【第 12 回】
予習 : Reading activity
授業 : Law and Order in Japan
Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation
Active reading/writing task.

復習 : Revise class notes
【第 13 回】
予習 : Reading activity
授業 : Securing Japan
Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation
Active reading/writing task.
Students submit a review of content in lessons 7-13

復習 : Revise class notes
【第 14 回】
予習 : Reading activity
授業 : The Arts (1) Folk Art
Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation
Active reading/writing task.

復習 : Revise class notes
【第 15 回】
予習 : Reading activity
授業 : The Arts (2) Visual Arts
Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation
Active reading/writing task.
Students receive feedback on their second review of content

復習 : Review entire course

授業開始前学習	Read as widely as possible on Japanese cultural history							
授業内課題の フィードバックの方法	Students receive feedback on guided reading activities and on report plan.							
テキスト・教材	All materials to be provided by instructor.							
参考書	Richard Bowring, Peter Kornicki, "The Cambridge Encyclopedia of Japan (Cambridge World Encyclopedias)", Cambridge University Press, 1993.							
評価の基準と方法	Weekly class participation and homework: 40%. Mini presentation on a guided reading: 10%. Final essay: 50%.							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		○		△			
関連科目								
その他	Students must attend 2/3 of classes to receive credit for this course							
予習・復習の	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							

所要時間	
実務経験を活かした 教育内容	

科目名称	Japan Studies II		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japan Studies II	授業区分	講義
科目責任者	ムスリン・イーリヤ (MUSULIN, Ilja)	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	I.ムスリン	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	This English medium course builds on the introduction to modern and contemporary Japanese Cultural History provided in Japan Studies I. Basic Japan Studies knowledge will be developed and new concepts introduced. Ongoing lectures will continue to develop the knowledge of Japanese Cultural History necessary for critical thinking on the topics introduced by the instructor, particularly technology and architecture, 3.11, politics, security and defense, education and the arts in postwar Japan.		
到達目標	Cultivate a developing knowledge of Japanese Cultural History through English.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習 : Investigate strategies for taking lectures in English 授業 : Orientation and introductory lecture: Diverse Japan (1): Cultural Diversity Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes</p> <p>【第2回】 予習 : Reading activity 授業 : Diverse Japan (2): Ethnic Diversity Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes</p> <p>【第3回】 予習 : Reading activity 授業 : Mass Media in Japan (1): Print Media Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes</p> <p>【第4回】 予習 : Reading activity 授業 : Mass Media in Japan (2): Broadcast Media Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes</p> <p>【第5回】 予習 : Reading activity 授業 : Work in Japan Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes</p> <p>【第6回】 予習 : Reading activity 授業 : Japan in Maps Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes</p> <p>【第7回】 予習 : Reading activity 授業 : Itinerant Holy Men in the Edo period Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. Students submit a review of content in lessons 1-6</p>			

復習 : Revise class notes

【第 8 回】

予習 : Reading activity

授業 : 'Assembling Japan' (Technology and Architecture) (1) Pre-Modern Technology and Architecture
Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation
Active reading/writing task.

復習 : Revise class notes

【第 9 回】

予習 : Reading activity

授業 : 'Assembling Japan' (Technology and Architecture) (2) Modern Technology and Architecture
Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation
Active reading/writing task.
Students receive feedback on their review of content

復習 : Revise class notes

【第 10 回】

予習 : Reading activity

授業 : Japanese Movies (1): The Great Directors
Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation
Active reading/writing task.

復習 : Movie review activity

【第 11 回】

予習 : Movie review activity

授業 : Japanese Movies (2): Pop Culture and Subculture
Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation
Active reading/writing task.

復習 : Revise class notes

【第 12 回】

予習 : Reading activity

授業 : Performing Arts (1): Pre-Modern Performing Arts
Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation
Active reading/writing task.

復習 : Revise class notes

【第 13 回】

予習 : Reading activity

授業 : Performing Arts (2): Modern Performing Arts
Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation
Active reading/writing task.
Students submit a review of content in lessons 7-13

復習 : Revise class notes

【第 14 回】

予習 : Reading activity

授業 : Education (1): Primary and Secondary Education
Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation
Active reading/writing task.

復習 : Revise class notes

【第 15 回】

予習 : Reading activity

授業 : Education (2): Tertiary Education
Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation
Active reading/writing task.
Students receive feedback on their second review of content

復習 : Review entire course

授業開始前学習	Students should read as widely as possible about Japanese culture.
授業内課題の フィードバックの方法	Students receive feedback on all assessed classwork.
テキスト・教材	All materials to be provided by instructor.
参考書	Richard Bowring, Peter Kornicki, "The Cambridge Encyclopedia of Japan (Cambridge World Encyclopedias)", Cambridge University Press, 1993
評価の基準と方法	Weekly guided reading assignments: 40%. Presentation on a guided reading: 10%. Final essay: 50%.

ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		○		△			
関連科目								
その他	Students must attend 2/3 of the classes in order to pass the course.							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	異文化理解 I		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Intercultural Understanding I	授業区分	講義
科目責任者	井戸 桂子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	井戸 桂子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:30～16:00 火曜日 13:10～14:40 後期 火曜日 12:30～15:30	研究室	10-702
授業概要	「異文化理解」では、外国語の背景にある文化の多様性を学び、日本人にとって異文化理解の課題点について考える。英語圏の国々の歴史、社会、文化を学ぶと共に、それらに対する日本人の反応を検証する。前半の「異文化理解 I」ではイギリスを中心とした国々の文化、歴史、社会について学ぶ。		
到達目標	イギリスと英国連邦（オーストラリア、ニュージーランドなど）の歴史、社会、文化について学び、日本との相互関係について理解できるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>シラバスのうち、個人発表については履修者数やその希望により、変更することがあります。 毎回、授業確認の GoogleForm でのテストがあります。</p> <p>【第 1 回】 予習：英語圏の国々とは具体的にどの国が探す。海外のニュースに目を向ける。 授業：本授業の説明。課題。個人発表について I 世界における英語圏の国々の存在と多様性について。 復習：身近にある英語圏の国々の文化を探す。個人発表の希望を提出。</p> <p>【第 2 回】 予習：英語の話されている国について、調べる。 授業：II 英語の広がり歴史 その 1) 英語の起源について。その 2) 世界への広がり 個人発表の調整、決定 復習：個人発表の準備を始める</p> <p>【第 3 回】 予習：選んだ英語圏文化を調べる 授業：III 日本とイギリスの関係について考える。その 1) ウィリアム・アダムズ 復習：ウィリアム アダムズの他の事項も調べる。</p> <p>【第 4 回】 予習：日英関係について考える。個人発表の準備 授業：III 日本とイギリスの関係について考える。その 2) (フェートン号事件 英語学習の始まり) 復習：フェートン事件のような来航があったか調べる。</p> <p>【第 5 回】 予習：日本とイギリスの関係について考える 個人発表の準備 授業：GoogleForm でのテスト内にあった【身近にある英語圏文化、イギリス文化について】 ・皆さんの意見を講評をして、幾つかの例を紹介します。 【個人発表の確認と準備と課題②について】 復習：個人発表の準備</p> <p>【第 6 回】 予習：イギリスの地理について、調べる。 授業：個人発表の開始（履修者の人数により、第 5 回から始める可能性あり。） IVイギリス その 1 (イギリスの地理・自然について) 復習：本日の発表の復習 個人発表の準備 課題②を書く</p> <p>【第 7 回】 予習：イギリスの歴史について、調べる。 授業：個人発表 IVイギリス その 2 (イギリスの歴史・文化について①) 復習：本日の発表の復習 個人発表の準備 課題②を書く</p> <p>【第 8 回】 予習：イギリスの文化について調べる。 授業：個人発表 IVイギリス その 3 (イギリスの歴史・文化について②) 復習：本日の発表の復習 個人発表の準備 課題②を書く</p> <p>【第 9 回】 予習：イギリスの文化について調べる。 授業：個人発表 IVイギリス その 4 (イギリスの歴史・文化について③) 復習：本日の発表の復習 個人発表の準備 課題②を書く</p> <p>【第 10 回】 予習：イギリス連邦について調べる。 授業：個人発表 IVイギリス (歴史・文化について④) Vイギリス連邦とは。 復習：本日の発表の復習 個人発表の準備 課題②を書く</p>			

<p>【第 11 回】 予習：オセアニアの資料を集める。 授業：VI オーストラリア その 1) 地理自然 復習：本日の発表の復習 個人発表の準備 課題②を書く</p> <p>【第 12 回】 予習：オセアニアの資料を集める。 授業：VI オーストラリア その 2) 歴史、アボリジニ 復習：本日の発表の復習 個人発表の準備 課題②を書く</p> <p>【第 13 回】 予習：オセアニアの資料を集める。 授業：VI オーストラリア その 3) 文化 復習：本日の発表の復習 個人発表の準備 課題②を書く</p> <p>【第 14 回】 予習：ニュージーランドについて調べる 授業：VII ニュージーランド 歴史、文化 復習：本日の発表の復習 課題②を書く</p> <p>【第 15 回】 予習：これまでの授業を見直す。自分の提出課題①②を見直す。 授業：これまでのまとめ。(イギリスとオーストラリア、ニュージーランドの歴史と文化を通じて学んだ、英語を使う人々の背景を確認する。異文化を理解するにはどうしたらよいか、考える。) 復習：イギリス、オセアニアの文化と日本について考える。</p>
--

授業開始前学習	英語を熱心に学習する。英語圏の国々のニュースに関心を持つ。身近にあるイギリス文化を探る。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回の GoogleForm でのテストに、質問コーナーも設けます。次週に、コメントをします。							
テキスト・教材	各回、配布する。							
参考書	『世界の歴史と文化』（新潮社）、『世界文化史大系』（角川書店）、『イギリス文化を学ぶ人のために』（世界思想社）、『異文化トレーニング』（三修社）、『異文化理解とコミュニケーション』（三修社）							
評価の基準と方法	授業参加態度と GoogleForm でのテスト（40%） 個人発表（準備、提出物、発表、レポート）（40%） 最後のまとめ提出。（20%）							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目	異文化交流 日本紹介の英語 イギリス文学							
その他	講義だけでなく、学生による調査と発表があります。発表をまとめたレポート提出もあります。教職科目の一つですので、出席・授業連絡・締め切りなどは確実に厳守してください。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	異文化理解Ⅱ		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Intercultural Understanding II	授業区分	講義
科目責任者	井戸 桂子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	井戸 桂子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:30～16:00 火曜日 13:10～14:40 後期 火曜日 12:30～15:30	研究室	10-702
授業概要	「異文化理解」では、外国語の背景にある文化の多様性を学ぶ。英語圏の国々の歴史、社会、文化を学ぶと共に、それらに対する日本人の反応を検証する。後半の「異文化理解Ⅱ」では、アメリカ・カナダと英語使用のアジアとアフリカ圏の文化について学ぶ。		
到達目標	アメリカとカナダの歴史、社会、文化について学び、日本との相互関係について理解できるようになる。アジア、アフリカなどで英語を公用語としている状況がわかるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>対面授業のシラバスです。 学生発表の回数や各国のバランスは、実際の履修者とご相談して決定します。発表にあたっては、レジュメ、パワーポイントスライド、小テスト問題を作成してください。後日、そのレポートも提出して下さい。</p> <p>【第1回】 予習：海外のニュースに目を向ける。 授業：世界に広がる英語圏の国々を確認する。英語の歴史を振り返る。 復習：アメリカおよびカナダと、アジアおよびアフリカの各テーマ担当希望を提出。</p> <p>【第2回】 予習：身近にあるアメリカ文化を記す。 授業：アメリカと日本 その1）日本におけるアメリカ文化との邂逅とその後の歴史について。ペリーの来航 アメリカおよびカナダと、アジアおよびアフリカの各テーマ担当を発表。 復習：本日の資料を読み直す。発表担当の資料を探し始める。</p> <p>【第3回】 予習：身近にあるアメリカ文化の影響を探す。 授業：アメリカと日本 その2）日米交流、早期例の検証（ジョン万次郎 マクドナルド） 担当の確認。 復習：本日の資料を読み直す。発表担当の資料を探す。</p> <p>【第4回】 予習：アメリカに関するニュースを探しコメントする。 授業：アメリカと日本 外国と日本 異文化理解について話し合う。第14回でも行う。 アメリカ ① 合衆国の地理：学生発表の開始（プレゼンテーション） 復習：本日の発表について感想を記す。</p> <p>【第5回】 予習：発表練習。 授業：アメリカ ② 合衆国の歴史について：学生発表と質疑応答。（プレゼンテーション） 復習：本日の発表について感想を記す。</p> <p>【第6回】 予習：発表練習。 授業：アメリカ ③ 合衆国の社会について：学生発表と質疑応答。（プレゼンテーション） 復習：本日の発表について感想を記す。</p> <p>【第7回】 予習：発表練習。 授業：アメリカ ④ 合衆国の文化について。：学生発表と質疑応答。（プレゼンテーション） 交流会の準備（ディスカッション） 復習：本日の発表について感想を記す。次週への質問を考えてくる。</p> <p>【第8回】 予習：発表練習。 授業：アメリカ ⑤ 合衆国の文化について。：学生発表と質疑応答。（プレゼンテーション） 交流会の準備（ディスカッション） 復習：本日の発表について感想を記す。次週への質問を考えてくる。</p> <p>【第9回】 予習：アメリカについての情報をまとめる 授業：アメリカ ⑥ ゲストの先生との交流会（ディスカッション） 復習：本日のお話について感想を記す。</p> <p>【第10回】 予習：発表練習。 授業：カナダ ① 歴史と地理について：学生発表と質疑応答。（プレゼンテーション） 復習：本日の発表について感想を記す。</p>			

<p>【第11回】 予習：発表練習。 授業：カナダ②文化について：学生発表と質疑応答。（プレゼンテーション） 復習：本日の発表について感想を記す。</p> <p>【第12回】 予習：アジアの英語について情報を集める 授業：アジアで英語を公用語にしている国々について：学生発表と質疑応答（プレゼンテーション） 復習：本日の発表について感想を記す。</p> <p>【第13回】 予習：担当の資料を集める。 授業：アジアあるいはアフリカで英語を公用語としている国々について（学生発表と質疑応答。）（プレゼンテーション） 復習：本日の発表について感想を記す。</p> <p>【第14回】 予習：発表の練習。 授業：アフリカで英語を公用語としている国々について（学生発表と質疑応答）（プレゼンテーション） 異文化理解とは、何か、ディカッション 復習：本日の発表について感想を記す。</p> <p>【第15回】 予習：これまでの資料を復習する。異文化圏の人々との円滑なコミュニケーションを取るための工夫を考える。 授業：異文化間の相互理解に何が必要か、考える。まとめ 復習：身近にある英語圏の文化をあらためて見直し、まとめる。</p>									
授業開始前学習	英語を熱心に学習する。英語圏の国々のニュースに関心を持つ。身近にあるアメリカとカナダの文化を探す。								
授業内課題の フィードバックの方法	毎回の小テストに、質問コーナーを設け、後日授業で、解答します。 学生発表に関して、事前の指導と発表後の講評を行います。								
テキスト・教材	授業開始時の配布資料、および途中でも随時配布する資料による。								
参考書	『叢書比較文学比較文化』(中央公論社)、『世界の歴史と文化』(新潮社)、『世界文化史大系』(角川書店)、『アメリカ文化を学ぶ人のために』(世界思想社)、『多文化社会アメリカの歴史』(明石書店)、『南北アメリカの500年』(青木書店)、『資料で読むアメリカ文化史』(東京大学出版会)、『異文化トレーニング』(三修社)、『異文化理解とコミュニケーション』(三修社)								
評価の基準と方法	毎回の確認小テスト。(40%) 各自の課題提出と発表。(40%) 最後のまとめ。(20%)								
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当	◎	○		△					
関連科目	イギリス文学 異文化理解Ⅱ 日本紹介の英語								
その他	講義だけでなく、学生による調査と発表があります。発表をまとめたレポート提出もあります。教職科目の一つですので、出席・授業連絡・締め切りなどは確実に厳守してください。								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）								
実務経験を活かした 教育内容									

科目名称	☆英語科教育法 I		
科目分類	113-411-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	English Teaching Methods I	授業区分	講義
科目責任者	中野 達也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野 達也	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-508
授業概要	授業のテーマ・内容：英語科教育法の基本事項に関する文献等を読み、理論と実践面から理解を深めていく。内容に応じて、ペア・ワーク、グループ・ワークを通して、ディスカッションおよびプレゼンテーションを行う。		
到達目標	1. 英語科教育の目的について理解し、説明できる。 2. 高等学校学習指導要領（英語）の内容を理解し、説明できる。 3. 高等学校の英語の指導法について理解し、説明できる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：1 年間の学びについて目標を立てる。 授業：オリエンテーション（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：授業で学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第 2 回】 予習：高校の英語の授業で行った活動を書き出す。 授業：自分の受けてきた高等学校の英語の授業の振り返り（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：自分の受けてきた高等学校の英語の授業の振り返りから学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第 3 回】 予習：自分が使った高校の教科書を読む。 授業：教科書分析（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：教科書分析を通して学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第 4 回】 予習：学習指導要領をインターネットで調べる。 授業：学習指導要領の内容確認（変遷・目的）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：学習指導要領について学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第 5 回】 予習：自分が受けた「コミュニケーション英語」の授業を振り返る。 授業：「コミュニケーション英語基礎・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の授業について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：「コミュニケーション英語基礎・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の授業について学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第 6 回】 予習：自分が受けた「英語表現Ⅰ・Ⅱ」の授業について振り返る。 授業：「英語表現Ⅰ・Ⅱ」の授業について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：「英語表現Ⅰ・Ⅱ」の授業について学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第 7 回】 予習：自分が受けた語彙指導・文法指導について振り返る。 授業：語彙指導・文法指導について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：語彙指導・文法指導について学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第 8 回】 予習：授業中にどのような英語でのやりとりがあったか振り返る。 授業：英語によるインタラクション方法について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：英語によるインタラクション方法について学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第 9 回】 予習：自分が受けた A L T とのチーム・ティーチングについて振り返る。 授業：A L T とのチーム・ティーチングについて（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：A L T とのチーム・ティーチングについて学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第 10 回】 予習：自分が受けてきた授業形態について振り返る。 授業：生徒の特性や習熟度への対応方法について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：生徒の特性や習熟度への対応方法について学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第 11 回】 予習：自分が使用した教材について振り返る。 授業：教材研究方法について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：教材研究方法について学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第 12 回】 予習：指導案の形式について調べ学習をする。 授業：指導案の作成指導および指導案の作成と教材研究（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション）</p>			

<p>復習：指導案の作成指導および指導案の作成と教材研究について学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第13回】</p> <p>予習：担当教員の指導案を予習する。</p> <p>授業：担当教員による模擬授業（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション）</p> <p>復習：担当教員による模擬授業から学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第14回】</p> <p>予習：模擬授業の準備をする。</p> <p>授業：学生による模擬授業（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション）</p> <p>復習：模擬授業のふりかえりをノートにまとめる。</p> <p>【第15回】</p> <p>予習：前期に習ったことをノートで振り返る。</p> <p>授業：高等学校の授業についての学びの総括（前期のまとめ）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション）</p> <p>復習：後期にどのように生かすかを考える。</p>								
授業開始前学習	自分が中学高校時代に使用した英語の教科書を、「自分が教えるときにどのように生かすか」という視点で読んでくること。							
授業内課題の フィードバックの方法	各回提出のレポートは個別に指導する。 共通した質問・課題については授業内で全体講評を行う。							
テキスト・教材	初回の授業で指示する。							
参考書	適宜指示する。							
評価の基準と方法	ディスカッションなど授業への取り組み 40 パーセント、レポート等の提出物 30 パーセント、定期試験 30 パーセントを総合して評価する。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	◎
関連科目								
その他	各自が教職につく身であることを自覚し、学んだ知識を実践で生かせるように授業中のディスカッション、発表、模擬授業に積極的に参加すること。また、教職であることから、遅刻や無断欠席などは認められないので注意のこと。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	中学校・高等学校教員とし教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。							

科目名称	英語科教育法Ⅱ		
科目分類	113-411-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	English Teaching Methods II	授業区分	講義
科目責任者	中野 達也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野 達也	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-508
授業概要	授業のテーマ・内容：英語科教育法の基本事項に関する文献等を読み、理論と実践面から理解を深めていく。内容に応じて、ペア・ワーク、グループ・ワークを通して、ディスカッションおよびプレゼンテーションを行う。		
到達目標	1. 高等学校で英語の授業を行うための知識を身につけ、模擬授業を実施することができる 2. 高等学校で求められる実践的な英語の教授法を身につけ、実習等で行う授業で実施することができる		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：「英語科教育法Ⅰ」の授業を振り返る。 授業：前期の「英語科教育法Ⅰ」の復習（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：授業で学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第2回】 予習：高校の英語の授業を振り返る。 授業：復習・導入活動の工夫（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：復習・導入活動の工夫について学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第3回】 予習：自分が使った高校の教科書を読む。 授業：文法・教科書本文導入活動の工夫（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：文法・教科書本文導入活動の工夫について学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第4回】 予習：自分が受けた語彙指導を振り返る。 授業：語彙指導の工夫（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：語彙指導の工夫について学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第5回】 予習：自分が受けた英語の進め方を振り返る。 授業：授業展開の工夫、教材研究（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：授業展開の工夫、教材研究について学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第6回】 予習：教科書の内容を定着させるために工夫したことを整理する。 授業：定着活動の工夫（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：定着活動の工夫について学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第7回】 予習：自分が受けたICT機器を活用した英語の授業について振り返る。 授業：ICT機器を活用した授業の工夫（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：ICT機器を活用した授業の工夫について学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第8回】 予習：模擬授業に向けた準備をする。 授業：模擬授業に向けた指導案作成の準備（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：模擬授業に向けた指導案作成の準備から学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第9回】 予習：指導案作成の準備をする。 授業：模擬授業に向けた指導案作成（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：模擬授業に向けた指導案作成から学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第10回】 予習：模擬授業（コミュニケーション英語Ⅰ）の準備をする。 授業：学生による模擬授業①（コミュニケーション英語Ⅰ）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：学生による模擬授業①（コミュニケーション英語Ⅰ）から学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第11回】 予習：模擬授業（コミュニケーション英語Ⅱ）の準備をする。 授業：学生による模擬授業②（コミュニケーション英語Ⅱ）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：学生による模擬授業②（コミュニケーション英語Ⅱ）から学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第12回】 予習：模擬授業（英語表現Ⅰ）の準備をする。 授業：学生による模擬授業③（英語表現Ⅰ）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：学生による模擬授業③（英語表現Ⅰ）から学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第13回】</p>			

<p>予習：模擬授業（英語表現Ⅱ）の準備をする。</p> <p>授業：学生による模擬授業④（英語表現Ⅱ）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション）</p> <p>復習：学生による模擬授業④（英語表現Ⅱ）から学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第14回】</p> <p>予習：模擬授業（ALTとのチーム・ティーチング）の準備をする。</p> <p>授業：学生による模擬授業⑤（ALTとのチーム・ティーチング）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション）</p> <p>復習：学生による模擬授業⑤（ALTとのチーム・ティーチング）から学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第15回】</p> <p>予習：前期に習ってきたことをノートで振り返る。</p> <p>授業：学生による模擬授業⑤（ALTとのチーム・ティーチング）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション）</p> <p>復習：後期の授業のまとめをする。</p>								
授業開始前学習	高等学校の英語の教科書と準拠CDを使い、音読練習をすることが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法	各回提出のレポートは個別に指導する。共通した質問・課題については授業内で全体講評を行う。							
テキスト・教材	初回の授業で指示する。							
参考書	適宜指示する。							
評価の基準と方法	模擬授業など授業への取り組み 40 パーセント、レポート等の提出物 30 パーセント、定期試験 30 パーセントを総合して評価する。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	◎
関連科目								
その他	各自が教職につく身であることを自覚し、学んだ知識を実践で生かせるように授業中のディスカッション、発表、模擬授業に積極的に参加すること。また、教職課程であることから、遅刻や無断欠席などは認められないので注意のこと。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校教員とし教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。							

科目名称	英語科教育法Ⅲ		
科目分類	113-411-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	English Teaching MethodsⅢ	授業区分	講義
科目責任者	中野 達也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野 達也	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-508
授業概要	授業のテーマ・内容：英語科教育法の基本事項に関する文献等を読み、理論と実践面から理解を深めていく。内容に応じて、ペア・ワーク、グループ・ワークを通して、ディスカッションおよびプレゼンテーションを行う。		
到達目標	1. 英語科教育の目的について理解し、説明できる 2. 中学校学習指導要領（英語）の内容を理解し、説明できる 3. 中学校の英語の指導法について理解し、説明できる		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：自分が受けた中学の授業を振り返り、記憶に残っている活動をノートにまとめる。 授業：自分の受けてきた中学校の英語の授業の振り返り（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：授業で学んだことをノートにまとめる。			
【第2回】 予習：中学の英語の授業を振り返る。 授業：新旧学習指導要領の違いについて（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：新旧学習指導要領の違いについて学んだことをノートにまとめる。			
【第3回】 予習：自分が使った教科書を読む。 授業：教科書分析と教材研究（登場人物・文法配列・Classroom English）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：教科書分析と教材研究（登場人物・文法配列・Classroom English）で学んだことをノートにまとめる。			
【第4回】 予習：Classroom Englishを書き出す。 授業：Classroom Englishを使った学生による模擬授業（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：Classroom Englishを使った学生による模擬授業から学んだことをノートにまとめる。			
【第5回】 予習：自分が受けた中学1年の英語の授業を振り返る①。 授業：中学1年の授業（導入）について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：中学1年の授業（導入）について学んだことをノートにまとめる。			
【第6回】 予習：自分が受けた中学1年の英語の授業を振り返る②。 授業：中学1年の授業（展開）について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：中学1年の授業（展開）について学んだことをノートにまとめる。			
【第7回】 予習：自分が受けた中学2年の英語の授業を振り返る①。 授業：中学2年の授業（導入）について、自身が受けてきた授業についてのレポートの提出（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：中学2年の授業（導入）について学んだことをノートにまとめる。			
【第8回】 予習：自分が受けた中学2年の英語の授業を振り返る②。 授業：中学2年の授業（展開）について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：中学2年の授業（展開）について学んだことをノートにまとめる。			
【第9回】 予習：自分が受けた中学3年の英語の授業を振り返る①。 授業：中学3年の授業（導入）について、自身が受けてきた授業についてのレポートの講評（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：中学3年の授業（導入）について学んだことをノートにまとめる。			
【第10回】 予習：自分が受けた中学2年の英語の授業を振り返る②。 授業：中学3年の授業（展開）について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：中学3年の授業（展開）について学んだことをノートにまとめる。			
【第11回】 予習：自分が受けた語彙指導・文法指導について振り返る。 授業：語彙指導・文法指導について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：語彙指導・文法指導について学んだことをノートにまとめる。			
【第12回】 予習：自分が受けた音声指導・音読指導について振り返る。 授業：音声指導・音読指導について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション）			

<p>復習：音声指導・音読指導について学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第13回】</p> <p>予習：指導案の形式について調べ学習をする。</p> <p>授業：指導案の作成指導および指導案の作成、教材研究（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション）</p> <p>復習：指導案の作成指導および指導案の作成、教材研究について学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第14回】</p> <p>予習：教師が作成した指導案を予習する。</p> <p>授業：教師による模擬授業（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション）</p> <p>復習：教師による模擬授業から学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第15回】</p> <p>予習：前期に習ってきたことをノートで振り返る。</p> <p>授業：教師による模擬授業（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション）</p> <p>復習：後期にどのように生かすかを考える。</p>								
授業開始前学習	自分が中学高校時代に使用した英語の教科書を、「自分が教えるときにどのように生かすか」という視点で読んでくること。							
授業内課題の フィードバックの方法	各回提出のレポートは個別に指導する。 共通した質問・課題については授業内で全体講評を行う。							
テキスト・教材	初回の授業で指示する							
参考書	適宜指示する。							
評価の基準と方法	ディスカッションなど授業への取り組み 40 パーセント、レポート等の提出物 30 パーセント、定期試験 30 パーセントを総合して評価する。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	◎
関連科目								
その他	各自が教職につく身であることを自覚し、学んだ知識を実践で生かせるように授業中のディスカッション、発表、模擬授業に積極的に参加すること。また、教職課程であることから、遅刻や無断欠席などは認められないので注意のこと。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	中学校・高等学校教員とし教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。							

科目名称	英語科教育法Ⅳ		
科目分類	113-411-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	English Teaching MethodsⅣ	授業区分	講義
科目責任者	中野 達也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野 達也	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-508
授業概要	授業のテーマ・内容：英語科教育法の基本事項に関する文献等を読み、理論と実践面から理解を深めていく。内容に応じて、ペア・ワーク、グループ・ワークを通して、ディスカッションおよびプレゼンテーションを行う。		
到達目標	1. 中学校で英語の授業を行うための知識を身につけ、模擬授業を実施することができる 2. 中学校で求められる実践的な英語の教授法を身につけ、実習等で行う授業で実施することができる		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：観点別評価について調べ学習する。 授業：学習到達目標・観点別評価について考える（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：学習到達目標・観点別評価について授業で学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第2回】 予習：アクティブ・ラーニングについて調べ学習する。 授業：アクティブ・ラーニングの取り入れ方について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：アクティブ・ラーニングの取り入れ方について学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第3回】 予習：4技能5領域について調べ学習する。 授業：「聞くこと」「話すこと（発表・やり取り）」「読むこと」「書くこと」の5領域を統合した授業について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：「聞くこと」「話すこと（発表・やり取り）」「読むこと」「書くこと」の5領域を統合した授業について学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第4回】 予習：自分が受けた授業ではどれくらい英語が使用されていたか振り返る。 授業：英語で行う授業方法について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：英語で行う授業方法について学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第5回】 予習：自分が受けたALTとのteam teachingの授業を振り返る。 授業：ALTとのteam teachingの方法について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：ALTとのteam teachingの方法について学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第6回】 予習：自分が受けたICTを使った授業について振り返る。 授業：ICTを使った授業方法について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：ICTを使った授業方法について学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第7回】 予習：年間指導計画の立て方について調べ学習する。 授業：年間指導計画の作成（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：年間指導計画の作成について学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第8回】 予習：自分が受けてきた英語の授業について振り返る 授業：評価方法について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：評価方法について学んだことをノートにまとめる</p> <p>【第9回】 予習：指導案作成の準備をする。 授業：模擬授業に向けた指導案作成の準備、教材研究（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：模擬授業に向けた指導案作成の準備、教材研究について学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第10回】 予習：指導案作成の準備をする。 授業：学生による模擬授業に向けた指導案作成（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：学生による模擬授業に向けた指導案作成から学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第11回】 予習：中学1年生対象の模擬授業の準備をする。 授業：学生による模擬授業①（中学1年生対象）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：学生による模擬授業①（中学1年生対象）から学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第12回】 予習：中学2年生対象の模擬授業の準備をする。 授業：学生による模擬授業②（中学2年生対象）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：学生による模擬授業②（中学2年生対象）について学んだことをノートにまとめる。</p>			

<p>【第13回】 予習：中学3年生対象の模擬授業の準備をする。 授業：学生による模擬授業③（中学3年生対象）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：学生による模擬授業③（中学3年生対象）から学んだことについてノートにまとめる。</p> <p>【第14回】 予習：チーム・ティーチングによる模擬授業の準備をする。 授業：学生による模擬授業④（チーム・ティーチング）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：学生による模擬授業④（チーム・ティーチング）から学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第15回】 予習：後期に学んだことをノートで振り返る。 第15回 中学校の授業についての学びの総括（後期のまとめ）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 授業：中学校の授業についての学びの総括（後期のまとめ）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：後期のまとめをする。</p>								
授業開始前学習	中学校、高等学校の英語教科書をCDを使いながら音読練習等をする。							
授業内課題の フィードバックの方法	各回提出のレポートは個別に指導する。 共通した質問・課題については授業内で全体講評を行う。							
テキスト・教材	初回の授業で指示する。							
参考書	適宜指示する。							
評価の基準と方法	ディスカッション・模擬授業など授業への取り組み 40 パーセント、レポート等の提出物 30 パーセント、定期試験 30 パーセントを総合して評価する。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	◎
関連科目								
その他	各自が教職につく身であることを自覚し、学んだ知識を実践で生かせるように授業中のディスカッション、発表、模擬授業に積極的に参加すること。また、教職であることから、遅刻や無断欠席などは認められないので注意のこと。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	中学校・高等学校教員とし教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。							

科目名称	国語教育概論 I		
科目分類	111-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Overview of Teaching Japanese as a Second Language I	授業区分	講義
科目責任者	萩原 茂	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	萩原 茂	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	本講義は国語教育の歴史や概要を学ぶことを通して、国語科教育についての基礎的な知識を修得することを目的とする。具体的には、明治以降今日に至るまでの国語教育や国語教科書の歴史および学習指導要領の変遷などについて概説するとともに、国語科の教科構造や教科内容、単元構成、系統性、他教科との関連等について概説する。さらに「国語を学ぶ」とはどういうことなのか、その本質や意味についても考察していく。また、授業ではディスカッションやグループ発表などのグループワークを行う。		
到達目標	国語教育の歴史や国語教科書の歴史および学習指導要領の変遷などについての理解を深めることができる。国語教育の現状を知り、課題についての認識を深める。国語科が学校全体の言語活動を支える基幹教科であることを理解する。国語科教員をめざすという目的意識を深め、教員としての資質を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：教科書（1頁～9頁）を講読する。 授業：ガイダンス／国語科教育の課題一言葉について学ぶとはどのようなことか。 復習：国語を学ぶことの意義について、確認する。</p> <p>【第2回】 予習：方言が標準語でどう言い換えられているか、調べる。 授業：明治時代の国語教育①標準語（共通語）が誕生するまでの経緯 復習：言文一致が定着するまでの経緯について確認する。</p> <p>【第3回】 予習：高校の時に習った国語科の科目にどのようなものがあつたかについて調べる。 授業：明治時代の国語教育②国語科の成立 復習：国語科の教科内容について確認する。 課題①：教育勅語について／八重山教科書採択問題について／唱歌と童謡について</p> <p>【第4回】 予習：高校の時使った現代文の教科書に掲載されている単元(ジャンル)について調べる。 授業：明治時代の国語教育③近代教科書の歴史 復習：国定教科書ができるまでの経緯について確認する。</p> <p>【第5回】 予習：教科書の内容の変化について、確認する。 授業：明治時代の国語教育④近代教科書の歴史と現代とのつながり 復習：明治時代と現代との類似点について、考える。</p> <p>【第6回】 予習：教科書（53頁～64頁）を講読する。 授業：大正時代の国語教育①大正の新教育と作文教育の革新（グループ・ワーク） 復習：綴り方（作文）について異なる考え方があることを確認する。 課題②：与謝野晶子「君死にたまふことなかれ」について／「そぞろごと」について</p> <p>【第7回】 予習：与謝野晶子の略歴について調べる。 授業：大正時代の国語教育③～文化学院と与謝野晶子～ 復習：与謝野晶子の教育の特色を整理する。</p> <p>【第8回】 予習：与謝野晶子の歌について数首調べる。 授業：大正時代の国語教育②～与謝野晶子が編纂した教科書・同時代の教科書にふれて～ 復習：与謝野晶子が作った教科書の特色を整理する。</p> <p>【第9回】 予習：満州事変から太平洋戦争までの年代について調べる。 授業：昭和時代の国語教育(戦前)①国定教科書の変遷とその時代背景（グループ・ワーク） 復習：戦前の日本の教育状況について整理する。</p>			

<p>【第10回】 予習：教科書（10頁～19頁）（65頁～76頁）を講読／修身の教科書と国語の教科書の比較 授業：昭和時代の国語教育（戦後）②戦後国語教育の概要とその問題 復習：文学教育のあり方について整理する。 課題③：「読書指導の工夫」について</p> <p>【第11回】 予習：教科書（13頁～17頁）を講読する。 授業：現代の国語教育①～戦後から現代までの学習指導要領の変遷～ 復習：各学習指導要領の特色を理解する。</p> <p>【第12回】 予習：教科書（201頁～211頁）を講読する。 授業：現代の国語教育②最新の高等学校・学習指導要領～中学校学習指導要領にふれて～ 最新の高等学校・学習指導要領に関するレポートの説明 復習：自身が受けた科目名と内容の違いを理解する。</p> <p>【第13回】 予習：事前に配付された資料（朗読する作品）を講読する。 授業：プロによる朗読指導～学習指導要領「話すこと・聞くこと」に関連して～ 復習：朗読の仕方についての認識を深める。</p> <p>【第14回】 予習：自身感動した児童文学を確認する。 授業：現代の国語教育③ 攻撃されたり、消えたりした教科書の中の児童文学 最新の高等学校・学習指導要領に関するレポートの提出 復習：児童文学が攻撃されたり、消えたりした背景を確認する。</p> <p>【第15回】 予習：テキスト（10頁～19頁）（190頁～216頁）を講読する。 授業：読書指導の工夫／学期末レポート提出 前期の授業の振りかえり—これからの国語科教育に向けて 復習：自身が教員の立場に立って、国語科教育について考える。</p>								
授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	授業の第14回に提出されたレポートについては、第15回に講評を行う。課題①～③については、随時授業時に発表する。							
テキスト・教材	授業時に適宜資料を配付する。 教科書・町田守弘編『【第三版】実践国語科教育法』（学文社）。							
参考書	柴田義松、阿部昇、鶴田清司編著『新しい国語科指導法 五訂版』（学文社） 『国語科重要語事典』（明治図書）。このほかに授業に沿って推薦図書を紹介する。							
評価の基準と方法	平常点（授業へり取り組み・レポート・課題提出）65%と学期末レポート35%による。 大学の規定によりGPAが1.5～2.5の範囲で評価をつける。 欠席が6回以上は、原則として単位が与えられない。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎			◎		○	
関連科目								
その他	グループワークは「授業のテーマ・内容」に示した以外の授業でも随時取り入れる。なお、受講数者の数や発表内容により、授業の予定を変更することがある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	中学校および高等学校の教諭として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、国語科教員としての必要な基礎的知識・技術や心構えについての講義をする。							

科目名称	国語教育概論Ⅱ		
科目分類	111-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Overview of Teaching Japanese as a Second Language II	授業区分	講義
科目責任者	萩原 茂	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	萩原 茂	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	本講義は現在の国語教育の内容や諸問題を学ぶことを通して、国語科教育の意義を理解し、国語科の教員としての必要な知識を身につけることを目的とする。具体的には現行の学習指導要領の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域の内容を概説したうえで、国語教育の方法や学習指導法、教材について、さらには国語教育の様々な問題について概説する。国語科とは何を教え、どう力を育てるべき教科なのか、考える力を修得する。また、授業ではディスカッションやグループ発表などのグループワークを行う。		
到達目標	国語の授業を行うための基本的知識や技術を身につける。具体的な教材を取り上げ、指導法について研究する。新たな視点からの教材を取り入れ、今後の国語教育のあり方を探ることができる。国語科教員をめざすという目的意識を深め、教員としての資質を養う。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習:テキスト（12頁～17頁+201頁～211頁）を講読する。 授業：ガイダンス(授業全体の概要)／最新の学習指導要領①：高等学校の履修シミュレーションと実際 復習：「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域の内容の確認</p> <p>【第2回】 予習：高校までに習った教材（文学作品）で印象に残っているものについて確認する。 授業：現在の国語教育①小説：定番教材と副教材を利用した新たな教材 復習：これから残したい定番教材について確認する。</p> <p>【第3回】 予習：教科書（100頁～109頁+120頁～121頁）を講読する。 授業：論理的文章の授業の組み立て①「水の東西」から、二項対立について学ぶ～アクティブ・ラーニングを取り入れた授業～／二項対立に関するレポートの説明 復習：東洋と西洋の違い（二項対立）について考える。</p> <p>【第4回】 予習：夏目漱石の略歴について調べる。 授業：論理的文章の授業の組み立て②「現代日本の開化」を通して、日本の近現代のあり方について考える。 復習：西洋との関わりから、日本の近代化をめぐる苦悩と模索について整理する。</p> <p>【第5回】 予習：教科書（65頁～74頁）を講読する。 授業：文学的文章の授業の組み立て①～平和教材について その1～ 復習：授業で扱った以外の平和教材を講読する。 課題①：もっとも印象に残った平和教材／「かわいそうなぞう」と「ぞうとにんげん」の比較など</p> <p>【第6回】 予習：教科書（65頁～74頁）を講読する。 授業：文学的文章の授業の組み立て②～平和教材について その2～ 復習：平和教材とトラウマとの関連について考える。</p> <p>【第7回】 予習：教科書（201頁～211頁）を確認する。 授業：最新の学習指導要領②：高校学習指導要領の分析と今後の課題／二項対立に関するレポートの提出 復習：旧課程の学習指導要領との相違を理解する。</p> <p>【第8回】 予習：資料（教科書の目次）を確認する。 授業：最新の学習指導要領③：旧課程と現課程の中学校教科書の比較 復習：現課程から掲載された教材を読む。</p> <p>【第9回】 予習：教科書（77頁～88頁）を講読する。 授業：文学的文章の授業の組み立て③～随想と詩の授業～ 茨木のり子の随想「空と星と風と詩」と伊東柱の詩について（グループ学習）</p>			

復習：自身が好きな尹東柱の詩を確認する。
課題②：尹東柱の詩で印象に残った詩についての感想

【第10回】

予習：教科書（77頁～88頁）を講読する。
授業：文学的文章の授業の組み立て④～随想と詩の授業～
茨木のり子の随想「空と星と風と詩」と茨木のり子の詩について（グループ学習）
復習：自身が好きな尹東柱の詩を確認する。
課題③：指定された言葉の意味と用法について、自分で考えたものを書く。

【第11回】

予習：資料(小論文の書き方)を講読する。
授業：小論文指導の実際～基本的な書き方と大学入試問題～
復習：添削のポイントについて整理する。

【第12回】

予習：自身(学生)が使っている辞書を確認する。
授業：現在の国語教育②辞書の研究と言葉に関する知識・教養
復習：言葉の使い方の変化について確認する。

【13回】

予習：高校の時に習った近代文学史を確認する。
授業：近代文学史～作家の経歴と作品の風景～
復習：文学館や記念館などを訪ねる。

日本近代文学館 漱石山房記念館(漱石旧居跡) 森鷗外記念館(鷗外旧居跡) 水月ホテル(鷗外旧居) 田端文士村記念館 太宰治文学サロン 山本有三記念館(有三旧居) 林芙美子記念館(芙美子旧居) 新宿歴史博物館 白根記念渋谷区郷土博物館・文学館 神奈川近代文学館 東京子ども図書館・かつら文庫(石井桃子旧居) 国立国会図書館国際子ども図書館 谷中霊園 多磨霊園 青山霊園 雑司ヶ谷霊園

【第14回】

予習：テキスト(89頁～99頁)を講読する。
授業：現在の国語教育③古典教育の今とこれから～文法はどこまで必要なのか～
復習：最新の学習指導要領と関連させ、古典教育の意義について整理する。

第15回】

授業：授業と読書/学期末レポートの提出
後期の授業の振りかえり/国語科の教員として求められるもの
予習：教科書(1頁～9頁)(160頁～169頁)を講読する。
復習：批判精神を持つ大切さについて認識し、国語科教員を目指す者としての心構えを確認する。

授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	授業の第7回に提出するレポートについては、第10回に講評を行う。課題①～③については、随時授業で発表する。							
テキスト・教材	授業時に適宜資料を配付する。 教科書・町田守弘編『第三版 実践国語科教育法』(学文社)。							
参考書	『柴田義松、阿部昇、鶴田清司編著『あたらしい国語科指導法 五訂版』(学文社) 『国語科重要語事典』(明治図書)。 このほかに授業に沿って推薦図書を紹介する。							
評価の基準と方法	平常点(授業の取り組み、レポート・課題提出)65%と学期末レポート35%による。 大学の規定によりGPAが1.5～2.5の範囲で評価をつける。 欠席が6回以上は、原則として単位が与えられない。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎			◎		○	
関連科目								
その他	グループワークは「授業のテーマ・内容」に示した以外の授業でも随時取り入れる。なお、受講数者の数や発表内容により、授業の予定を変更することがある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容	中学校および高等学校の教諭として教科指導や生徒指導・進路指導などの各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、国語科教員としての必要な基礎的知識・技術や心構えについて講義する。							

科目名称	児童文学		
科目分類	111-331-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Children's Literature	授業区分	講義
科目責任者	木内 英実	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木内 英実	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 10:40～12:10	研究室	10-620
授業概要	日本の児童文学史の流れを概説しながら、いくつかの児童文学作品を読み、その特徴と歴史性について考え、近代日本における児童文学の意義と役割について講義する。明治期に誕生した「児童」という概念や、大正期の雑誌『赤い鳥』に代表される「童心主義」的な童話が、昭和期の戦争と敗戦を経て、どのように変化しながら現代へと続いていくのかを考察する。この授業では課題解決型学習を行う。		
到達目標	日本の児童文学と、近代日本の歴史との関わりについての理解を深める。 児童文学作品について自分なりの考えをまとめ、先行研究を踏まえて論じることができるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：日本の児童文学について、知っていることをまとめておく 授業：日本の近代文学と児童文学との関係性、児童文学史の起点について 復習：授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第2回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：日本の文明開化およびキリスト教、科学読み物、翻訳との関わり（明治期1） 復習：授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第3回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：創作児童文学の始まり、巖谷小波について（明治期2） 復習：授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第4回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：児童文学における明治期のおどろき話、科学読み物作品等について議論を深め考察する（課題解決型学習） 復習：授業で学んだことをまとめ、課題1に取り組む</p> <p>【第5回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：大正期「童謡童話作品」について学ぶ 復習：授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第6回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：雑誌『赤い鳥』とその影響（大正期1） 復習：授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第7回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：芥川龍之介「蜘蛛の糸」を読み、課題2を行う（課題解決型学習） 復習：授業で学んだことをまとめ、課題2に取り組む</p> <p>【第8回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：「児童」の発見と「童心主義」について（大正期2）・課題2解説 復習：授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第9回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：児童文学冬の時代・プロレタリア児童文学と生活童話（昭和戦前期1） 復習：授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第10回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：宮沢賢治「雪渡り」を読み、課題3を書く（課題解決型学習） 復習：授業で学んだことをまとめ、課題3に取り組む</p> <p>【第11回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：言論統制と戦時下の児童文学について（昭和戦前期2）・課題3解説 復習：授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第12回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：新美南吉「手袋を買いに」を読み、課題4を書く（課題解決型学習） 復習：授業で学んだことをまとめ、課題4に取り組む</p>			

<p>【第13回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：「童話伝説批判」と戦後の児童文学の成立（戦後から現代へ1）・課題4解説 復習：授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第14回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：児童文学のタブーの崩壊、ラノベ等児童文学の多様化、子どもの本の現在（戦後から現代へ2） 復習：授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第15回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：日本の児童文学の特徴と歴史性、ジャンルの意義と役割について（全体のまとめ） 復習：授業全体を振り返り、整理しておく</p>								
授業開始前学習	指定テキストをはじめ児童文学に関する文献を図書館等で探し、目を通しておく。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業で取り上げる児童文学作品について、それぞれ授業内課題を書いて提出してもらう。それをもとに作品の説明を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	『児童文学の教科書』川端有子著（玉川大学出版部）							
参考書	『子ども観の近代－「赤い鳥」と「童心」の理想－』河原和枝著（中公新書）、『はじめて学ぶ日本児童文学史』鳥越信編著（ミネルヴァ書房）							
評価の基準と方法	授業内課題（40%）と、学期末レポート（60%）で評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎			◎			
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	日本の詩歌		
科目分類	111-331-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese Poetry	授業区分	講義
科目責任者	三田 誠司	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三田 誠司	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10	研究室	10-611
授業概要	日本の詩歌の特質について学ぶことを目的とする。上代の和歌と中古の和歌を中心とし、中世から近世の和歌についても考察する。近代以降の詩歌については正岡子規の改革運動を中心として略述する。日本文学における詩歌の意義について理解し、作品に表れたものの見方や考え方、現代における詩歌の意義などについて、各受講者なりの考えを持つことができるようにする。そのため、受講生の意見発表や、質疑応答の機会を適宜設ける。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の詩歌の特質について、自分なりの考えを説明することができる。 ・日本の主要な詩歌作品について簡潔に説明することができる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：日本の詩歌に関する入門書を読んでおく 授業：万葉集第1期の和歌 額田王の作品 復習：課題に取り組む</p> <p>【第2回】 予習：万葉集について調べる 授業：万葉集第1期～2期の和歌 皇子・皇女の作品 復習：課題に取り組む</p> <p>【第3回】 予習：人麻呂について調べる 授業：万葉集第2期の和歌 柿本人麻呂の雑歌・挽歌 復習：課題に取り組む</p> <p>【第4回】 予習：人麻呂について調べる 授業：万葉集第2期の和歌 柿本人麻呂の相聞 復習：課題に取り組む</p> <p>【第5回】 予習：赤人について調べる 授業：万葉集第3期の和歌 山部赤人の作品 復習：課題に取り組む</p> <p>【第6回】 予習：高橋虫麻呂について調べる 授業：万葉集第3期の和歌 高橋虫麻呂の作品 復習：課題に取り組む</p> <p>【第7回】 予習：大伴旅人について調べる 授業：万葉集第3期の和歌 大伴旅人の作品 復習：課題に取り組む</p> <p>【第8回】 予習：山上憶良について調べる 授業：万葉集第3期の和歌 山上憶良の作品 復習：課題に取り組む</p> <p>【第9回】 予習：坂上郎女について調べる 授業：万葉集第4期の和歌 大伴坂上郎女の作品 復習：課題に取り組む</p> <p>【第10回】 予習：大伴家持について調べる 授業：万葉集第4期の和歌 大伴家持の作品 復習：課題に取り組む</p> <p>【第11回】 予習：和歌の技法について調べる 授業：平安時代の和歌1 和歌の技法 復習：課題に取り組む</p> <p>【第12回】 予習：古今集について調べる 授業：平安時代の和歌2 勅撰和歌集の構造 復習：課題に取り組む</p>			

<p>【第13回】 予習：新古今和歌集について調べる 授業：平安時代の和歌3 平安後期から鎌倉時代へ 復習：課題に取り組む</p> <p>【第14回】 予習：中世の和歌について調べる 授業：中世の和歌 鎌倉時代から室町時代 復習：課題に取り組む</p> <p>【第15回】 予習：近世の和歌について調べる 授業：近世の和歌 復習：課題に取り組む</p>								
授業開始前学習	百人一首など身近な和歌に触れておく。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回の課題（授業の感想・質問等）は、適宜コメント等を付し次回以降に返却する。							
テキスト・教材	教員作成のプリント（資料）を配付する。							
参考書	授業時に指示する。							
評価の基準と方法	授業時の課題（70%）とレポート（30%）により判断する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎			◎		△	
関連科目	古典文学概論 日本文学史など							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	ボランティア実習 I							
科目分類	100-131-21	単位数	履修ガイド参照					
英文名称	Volunteer Practice I		授業区分	演習・実習・実技				
科目責任者	臼井 実穂子		必修・選択	履修ガイド参照				
担当教員	臼井 実穂子		開講時期	履修ガイド参照				
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10		研究室	10-705				
授業概要	学外に人の輪を広げよう 国内（地域）ボランティア：駒沢学園女子中学・高等学校において教育ボランティア、稲城市および近隣地域の施設などで、地元密着型のボランティア活動をおこなう。							
到達目標	履修者が将来、国際社会、地域社会において有用な人材になる第一歩となることを目標とする。							
アクティブ・ラーニング 型授業	有							
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）								
<p>本実習に該当する海外・地域ボランティアは以下を想定している。 海外ボランティア：休暇中に、履修者自身で選んだ学外の団体が行う海外ボランティアに2週間以上参加する。 地域ボランティア：地域に貢献するボランティアに定期的もしくは複数回参加する（45時間以上）</p> <p>課題学習と単位取得条件 海外ボランティア：①事前に担当教員と面談 ②事前にボランティア活動届を学生支援課に提出 ③参加証明書の提出 ④危機管理ガイダンスへの参加 ⑤ボランティア活動記録（ポータルサイトよりダウンロード）もしくは4000字程度のレポートの提出</p> <p>国内ボランティア：①担当教員による個別ガイダンスを受ける ②事前に担当教員と面談 ③事前にボランティア活動届を学生支援課に提出 ④ボランティア活動記録（ポータルサイトよりダウンロード）の提出</p>								
授業開始前学習	ポータルサイトの学生支援課のボランティア活動に関する注意事項を必ず確認すること							
授業内課題の フィードバックの方法	科目の性質上、通常の講義科目とは異なるため、提出されるボランティア活動記録によることになる							
テキスト・教材	ポータルサイトの学生支援課のボランティアに関する注意事項							
参考書	適宜指示する							
評価の基準と方法	単位取得条件を全てクリアした上で、活動記録（海外ボランティア活動の場合はレポートも可）により評価							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性を身につける	自己実現のためのコミュニケーション力と社会性を身につける	社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力を身につける	文化の創造的担い手となるための技術力と実践力を身につける				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△	○	△			△		○
関連科目	特になし							

<p>その他</p>	<p>【重要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目登録を確定した時点で必ず、臼井研究室（10-705）を訪ねてください。 ・ボランティア活動届を学生支援課にボランティア活動開始前に必ず提出してください。 ・ボランティア活動届およびボランティア活動記録については、大学のポータルサイトに書式があります。 ・履修者のボランティア活動中の事故等について、責任を負うものではありません。
<p>予習・復習の 所要時間</p>	<p>講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）</p>
<p>実務経験を活かした 教育内容</p>	

科目名称	ボランティア実習Ⅱ							
科目分類	100-131-22	単位数	履修ガイド参照					
英文名称	Volunteer Practice II		授業区分	演習・実習・実技				
科目責任者	臼井 実穂子		必修・選択	履修ガイド参照				
担当教員	臼井 実穂子		開講時期	履修ガイド参照				
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10		研究室	10-705				
授業概要	<p>本科目はボランティア実習Ⅰの履修後、さらに同種の活動を行おうとする学生が対象である。</p> <p>海外ボランティア 海外におけるボランティア活動を通して、履修者が多種多様な文化や習慣の違いを受け入れ、将来、国際社会のなかで生き抜く術を学ぶ。</p> <p>国内ボランティア 稲城市および近隣地域の施設などで、地元と密着型のボランティア活動を中心に行う。</p>							
到達目標	履修者が将来、国際社会、地域社会において有用な人材になる第一歩になることを目標とする							
アクティブ・ラーニング型授業	有							
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）								
<p>本実習に該当する海外・地域ボランティアは以下を想定している。</p> <p>海外ボランティア：休暇中に、履修者自身で選んだ学外の団体が行う海外ボランティアに2週間以上参加する。</p> <p>地域ボランティア：地域に貢献するボランティアに定期的もしくは複数回参加する（45時間以上）</p> <p>課題学習と単位取得条件</p> <p>海外ボランティア：①事前に担当教員と面談 ②事前にボランティア活動届を学生支援課に提出 ③参加証明書の提出 ④危機管理ガイダンスへの参加 ⑤ボランティア活動記録（ポータルサイトよりダウンロード）もしくは4000字程度のレポートの提出</p> <p>国内ボランティア：①担当教員による個別ガイダンスを受ける ②事前に担当教員と面談 ③事前にボランティア活動届を学生支援課に提出 ④ボランティア活動記録（ポータルサイトよりダウンロード）の提出</p>								
授業開始前学習	ポータルサイトの学生支援課のボランティア活動に関する注意事項を必ず確認すること。							
授業内課題のフィードバックの方法	科目の性質上、ボランティア活動記録を活用する							
テキスト・教材	ポータルサイトの学生支援課のボランティア活動に関する注意事項							
参考書	特になし							
評価の基準と方法	単位取得条件を全てクリアした上で、活動記録（海外ボランティア活動の場合はレポートも可）により評価							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性を身につける	自己実現のためのコミュニケーション力と社会性を身につける	社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力を身につける	文化の創造的担い手となるための技術力と実践力を身につける				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△	○	△			△		○
関連科目								
その他	<p>【重要】科目登録を確定した時点で必ず、臼井研究室（10-705）を訪ねてください。</p> <p>ボランティア実習Ⅰの単位取得者を対象とします。（段階科目）</p> <p>ボランティア活動届を学生支援課にボランティア活動開始前に必ず提出してください。</p> <p>ボランティア活動届およびボランティア活動記録については、大学のポータルサイトに書式があります。</p> <p>履修者のボランティア活動中の事故等について、責任を負うものではありません。</p>							

予習・復習の 所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間 (2 時間×15 週)
実務経験を活かした 教育内容	

科目名称	生涯学習論 I		
科目分類	100-121-11	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Life-Long Education Studies I	授業区分	講義
科目責任者	山本 双葉	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山本 双葉	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 11:00～14:00 後期 木曜日 11:00～14:00	研究室	16-316
授業概要	<p>本授業は、生涯学習の意義・目的や定義を学び、生涯学習社会の実現について討論することから始める。また、生涯学習の基礎理論や歴史的背景を学び、生涯学習の多様な在り方についての理解を深める。そして、国際社会が目指す人間像や生涯「学修」の特性を踏まえ、自身の長期的な学修課題について考察を深めていく。そのため、講義毎に「学びのドキュメンテーション」を作成することを求める。自身の学修プロセスの記録や振り返りを通じ、学修課題の明確化に役立ててほしい。</p>		
到達目標	<p>本授業では、生涯学習の基礎理論や歴史的背景を学びながら、自発的意志に基づく「学修」の特性を体得することを目指す。具体的な到達目標として、以下の4点を挙げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯学習の歴史的背景や基礎理論に関する知識を修得することができる 2. 現代的課題に応じた生涯学習の内容を理解することができる 3. 生涯学習における多様な学習方法を理解することができる 4. 生涯学習の意義や目的を踏まえ、自発的意思に基づく「学修」の特性を体得することができる 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：「生涯学習」の意味を調べ、ノートにまとめる 授業：生涯学習の意義・目的と定義を学ぶ 復習：生涯学習を学ぶ意味を振り返る</p> <p>【第2回】 予習：「生涯学習社会」の意味を調べ、ノートにまとめる 授業：生涯学習社会の実現について考察する 復習：生涯学習社会の果たす役割について整理する</p> <p>【第3回】 予習：学校や家庭、地域社会で受けてきた教育による自分の育ちを振り返り、身に付けた力をノートに書き出す 授業：学校教育・家庭教育・社会教育の関連性を学ぶ 復習：生涯学習が行われる場所の違いによる学修内容の違いを整理する</p> <p>【第4回】 予習：社会人や高齢者が取り組んでいる生涯学習活動について調べ、ノートにまとめる 授業：生涯学習の基礎理論①を学ぶ（教育学、成人教育学、教育老年学） 復習：「ペダゴジー」「アンドラゴジー」「ジェロゴジー」の意味の違いを整理する</p> <p>【第5回】 予習：「リカレント教育」について調べ、ノートにまとめる 授業：生涯学習の基礎理論②を学ぶ（統合・循環・解放の理論） 復習：「統合」「解放」「循環」による生涯学習の基礎理論を整理する</p> <p>【第6回】 予習：「ライフサイクル理論」について調べ、ノートにまとめる 授業：生涯にわたる人間形成の理論を学ぶ（ライフサイクル理論、発達課題など） 復習：孔子やコメニウスの発達観、エリクソンやハヴィガーストの発達理論を整理する</p> <p>【第7回】 予習：「寺子屋」や「私塾」について調べ、ノートにまとめる 授業：日本における生涯学習の誕生と展開を学ぶ 復習：日本における生涯学習の展開について時代別に整理する</p> <p>【第8回】 予習：イギリスの「コーヒーハウス」について調べ、ノートにまとめる 授業：欧米における生涯学習の誕生と展開を学ぶ 復習：ドイツ・フランス・イギリス・アメリカ・ブラジルにおける生涯学習の展開を整理する</p> <p>【第9回】 予習：Well-Being について調べ、ノートにまとめる 授業：現代の生涯学習の内容を学ぶ①（生きがい、身体・精神的健康、まちづくり） 復習：「生きがい」「身体・精神的健康」「まちづくり」の生涯学習について整理する</p> <p>【第10回】 予習：少子高齢化社会の課題について調べ、ノートにまとめる 授業：現代の生涯学習の内容を学ぶ②（少子高齢化、消費・環境問題、男女共同参画、国際化） 復習：「少子高齢化」「消費・環境問題」「男女共同参画」「国際化」の生涯学習について整理する</p>			

<p>【第11回】 予習：これまで受けてきた授業について振り返り、理解しやすかった授業の特徴をノートに書き出す 授業：生涯学習の多様な学習方法を学ぶ①（学習方法の種類、講義型・討論型） 復習：講義型・討論型による学習の長所と短所を整理する</p> <p>【第12回】 予習：これまで参加してきた体験活動をノートに書き出す【グループワーク】 授業：生涯学習の多様な学習方法を学ぶ②（体験型・実験型・ブレインストーミング） 復習：体験型・実験型・ブレインストーミングによる学習の長所と短所を整理する</p> <p>【第13回】 予習：「キー・コンピテンシー」の意味を調べ、ノートにまとめる 授業：生涯学習社会が目指す人間像を学ぶ①（国際的な能力基準「キー・コンピテンシー」） 復習：現在の自己の能力と「キー・コンピテンシー」を比較する</p> <p>【第14回】 予習：「社会人基礎力」の意味を調べ、ノートにまとめる 授業：生涯学習社会が目指す人間像を学ぶ②（職業能力の育成「社会人基礎力」） 復習：現在の自己の能力と「社会人基礎力」を比較する</p> <p>【第15回】 予習：これまでの授業で取り上げた内容を振り返り、疑問点をノートにまとめておく 授業：自発的意思に基づく「学修」の特性を振り返る（自身の学修課題の明確化）及び最終試験 復習：自身の興味・関心が高い事柄について生涯学習を進める</p>								
授業開始前学習	生涯学習に関する書籍を講読する							
授業内課題の フィードバックの方法	講義毎に小レポートを実施する（翌週の講義内にて、適宜、講評する）。							
テキスト・教材	香川正弘・鈴木真理・佐々木英和編『よくわかる生涯学習』（ミネルヴァ書房）							
参考書	関口礼子・小池源吾・西岡正子・鈴木志元・堀薫夫著『新しい時代の生涯学習』（有斐閣アルマ）							
評価の基準と方法	講義毎の小レポート（60%）、最終試験（40%）							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性を身につける		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性を身につける		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力を身につける		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力を身につける	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○	○		
関連科目	学芸員養成課程と教職課程に位置づく本科目は、他の博物館に関する科目や教職科目と関連している。特に、生涯学習の意義・目的、生涯学習社会の理念を踏まえた学びが展開される科目との有機的関連性は高い。							
その他	図書館や博物館など、生涯学習の拠点となる身近な施設を訪れること 日常生活の中から湧き出た疑問を解決するクセをつけること							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	生涯学習論Ⅱ		
科目分類	100-121-11	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Life-Long Education StudiesⅡ	授業区分	講義
科目責任者	山本 双葉	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山本 双葉	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 11:00～14:00 後期 木曜日 11:00～14:00	研究室	16-316
授業概要	<p>本授業では、生涯学習に関する法制度や行政による振興政策、生涯学習を支える施設や職員の役割を学びながら、自身の学修課題を設定し、生涯学習を進める事業計画案（生涯学習プログラム）を開発・宣伝する活動を行う（自身の学修課題に基づく課題解決型学習とプレゼンテーションを行う）。</p> <p>特に、生涯学習における「青少年教育」を題材とした講義では、生涯学習支援者としての役割の理解を深めるため、体験活動の意義や青少年教育施設の役割を学ぶだけでなく、学習成果の評価や振り返る方法についても学ぶ。</p>		
到達目標	<p>本授業では、生涯学習に関する法制度や行政の振興政策を学びながら、生涯学習支援者としての役割を自覚することを目指す。具体的な到達目標として、以下の4点を挙げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯学習を支える制度（法律や行政の取り組み）に関する知識を修得することができる 2. 生涯学習を支える施設や職員の役割に関する知識を修得することができる 3. 生涯学習における青少年教育の重要性を理解することができる 4. 生涯学習プログラムの開発を通して、生涯学習支援者としての役割を自覚することができる 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：生涯学習論Ⅰを振り返り、疑問点をノートにまとめる 授業：生涯学習における「学修」の特性を振り返る 復習：生涯学習の意義や目的、内容、方法等を整理する</p> <p>【第2回】 予習：日本国憲法と教育基本法から、生涯学習に関連する条文をノートに書き出す 授業：生涯学習の法制度を学ぶ①（日本国憲法・教育基本法・社会教育法・生涯学習振興法） 復習：日本国憲法、教育基本法、社会教育法、生涯学習振興法の内容を整理する</p> <p>【第3回】 予習：博物館法から、博物館運営に関する条文をノートに書き出す 授業：生涯学習の法制度を学ぶ②（図書館法・博物館法・少年自然の家法） 復習：図書館法、博物館法、少年自然の家法の内容を整理する</p> <p>【第4回】 予習：生涯学習の振興を担う管轄省庁を調べ、それらの役割をノートにまとめる 授業：生涯学習の振興を担う行政の仕組みと役割を学ぶ（文部科学省と教育委員会） 復習：生涯学習における文部科学省や教育委員会の役割を整理する</p> <p>【第5回】 予習：「SDGs」「早寝・早起き朝ごはん国民運動」「健康日本21」について調べ、ノートにまとめる 授業：国や自治体による生涯学習を学ぶ（SDGs, 早寝・早起き・朝ごはん国民運動, 健康日本21） 復習：厚生労働省、内閣府、経済産業省などの取り組みを整理する</p> <p>【第6回】 予習：身近な公民館で開催されている生涯学習について調べ、ノートに書き出す 授業：公民館（生涯学習センター）と公民館主事の役割を学ぶ 復習：公民館（生涯学習センター）と公民館主事の役割を整理する</p> <p>【第7回】 予習：身近な図書館を訪れ、自身の興味・関心の高い事柄について調べ、ノートにまとめる 授業：図書館と図書館司書の役割を学ぶ 復習：図書館と図書館司書の役割を整理する</p> <p>【第8回】 予習：身近な博物館を訪れ、代表的な展示物について調べ、ノートにまとめる 授業：博物館と博物館学芸員の役割を学ぶ 復習：博物館と博物館学芸員の役割を整理する</p> <p>【第9回】 予習：林間学校など、これまでに経験した自然体験活動や生活体験活動を振り返り、その目的をノートにまとめる 授業：生涯学習における青少年教育を学ぶ①（体験活動の意義） 復習：青少年の体験活動の意義を振り返る</p> <p>【第10回】 予習：少年自然の家の役割を調べ、ノートにまとめる 授業：生涯学習における青少年教育を学ぶ②（青少年教育施設の役割） 復習：少年自然の家の役割を振り返る</p>			

<p>【第 11 回】 予習 : 青少年の体験活動による育ちをノートに書き出す 授業 : 生涯学習における青少年教育を学ぶ③ (体験活動の教育的効果の評価と振り返り) 復習 : 青少年の体験活動の効果について整理する</p> <p>【第 12 回】 予習 : 自分の興味・関心が高い事項について、その内容やおもしろさをノートにまとめておく 授業 : 生涯学習プログラムを開発する④ (プログラムの構成要素) (課題探求型学習) 復習 : 生涯学習プログラムの構成要素を振り返る</p> <p>【第 13 回】 予習 : 自分の興味・関心が高い事項から得られる学びの段階をノートにまとめておく 授業 : 生涯学習プログラムを開発する② (自己の学修課題に基づき、プログラムを開発する) (課題探求型学習) 復習 : 生涯学習プログラムの開発手順を振り返る</p> <p>【第 14 回】 予習 : 開発した生涯学習プログラムの宣伝ポイントを考える 授業 : 生涯学習プログラムを宣伝する (事業計画案として、開発したプログラムを発表する) (発表) 復習 : 発表した生涯学習プログラムを振り返る</p> <p>【第 15 回】 予習 : これまでの授業で取り上げた内容を振り返り、疑問点をノートにまとめておく 授業 : 生涯学習支援者の役割を考える (自身の学修課題と学習計画の再設定) 復習 : 生涯学習に関する「制度」「施設や職員の役割」「生涯学習プログラム開発」を振り返る</p>								
授業開始前学習	前期に「生涯学習論 I」を履修した者は、「生涯学習論 I」の学習内容を振り返る 自身の興味・関心の高い事柄について調べる							
授業内課題の フィードバックの方法	・生涯学習プログラム (事業計画) 作成を課す (講義内にて、適宜、講評する)。 ・講義毎に小レポートを実施する (翌週の講義内にて、適宜、講評する)。							
テキスト・教材	香川正弘・鈴木眞理・佐々木英和編『よくわかる生涯学習』(ミネルヴァ書房)							
参考書	関口礼子・小池源吾・西岡正子・鈴木志元・堀薫夫著『新しい時代の生涯学習』(有斐閣アルマ)							
評価の基準と方法	講義毎の小レポート (48%) , 生涯学習プログラム (22%) , 小テスト (30%)							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性を身につける		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性を身につける		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力を身につける		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力を身につける	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○	○		
関連科目	本科目は、博物館に関する科目や教職科目と関連している。特に、生涯学習を支える制度や生涯学習プログラム作成による学びは、「教育制度」や「生徒指導 (進路指導)」等の科目との有機的関連性が高い。							
その他	図書館や博物館など、生涯学習の拠点となる身近な施設を訪れること。 日常生活の中から湧き出た疑問を解決するクセをつけること。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	英語教育学概論 I		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Introduction to English Teaching I	授業区分	講義
科目責任者	工藤 洋路	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤 洋路	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	テキストを読み、ディスカッションをして英語教育・英語学習の基本的な事項を学ぶ。英語学習者としての英語の授業を受けた経験、英語学習をしてきた経験を踏まえ、「どのように英語を教えることが大切なのか」「英語の学びはどのように起こるか」などの問いに対するの回答を考えていく。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語習得の基礎的な理論を理解し、説明できる。 2. 自分の英語学習を授業で学んだ理論を用いて分析できる。 3. 日本の小中高の英語教育の現状および課題を知る。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：自分が受けてきた英語教育、行ってきた英語学習を振り返っておく。 授業：オリエンテーション（自分が受けてきた英語教育、行ってきた英語学習を振り返る） 復習：今日学んだことの振り返りをノートに書く</p> <p>【第 2 回】 予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしておく 授業：「第 1 章「第二言語習得」から英語の学び方を考える」の解説① 復習：今日学んだことの振り返りをノートに書く</p> <p>【第 3 回】 予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしておく 授業：「第 1 章「第二言語習得」から英語の学び方を考える」の解説② 復習：今日学んだことの振り返りをノートに書く</p> <p>【第 4 回】 予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしておく 授業：「第 1 章「第二言語習得」から英語の学び方を考える」に関する討論 復習：今日学んだことの振り返りをノートに書く</p> <p>【第 5 回】 予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしておく 授業：「第 2 章「第二言語」として目指すべき英語力とは？」の解説① 復習：今日学んだことの振り返りをノートに書く</p> <p>【第 6 回】 予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしておく 授業：「第 2 章「第二言語」として目指すべき英語力とは？」の解説② 復習：今日学んだことの振り返りをノートに書く</p> <p>【第 7 回】 予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしておく 授業：「第 2 章「第二言語」として目指すべき英語力とは？」に関する討論 復習：今日学んだことの振り返りをノートに書く</p> <p>【第 8 回】 予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしておく 授業：「第 3 章 英語を学ぶモチベーションのメカニズム」の解説① 復習：今日学んだことの振り返りをノートに書く</p> <p>【第 9 回】 予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしておく 授業：「第 3 章 英語を学ぶモチベーションのメカニズム」の解説② 復習：今日学んだことの振り返りをノートに書く</p> <p>【第 10 回】 予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしておく 授業：「第 3 章 英語を学ぶモチベーションのメカニズム」に関する討論 復習：今日学んだことの振り返りをノートに書く</p> <p>【第 11 回】 予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしておく 授業：「第 4 章 英語学習のプリンシプル」の解説① 復習：今日学んだことの振り返りをノートに書く</p> <p>【第 12 回】 予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしておく 授業：「第 4 章 英語学習のプリンシプル」の解説② 復習：今日学んだことの振り返りをノートに書く</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしておく 授業：「第4章 英語学習のプリンシプル」に関する討論 復習：今日学んだことの振り返りをノートに書く 【第14回】 予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしておく 授業：第1章から第4章の振り返りおよび討論 復習：今日学んだことの振り返りをノートに書く 【第15回】 予習：レポート課題を完成させる 授業：完成したレポート課題をベースにディスカッションを行う 復習：この授業で学んだことや考えたことのエッセンスをまとめる								
授業開始前学習	課題に取り組み、疑問点を明らかにした上で授業に臨むこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	各回で行う小課題：次の授業に個別にコメントを付して返却／学期の最終レポート課題：最終回に、執筆したレポートに基づくプレゼンテーションを行い、その場で口頭でのフィードバックを行う							
テキスト・教材	新多『「英語の学び方」入門』 研究社							
参考書								
評価の基準と方法	授業中の課題・発表（20%）、予習・復習課題（30%）、レポート（50%）により、総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○			△
関連科目								
その他	授業中は、発表やディスカッションに積極的に参加すること。また、英語教育に関わるニュースを新聞などから収集して、授業中のディスカッションで話題に上げるなど、関連分野の情報に敏感になること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	英会話Ⅲ		
科目分類	100-131-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	English ConversationⅢ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	W.ミラー	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	W.ミラー	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	The main emphasis of this course will be speaking. However, listening, reading, and writing will also be developed. This class will focus on speaking strategies and improving the skills of speaking. In principle, lessons will be conducted entirely in English.		
到達目標	After this class, students increased listening and speaking skills will allow them to participate in conversations more actively.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>第1回 予習：Read p.9-12 授業：Self-introductions / Course goals 復習：Review notes / Do homework</p> <p>第2回 予習：Read p.13-16 授業：Interview classmates 復習：Review notes / Do homework</p> <p>第3回 予習：Read p.17-20 授業：Living Situations 復習：Prepare for 1st Dialog Task</p> <p>第4回 予習：Read p.21-24 授業：Favorite Foods: Expressing likes / dislikes and 1st Dialog Task 復習：Reflect on 1st Dialog Task</p> <p>第5回 予習：Read p.25-28 授業：Fashion: Expressing importance 復習：Review notes / Do homework</p> <p>第6回 予習：Read p.29-32 授業：Work experience: Expressing suitability 復習：Prepare for 2nd Dialog Task</p> <p>第7回 予習：Prepare for 2nd Dialog Task 授業：2nd Dialog Task 復習：Reflect on 2nd Dialog Task</p> <p>第8回 予習：Review all homework assignments 授業：General review 復習：Review notes / Do homework</p> <p>第9回 予習：Read p. 33-36 授業：Travel Advice / Recommending 復習：Review notes / Do homework</p> <p>第10回 予習：Read p. 37-40 授業：Weather Conditions: Expressing concern 復習：Prepare for 3rd Dialog Task</p> <p>第11回 予習：Prepare for 3rd Dialog Task 授業：Dealing with Stress: Expressing a need for a change 3rd Dialog Task 復習：Reflect on 3rd Dialog Task</p> <p>第12回 予習：Read p. 71-79 授業：Review Unit 1 / Conversation starters / Building fluency / Express yourself 復習：Review notes / Do homework</p> <p>第13回</p>			

予習 : Read p. 80-84 授業 : Conversation activity 復習 : Prepare for 4th Dialog Task 第 14 回 予習 : Prepare for 4th Dialog Task 授業 : 4th Dialog Task 復習 : Reflect on 4th Dialog Task 第 15 回 予習 : Complete Questionnaire on Komajo Portal 授業 : Take care of old business and discuss pros and cons of this course 復習 : Complete Questionnaire on Komajo Portal (if not completed yet)								
授業開始前学習	Watch movies and listen to the dialogues. Read comics in English. Look up unknown words in a dictionary. Seek opportunities to speak in English.							
授業内課題の フィードバックの方法	Both written and oral feedback will be provided to all students.							
テキスト・教材	Impact Conversation 2, Pearson Longman, by Sullivan and Beuckens							
参考書								
評価の基準と方法	Participation 20%, 1st Dialogue Task 20%, 2nd Dialogue Task 20%, 3rd Dialogue Task 20%, 4th Dialogue Task 20%							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性を身につける		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性を身につける		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力を身につける		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力を身につける	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○
関連科目								
その他	It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as an absence. Further explanation will be provided in the first class.							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	英会話Ⅳ		
科目分類	100-131-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	English ConversationⅣ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	W.ミラー	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	W.ミラー	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	The main emphasis of this course will be speaking. However, listening, reading, and writing will also be developed. This class will focus on speaking strategies and improving the skills of speaking. In principle, lessons will be conducted entirely in English.		
到達目標	After this class, students increased listening and speaking skills will allow them to participate in conversations more actively.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>第1回 予習：Read p.45-48 授業：Self-introductions / Course goals 復習：Review notes / Do homework</p> <p>第2回 予習：Read p.49-52 授業：Family Stories 復習：Review notes / Do homework</p> <p>第3回 予習：Read p.53-56 授業：Cleaning Habits 復習：Prepare for 1st Dialogue Task</p> <p>第4回 予習：Read p.57-60 授業：Strange Stories and 1st Dialogue Task 復習：Reflect on 1st Dialogue Task</p> <p>第5回 予習：Read p.61-64 授業：Relationship Problems 復習：Review notes / Do homework</p> <p>第6回 予習：Review all homework assignments 授業：General review 復習：Prepare for 2nd Dialogue Task</p> <p>第7回 予習：Prepare for 2nd Dialogue Task 授業：2nd Dialogue Task 復習：Reflect on 2nd Dialogue Task</p> <p>第8回 予習：Review all homework assignments 授業：General review 復習：Review notes / Do homework</p> <p>第9回 予習：Read p. 61-64 授業：Learning a Language 復習：Review notes / Do homework</p> <p>第10回 予習：Read p. 65-68 授業：School Memories 復習：Prepare for 3rd Dialogue Task</p> <p>第11回 予習：Read p. 69-72 授業：Special Events and 3rd Dialogue Task 復習：Reflect on 3rd Dialogue Task</p> <p>第12回 予習：Read p. 73-76 授業：Review Unit 1 / Conversation starters / Building fluency / Express yourself 復習：Review notes / Do homework</p> <p>第13回</p>			

予習 : Read p. 80-84 授業 : Conversation activity 復習 : Prepare for 4th Dialogue Task 第 14 回 予習 : Prepare for 4th Dialogue Task 授業 : 4th Dialogue Task 復習 : Reflect on 4th Dialogue Task 第 15 回 予習 : Complete Questionnaire on Komajo Portal 授業 : Take care of old business and discuss pros and cons of this course 復習 : Complete Questionnaire on Komajo Portal (if not completed yet)								
授業開始前学習	Watch movies and listen to the dialogues. Read comics in English. Look up unknown words in a dictionary. Seek opportunities to speak in English.							
授業内課題のフィードバックの方法	Both written and oral feedback will be provided to all students.							
テキスト・教材	Impact Conversation 2, Pearson Longman, by Sullivan and Beuckens							
参考書								
評価の基準と方法	Participation 20%, 1st Dialogue Task 20%, 2nd Dialogue Task 20%, 3rd Dialogue Task 20%, 4th Dialogue Task 20%							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性を身につける		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性を身につける		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力を身につける		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力を身につける	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○
関連科目								
その他	It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as an absence. Further explanation will be provided in the first class.							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	アメリカの文化と歴史 I		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	American Culture and History I	授業区分	講義
科目責任者	羽鳥 修	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	羽鳥 修	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20 後期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20	研究室	10-609
授業概要	アメリカ合衆国の歴史を英領植民地時代に遡って概説します。歴史は、単に「過去」を学ぶことではなく、「現在」を知るために学ぶ学問です。従って、常に現在のアメリカに視点をおいて授業を進めます。この授業を通じて、アメリカを「観る目」を養うとともに、歴史を学ぶ意義と楽しさが伝えられることを目標にします。また、双方向型および課題解決型の授業を行うため、ほぼ毎回の授業でペア・ワークおよびグループワークを行います。		
到達目標	一つひとつの歴史的事象について、事象が起こった要因を歴史的な文脈の中で「解釈」するとともに、それがその後の歴史とどのようにかかわっているのかについて「解釈」する能力が身につきます。その際に重要なことは、恣意的な解釈ではなく、しるべき根拠に基づいて歴史を「解釈」します。また、授業を通じて主に筆記力、傾聴力、表現力、調べる力などを身につけます。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第 1 回】 予習：テキスト「はじめに」を事前に読む 授業：授業計画・方針、成績評価の基準・方法を説明し、そのとでアメリカに関する基本的な質疑応答を行う 復習：ノートの確認と質問事項を記入する			
【第 2 回】 予習：テキスト 4 頁～5 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業：西ヨーロッパ諸国による大西洋進出の歴史的背景（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題 1・2（テキスト 8～9 頁）、質問事項の記入する			
【第 3 回】 予習：テキスト 5 頁～8 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業：西半球におけるフランスとスペインによる植民活動の特徴（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題 3・5（テキスト 8～9 頁）、質問事項を記入する			
【第 4 回】 予習：テキスト 10 頁～15 頁を講読し、疑問点をチェックする。 授業：イギリス領植民地の建設・・・南部植民地（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題 1（テキスト 25～26 頁）、質問事項を記入する。			
【第 5 回】 予習：テキスト 14 頁～18 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業：イギリス領植民地の建設・・・ニューイングランド植民地（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題 2～5（テキスト 26～26 頁）、質問事項を記入する			
【第 6 回】 予習：テキスト 14 頁～18 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業：イギリス領植民地の建設・・・中部植民地（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題（テキスト 8～9 頁）、質問事項を記入する			
【第 7 回】 予習：テキスト 15 頁～18 頁を講読し、疑問点をチェックする。 授業：英領植民地の文化（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題 11～14（テキスト 25～26 頁）、質問事項を記入する			
【第 8 回】 予習：テキスト 21 頁～22 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業：イギリス本国と北米植民地の経済的関係（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題 11・12（テキスト 26 頁）、質問事項を記入する			
【第 9 回】 予習：テキスト 27 頁～29 頁を講読し、疑問点をチェック 授業：アメリカ独立革命への道（課税政策を巡る対立）（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題 1・2（テキスト 37 頁）、質問事項を記入する			
【第 10 回】 予習：テキスト 29 頁～31 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業：アメリカ独立革命への道・・・課税政策を巡る対立（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題 3～5（テキスト 37 頁）、質問事項を記入する			
【第 11 回】 テキスト 32～35 頁を講読し、疑問点をチェックする。また、「独立宣言」を読む。 授業：独立宣言公布の世界史的意義（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題 6・7（テキスト 37 頁）、質問事項を記入する			

<p>【第12回】 予習：テキスト38頁～40頁を講読し、疑問点をチェックする 授業：新共和国の基礎作り（連合規約）（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題8（テキスト44頁）、質問事項を記入する</p> <p>【第13回】 予習：テキスト40頁～42頁を講読し、疑問点をチェックする 授業：新共和国の形成・・・連合規約と合衆国憲法（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題1・2（テキスト44頁）、質問事項を記入する</p> <p>【第14回】 予習：テキスト42頁～44頁を講読し、疑問点をチェックする 授業：新共和国の形成・・・トマス・ジェファソンとアレクサンダー・ハミルトン（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題3（テキスト44頁）、質問事項を記入する</p> <p>【第15回】 予習：テキスト42頁～44頁を講読し、疑問点をチェックする 授業：アンテベラム期のアメリカ・・・トクヴィルの観たアメリカ（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題4（テキスト44頁）、質問事項を記入する</p>								
授業開始前学習	高校で使用されている世界史の教科書（中世以降現代まで）を読んでおいてください。							
授業内課題のフィードバックの方法	教科書にある「課題」のほか、調べる課題やDVDの感想など数回のレポート課題を出し、回答例または添削する方法でフィードバックします。							
テキスト・教材	『アメリカの文化と歴史Ⅰ』（2012年・改訂版）							
参考書	教科書に記載してある参考文献を参照してください。その他は、授業内で適宜紹介します。							
評価の基準と方法	毎回のコメントシート（75%）、レポート課題（20%）、発表など授業への参加姿勢（5%）							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○	△			
関連科目	「異文化交流Ⅰ・Ⅱ」、「文化交流論（日本とアメリカ）」							
その他	電子辞書を持っている人は、授業時に持参してください。ただし新規に購入する必要はありません。							
予習・復習の所要時間	講義時間30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間60時間（4時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	アメリカの文化と歴史Ⅱ		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	American Culture and HistoryⅡ	授業区分	講義
科目責任者	羽鳥 修	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	羽鳥 修	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20 後期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20	研究室	10-609
授業概要	「アメリカの文化と歴史Ⅰ」に続き、南北戦争後のアメリカ合衆国の歴史を概説します。歴史は、単に「過去」を学ぶことではなく、「現在」を知るために学ぶ学問です。従って、常に現在のアメリカに視点をおいて授業を進めます。この授業を通じて、アメリカを「観る目」を養うとともに、歴史を学ぶ意義と楽しさが伝えられることを目標にします。また、授業形態は双方向型および課題解決型です。なお、同科目は「段階の科目」ではありませんが、「アメリカの文化と歴史Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。		
到達目標	一つひとつの歴史的事象について、事象が起こった要因を歴史的文脈の中で「解釈」するとともに、それがその後の歴史とどのようにかかわっているのかについて「解釈」する能力を身に付けます。その際に重要なことは、恣意的な解釈ではなく、しるべき根拠に基づいて歴史を「解釈」します。また、授業を通じて主に筆記力、傾聴力、表現力、調べる力などを身につけます。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：テキスト17頁～19頁を講読し、疑問点をチェックする 授業：ガイダンス：南北戦争後のアメリカ…フロンティアに西進とフロンティア社会の特質（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題1（テキスト30頁）、質問事項を記入する</p> <p>【第2回】 予習：テキスト19頁～21頁を講読し、疑問点をチェックする 授業：南北戦争後のアメリカ…独占資本主義の進行①＜大企業家出現の概説 DVD鑑賞と解説＞（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認</p> <p>【第3回】 予習：テキスト19頁～21頁を講読し、バンダービルトについて彼の経歴を調べる 授業：南北戦争後のアメリカ…独占資本主義の進行②＜バンダービルト：DVD鑑賞と解説＞（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認</p> <p>【第4回】 予習：テキスト19頁～21頁を講読し、ロックフェラーの経歴を調べる 授業：南北戦争後のアメリカ…独占資本主義の進行③＜ロックフェラー：DVD鑑賞と解説＞（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認</p> <p>【第5回】 予習：テキスト19頁～21頁を講読し、カーネギーの経歴を調べる 授業：南北戦争後のアメリカ…独占資本主義の進行④＜カーネギー：DVD鑑賞と解説＞（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認</p> <p>【第6回】 予習：テキスト19頁～21頁を講読し、モルガンの経歴を調べる 授業：南北戦争後のアメリカ…独占資本主義の進行④＜モルガン：DVD鑑賞と解説＞（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認</p> <p>【第7回】 予習：テキスト19頁～21頁を講読し、フォードの経歴を調べる 授業：南北戦争後のアメリカ…独占資本主義の進行④＜フォード：DVD鑑賞と解説＞（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認</p> <p>【第8回】 予習：テキスト22頁～26頁を講読し、疑問点をチェックする 授業：19世紀末から20世紀への世紀転換期①政治マシンの機能と役割（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認とマシーンについて400字程度でまとめる</p> <p>【第9回】 予習：テキスト22頁～26頁を講読し、疑問点をチェックする 授業：19世紀末から20世紀への世紀転換期②セツルメントの機能と役割（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認とセツルメントについて400字程度でまとめる</p> <p>【第10回】 予習：テキスト35頁～39頁を講読し、疑問点をチェックする 授業：農民の「反乱」：人民党の運動と意義（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認と人民党の運動について400字程度でまとめる</p> <p>【第11回】 予習：テキスト39頁～43頁を講読し、疑問点をチェックする 授業：革新主義期運動…市政・連邦レベルでの改革運動（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認</p> <p>【第12回】 予習：テキスト48頁～55頁を講読し、疑問点をチェックする 授業：1920年代のアメリカ…大衆消費社会の実情（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認</p>			

<p>【第13回】 予習：テキスト43頁～47頁を講読し、疑問点をチェックする（ペア・ワークおよびグループワーク） 授業：世界大国への歩み 復習：ノートの確認</p> <p>【第14回】 予習：テキスト55頁～60頁を講読し、疑問点をチェックする（ペア・ワークおよびグループワーク） 授業：世界恐慌・ニューディール政策および冷戦の時代 復習：ノートの確認</p> <p>【第15回】 予習：テキスト71頁～72頁を講読し、疑問点をチェックする 授業：1980年代から現在のアメリカ（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認</p>								
授業開始前学習	「アメリカの文化と歴史Ⅰ」のテキストとノートの復習をしておいてください。							
授業内課題のフィードバックの方法	教科書にある「課題」のほか、調べる課題やDVDの感想など数回のレポート課題を出しますが、回答例または添削する方法でフィードバックします。							
テキスト・教材	『アメリカの文化と歴史Ⅱ』(2012年、改訂版)							
参考書	教科書に記載してある参考文献を参照してください。その他は、授業内で適宜紹介します。							
評価の基準と方法	毎回のコメントシート（75%）、レポート課題（20%）、授業への参加姿勢(5%)							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○	△			
関連科目	「異文化交流Ⅰ・Ⅱ」、「文化交流論（日本とアメリカ）」							
その他	電子辞書を持っている人は、授業時に持参してください。ただし、新規に購入する必要はありません。							
予習・復習の所要時間	講義時間30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間60時間（4時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	☆教育原理		
科目分類	110-411-11	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Principles of Education	授業区分	講義
科目責任者	田中 正浩	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中 正浩	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	教育という文化的事象は、教育を規定する時代や社会、文化の要請に応えなければならない。しかし、教育はそれらに即応すべきものではなく、それらを批判し、改善する、教育固有の理論を備えなくてはならない。この教育の理論の解明と構築が、今日の教育状況を打開し、これからの教育にとって不可欠になってくる。本授業では、このような問題意識に基づき、教育の基本的概念、理念、歴史について考察し、理解を深める。また、プレゼンテーション、グループワークを行う。		
到達目標	本授業では、教育の基本的概念、理念、歴史、そして思想について、加えて、これまでの教育や学校の営みについて、理解、習得する。これらの学びにおいて、今日の教育課題や教育現場での学校病理現象等を客観的に捉え、読み解けるような「教育を見る目」を養うこともめざす。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバス（本教科授業テーマ・内容、到達目標等）及びテキスト1頁から8頁まで読んでおく 授業：教育の基本的概念 復習：授業のポイントである教育の基本的概念について整理する</p> <p>【第2回】 予習：テキスト1頁から8頁まで読んでおく 授業：教育の意義と目的 復習：授業のポイントである教育の意義について整理する</p> <p>【第3回】 予習：テキスト23頁から30頁まで読んでおく 授業：西欧の子ども観－形成と諸相－ 復習：授業のポイントである西欧の子ども観について整理する</p> <p>【第4回】 予習：テキスト31頁から38頁まで読んでおく 授業：日本の子ども観－形成と諸相－ 復習：授業のポイントである日本の子ども観について整理する</p> <p>【第5回】 予習：テキスト23頁から30頁まで読んでおく 授業：西欧における教育の歴史的展開 復習：授業のポイントである西欧における教育の歴史的展開について整理する</p> <p>【第6回】 予習：テキスト31頁から38頁まで読んでおく 授業：日本における教育の歴史的展開 復習 授業のポイントである日本における教育の歴史的展開について整理する</p> <p>【第7回】 予習：テキスト9頁から12頁まで読んでおく 授業：西欧における教育思想－コメニウス、ロック、ルソー－（プレゼンテーション） 復習：授業のポイントであるコメニウス、ロック、ルソーについて整理する</p> <p>【第8回】 予習：テキスト13頁から17頁まで読んでおく 授業：西欧における教育思想－ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルト－（プレゼンテーション） 復習：授業のポイントであるペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルトについて整理する</p> <p>【第9回】 予習：テキスト18頁から22頁まで読んでおく 授業：西欧における教育思想－エレン・ケイ、モンテッソーリ、デューイ－（プレゼンテーション） 復習：授業のポイントであるエレン・ケイ、モンテッソーリ、デューイについて整理する</p> <p>【第10回】 予習：テキスト53頁から70頁まで読んでおく 授業：教育内容と教育課程 復習：授業のポイントである教育課程の意味と類型について整理する</p> <p>【第11回】 予習：テキスト39頁から52頁まで読んでおく 授業：教育と社会 復習：授業のポイントである教育の社会的機能と社会の教育的機能について整理する</p> <p>【第12回】 予習：テキスト85頁から106頁まで読んでおく 授業：近代教育制度の成立と展開 復習：授業のポイントである近代学校制度、学校体系の類型について整理する</p>			

<p>【第13回】 予習：テキスト123頁から138頁まで読んでおく 授業：教師の力量とアイデンティティ（グループ・ディスカッション） 復習：授業のポイントである教師の力量形成、教師教育の課題について整理する</p> <p>【第14回】 予習：テキスト139頁から145頁まで読んでおく 授業：現代の教育問題－不登校・いじめ・学級崩壊－ 復習：授業のポイントである不登校・いじめ・学級崩壊について整理する</p> <p>【第15回】 予習：テキスト145頁から150頁まで読んでおく 授業：現代の教育問題－教師と親－（グループ・ディスカッション） 復習：授業のポイントである指導力不足の教師、学級崩壊、モンスターペアレントについて整理する</p>								
授業開始前学習	今日の教育問題である、いじめ、不登校、学級崩壊等について、書物などを通して情報を得ておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	小テスト及び課題については、次回授業においてフィードバックを行う。							
テキスト・教材	平野智美監修、中山幸夫・田中正浩編著『新・教育学のグランドデザイン』（八千代出版） このほか適宜、資料プリントを配付する。							
参考書	授業にて、適宜、紹介する。							
評価の基準と方法	小テスト（20%）、試験（60%）、平常点〔授業への取組・課題提出〕（20%）により総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成	自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成	社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成			文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△			◎	○		
関連科目	教職科目である本教科は他の教職教養系科目と有機的に関連しており、特に「教育制度論」「教育課程論」「生徒指導論」等において本教科の知見は学びを深めてくれる。							
その他	予習、復習の内容については授業時に具体的に指示するが、テキストや資料プリントを読んで授業に臨むことを常とする。授業には、常に問題意識をもって主体的かつ積極的な態度で臨んでほしい。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	教職入門		
科目分類	110-411-11 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Introduction to Teaching Careers	授業区分	講義
科目責任者	中野 達也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野 達也	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-508
授業概要	多角的アプローチにより、教師および教育について学ぶ。 調べ学習に基づき、グループ・ワークやグループ・ディスカッション、さらにはディベートなどを通して学習内容を深める。		
到達目標	教育全般および教師の仕事についての理解をもとに、自分なりの考えを説明することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：今まで受けてきた中学・高校教育について考えてくる。 授業：オリエンテーション（教職課程履修の意味・教職の意義） 復習：オリエンテーション（教職課程履修の意味・教職の意義）から学んだことをレポートにまとめる。</p> <p>【第2回】 予習：自分の中学校について調べてくる。 授業：自分の受けてきた教育から学ぶ（発表）①（私の中学校・中学校の先生）（プレゼンテーション） 復習：自分の受けてきた教育から学んだことをレポートにまとめる。</p> <p>【第3回】 予習：自分の高等学校について調べてくる。 授業：自分の受けてきた教育から学ぶ（発表）②（私の高等学校・高等学校の先生）（プレゼンテーション） 復習：自分の受けてきた教育から学んだことをレポートにまとめる。</p> <p>【第4回】 予習：教員の役割・進路選択について考えてくる。 授業：教師の1日（教員の役割）（グループワーク） 復習：教師の1日（教員の役割）から学んだことをレポートにまとめる。</p> <p>【第5回】 予習：自分が習った中学校の先生の仕事について調べてくる。 授業：教師という仕事（教員の役割・教職の意義）（グループワーク） 復習：教師という仕事（教員の役割・教職の意義）から学んだことをレポートにまとめる。</p> <p>【第6回】 予習：自分が習った高等学校の先生の仕事について調べてくる。 授業：教師に求められるもの（教師の服務・身分保障）（グループワーク） 復習：教師に求められるもの（教師の服務・身分保障）から学んだことをレポートにまとめる。</p> <p>【第7回】 予習：先生の1年間の仕事について考えてくる。 授業：学級経営・学年経営（教師の服務・教師の役割）（グループワーク） 復習：学級経営・学年経営（教師の服務・教師の役割）から学んだことをレポートにまとめる。</p> <p>【第8回】 予習：先生の1日の仕事について考えてくる。 授業：教師の連携（教師の服務・教師の役割）（グループワーク） 復習：教師の連携（教師の服務・教師の役割）について学んだことをレポートにまとめる。</p> <p>【第9回】 予習：教師の仕事について調べ、まとめる。 授業：校務分掌（教師の役割）、（グループワーク）（ディスカッション） 復習：校務分掌（教師の役割）から学んだことをレポートにまとめる。</p> <p>【第10回】 予習：学習指導要領について調べ、まとめる。 授業：学習指導要領の変遷・内容（教科指導）（グループワーク）（ディスカッション） 復習：学習指導要領の変遷・内容（教科指導）から学んだことをレポートにまとめる。</p> <p>【第11回】 予習：教育で話題になっていることについて調べ、まとめる。 授業：中学・高校の先生方から学校の現状について話を聞く（進路選択に資する機会の提供）（プレゼンテーション） 復習：中学・高校の先生方から学校の現状について話を聞く（進路選択に資する機会の提供）から学んだことをレポートにまとめる。</p> <p>【第12回】 予習：教育で話題になっていること（教科指導）について調べ、まとめる。 授業：教科指導法（教師の役割） 復習：教科指導法（教師の役割）から学んだことをレポートにまとめる。</p> <p>【第13回】</p>			

<p>予習：教育で話題になっていること（教員研修）について調べ、まとめる。 授業：教員研修の必要性（研修）（ディベート） 復習：教員研修の必要性（研修）から学んだことをレポートにまとめる。 【第14回】 予習：教育で話題になっていること（入試改革）について調べ、まとめる。 授業：教育問題についての討論（ディベート） 復習：教育問題についての討論から学んだことをレポートにまとめる。 【第15回】 予習：これまでの授業をふりかえる。 授業：学校教育全体に関する事項の総括 復習：今後どう生かすかをレポートにまとめる。</p>								
授業開始前学習	自分が受けてきた教育を振り返る。							
授業内課題の フィードバックの方法	各回提出のレポートは個別に指導する。 共通した質問・課題については授業内で全体講評を行う。							
テキスト・教材	初回の授業で指示する。							
参考書	適宜指示する。							
評価の基準と方法	授業への参加度（発表を含む）30%、レポート30%、定期試験40%を総合して評価する。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△	◎		◎			
関連科目								
その他	各自が教職につく身であることを自覚し、学んだ知識を実践で生かせるように授業中のディスカッション、発表に積極的に参加すること。また、教職課程であることから、遅刻や無断欠席は認められないので注意のこと。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	中学校・高等学校教員とし教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。							

科目名称	教育制度論		
科目分類	110-411-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Education Systems Studies	授業区分	講義
科目責任者	田中 正浩	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中 正浩	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>我国の教育制度及び教育行政に関連する歴史的・社会的出来事を概観しながら、現代の公教育制度の意義・原理・構造について、その法的及び制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付け、今日的課題を読み解いていく。さらに、具体的な取り組み事例を基に、学校と地域との連携、学校安全への対応について理解を深める。</p>		
到達目標	<p>本授業では、今日の教育制度及び教育行政について説明ができるように、これらに関する基本的事項を理解、習得することをめざす。加えて、学校と地域との連携、安全教育に対する理解を深める。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバス（本教科の授業テーマ・内容、到達目標等）を読んでおく 授業：公教育の原理と理念 復習：公教育の原理について整理する</p> <p>【第2回】 予習：我国にどのような教育関係法規があるか調べる 授業：公教育制度に係わる教育関係法規 復習：教育関係法規について整理する</p> <p>【第3回】 予習：教科書検定制度について調べる 授業：教育内容に関する制度－学習指導要領－ 復習：学習指導要領の意味と意義について整理する</p> <p>【第4回】 予習：日本国憲法のなかで教育に関する条文を探す 授業：日本国憲法と教育制度 復習：日本国憲法と「教育を受ける権利」の関係を整理する</p> <p>【第5回】 予習：教育基本法を読んでみる 授業：教育の目的と目標－教育基本法－ 復習：教育基本法と「教育を受ける権利」の関係を整理する</p> <p>【第6回】 予習：日本国憲法・教育基本法のなかで義務教育に関する条文を探す 授業：義務教育制度－誰の何に対する義務か－ 復習：義務教育の意味と意義を整理する</p> <p>【第7回】 予習：義務教育の三原則について調べる 授業：義務教育の三原則 復習：義務教育の三原則について整理する</p> <p>【第8回】 予習：教育機会の保障とはどうことが調べる 授業：教育の機会均等 復習：教育の機会均等の意味と課題について整理する</p> <p>【第9回】 予習：戦後教育行政の基本原則について調べる 授業：教育行政の変遷と理念 復習：教育行政の制度について整理する</p> <p>【第10回】 予習：法律に定める学校について調べる 授業：学校教育制度－原理・構造・課題－ 復習：学校教育制度の原理と構造について整理する</p> <p>【第11回】 予習：社会教育の意味について調べる 授業：社会教育制度－原理・構造・課題－ 復習：社会教育制度の原理と構造について整理する</p> <p>【第12回】 予習：地域の学校教育活動について調べる 授業：地域における学校教育活動の意義及び方法（グループ・ディスカッション） 復習：地域における学校教育活動について整理する</p> <p>【第13回】</p>			

予習：地域に開かれた学校についての事例を探す 授業：地域に開かれた学校づくり(グループ・ディスカッション) 復習：地域に開かれた学校の意味と意義について整理する 【第14回】 予習：学校における危機管理や事故対応の具体例を調べる 授業：学校安全(危機管理・事故対応)の意義 復習：危機管理や事故対応について整理する 【第15回】 予習：安全管理と安全教育の実践例について調べる 授業：安全管理と安全教育 復習：安全管理と安全教育の意味と意義について整理する								
授業開始前学習	今日の教育問題である、いじめ、不登校、学級崩壊等で何かしら関心のあることについての情報を書物などを通して得ておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	小テスト及び課題については、次回授業においてフィードバックを行う。							
テキスト・教材	田中正浩編著『学びを深める 教育制度論』(大学図書出版) このほか適宜、資料プリントを配付する。							
参考書	授業にて、適宜、紹介する。							
評価の基準と方法	小テスト(20%)、試験(60%)、平常点[授業への取組・課題提出](20%)により総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△		○	◎			
関連科目	教職科目である本教科は他の教職教養系科目と有機的に関連しており、特に「教育原理」での知見は本教科の理解を深めてくれる。							
その他	予習、復習の内容については授業時に具体的に指示するが、資料プリントを読んで授業に臨むことを常とする。授業には、常に問題意識をもって主体的かつ積極的な態度で臨んでほしい。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	発達心理学		
科目分類	110-411-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Developmental Psychology	授業区分	講義
科目責任者	丸山 慎	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	丸山 慎	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10	研究室	10-718
授業概要	本講義では、「生涯発達心理学」という視点から人間の発達を広く連続的に捉えつつ、特にその基盤となる乳幼児期から青年期にかけての人間の発達に関する基本的な知見を学ぶ。また幼児、児童および生徒の発達に関しては、集団への適応と学習への適応と学習の課程及び現代の教育現場が抱える問題について心理学的な観点から考察を行う。		
到達目標	発達心理学のロジックを理解し、それをもとにして乳幼児期から青年期にかけての人間の身体的、精神的そして社会的な発達および学習の過程に関する知識を正確に習得することを目標とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：特に課さない 授業：教科への導入「人間の発達とは何か－発達心理学という研究領域について」 復習：特に課さないが履修のモチベーションを各自確認すること</p> <p>【第2回】 予習：教科書の該当箇所（p.1-7）の講読と疑問点の抽出 授業：発達初期の能力を測る方法―選考注視法、馴化―脱馴化法を中心に 復習：講義のレジメを読み直しておくこと</p> <p>【第3回】 予習：教科書の該当箇所（p.7-14、p.104）の講読と疑問点の抽出 授業：発達心理学の主要な理論①「認知発達」―ピアジェ、ヴィゴツキー等 復習：講義のレジメを読み直しておくこと</p> <p>【第4回】 予習：教科書の該当箇所（p.14-19、p.116-122、p.130-136）の講読と疑問点の抽出 授業：発達心理学の主要な理論②「社会性の発達」―エリクソン、コールバーグ、アイゼンバーグ等 復習：講義のレジメを読み直しておくこと</p> <p>【第5回】 予習：教科書の該当箇所（p.23-33）の講読と疑問点の抽出 授業：人間の知覚・運動・認知の発達 復習：講義のレジメを読み直しておくこと</p> <p>【第6回】 予習：教科書の該当箇所（p.33-43）の講読と疑問点の抽出 授業：愛着の形成及び三項関係の発達 復習：講義のレジメを読み直しておくこと</p> <p>【第7回】 予習：教科書の該当箇所（p.46-54）の講読と疑問点の抽出 授業：表象とことばの獲得 復習：講義のレジメを読み直しておくこと</p> <p>【第8回】 予習：教科書の該当箇所（p.54-63）の講読と疑問点の抽出 授業：他者のこころを推量する―「こころの理論」とは何か 復習：講義のレジメを読み直しておくこと</p> <p>【第9回】 予習：教科書の該当箇所（p.64-65、p.68-84）の講読と疑問点の抽出 授業：自己意識の発達と自己抑制 復習：講義のレジメを読み直しておくこと</p> <p>【第10回】 予習：教科書の該当箇所（p.87-99）の講読と疑問点の抽出 授業：思考の深まりと社会性の発達（集団づくり・友人とのかかわり） 復習：講義のレジメを読み直しておくこと</p> <p>【第11回】 予習：教科書の該当箇所（p.99-105、p.108-116）の講読と疑問点の抽出 授業：学校における児童・生徒の学習①：学習への動機づけと学力の問題 復習：講義のレジメを読み直しておくこと</p> <p>【第12回】 予習：教科書の該当箇所（p.116-122、p.125-135、p.146-162）の講読と疑問点の抽出 授業：学校における児童・生徒の学習②：教師と生徒の関係における変化及び評価 復習：講義のレジメを読み直しておくこと</p> <p>【第13回】</p>			

<p>予習：参考資料の確認と疑問点の抽出 授業：障害のある児童・生徒の発達と支援①：障害の理解と教育的な働きかけについて 復習：講義のレジュメを読み直しておくこと 【第14回】 予習：参考資料の確認と疑問点の抽出 授業：障害のある児童・生徒の発達と支援②：支援組織についての理解〈家族・地域・専門機関〉 復習：講義のレジュメを読み直しておくこと 【第15回】 予習：これまでに参照した教科書の該当箇所および参考資料を読み返しておくこと 授業：講義の総括—児童・生徒の身体的、精神的、社会的発達を見守り、導き、支えるために— 復習：講義のレジュメを読み直しておくこと</p>								
授業開始前学習	発達心理学や保育に関する入門書に目を通しておくことを勧めたい。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内課題を実施した次の授業の冒頭に課題に対して概評を与え、前回の授業内容を振り返る。							
テキスト・教材	藤村宣之（編著）『発達心理学：周りの世界と関わりあいながら人はいかに育つか』ミネルヴァ書房，2009年刊							
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・無藤 隆・中坪史典・西山 修（編著）『発達心理学』ミネルヴァ書房，2010年刊 ・岡本祐子・深瀬裕子（編著）『エピソードでつかむ生涯発達心理学』ミネルヴァ書房，2013年刊 ・三浦香苗・村瀬嘉代子・西林克彦・近藤邦夫（編著）『発達と学習の支援』新曜社，2000年刊 							
評価の基準と方法	平常点30%（授業参加点20%・小レポート10%）と期末試験70%を総合して最終的な評価とする。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成	自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成	社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成	文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△			◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間60時間（4時間×15週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	特別支援教育概論		
科目分類	110-411-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Introduction to Special Education	授業区分	講義
科目責任者	金森 克浩	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	金森 克浩	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	障害のある子ども、特別な支援を必要とする子どもの教育について、理念、制度及び障害種別の現状を講述する。その上で、共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育システム構築について概説する。		
到達目標	1.特別支援教育に関する動向のポイントを説明できる。 2.特別支援教育に関する理念を理解し実際の支援について自分の考えとともに説明できる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>第1回： 予習：特別支援教育とはどういうものか調べる 授業：特別支援教育の理念と制度 復習：特別支援教育の理念について整理する</p> <p>第2回： 予習：通常の学級の中で児童生徒がどのような困り感があるかを考える 授業：インクルーシブな学校と特別な支援が必要な障害のない児童生徒 復習：インクルーシブ教育システムについて整理する</p> <p>第3回： 予習：通常の学級以外でどのような教育課程があるかを調べる 授業：特別支援教育の教育課程 復習：特別支援教育における教育課程の内容を整理する</p> <p>第4回： 予習：個別の指導計画とは何かを調べる 授業：個別の教育支援計画と個別の指導計画 復習：学習指導要領において個別の教育支援計画と個別の指導計画がどのように扱われているか整理する</p> <p>第5回： 予習：どのような特別支援学校があるかを調べる 授業：障害児の理解と教育（1）視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱 復習：特別支援学校の教育内容を整理する</p> <p>第6回： 予習：学習障害とは何かを調べる 授業：障害児の理解と教育（2）学習障害 復習：学習障害のある子どもの指導について整理する</p> <p>第7回： 予習：ADHD や ASD とは何かを調べる 授業：障害児の理解と教育（3）注意欠陥・多動性障害、言語障害、自閉症・情緒障害 復習：発達障害のある子どもの指導について整理する</p> <p>第8回： 予習：障害のある子どもの困難さとは何かを考える 授業：共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築 復習：共生社会の形成のためにどのような事が大切かを整理する</p>			
授業開始前学習			
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の授業終了後に提出するコメントシートには次週の講義に回答する。		
テキスト・教材	特になし。授業時に関係資料を配付する。		
参考書	廣瀬由美子、石塚謙二 編著『特別支援教育』（ミネルヴァ書房） 文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領、高等部学習指導要領』（海文堂出版） 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説総則編』（教育出版） 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説自立活動編』（教育出版）		
評価の基準と方法	授業内課題(コメントシート)40点、レポート60点		

ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	○	○	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間 (2 時間×7.5 週) + 予習・復習時間 30 時間 (4 時間×7.5 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	教育課程論		
科目分類	110-411-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Curriculum Studies	授業区分	講義
科目責任者	田中 正浩	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中 正浩	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	教育課程の意義や編成の方法を「カリキュラム」という語源から、そして学習指導要領を基準に編成される教育課程という視点から理解する。さらに、教育課程編成の基本原則と方法、実際に編成されてきた教育課程の類型等について、教育課程の編成及び指導計画（授業）案の作成手順等を学びながら理解を深める。これらを学ぶ中で、カリキュラム・マネジメントの今日的意義とその重要性について理解する。		
到達目標	本授業では、「優れた教師の条件の一つとして教育課程（カリキュラム）編成能力がある」と言われることの意味を理解できるよう、教育課程の意義及び編成の方法を理解し、編成能力を身に付ける。併せて、カリキュラム・マネジメントの意義についても理解する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバス（本教科の授業テーマ・内容及び到達目標等）読んでおく 授業：教育課程の意味と意義 復習：教育課程の意義について整理する</p> <p>【第2回】 予習：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業：教育課程編成の基準としての学習指導要領 復習：学習指導要領の意義について整理する</p> <p>【第3回】 予習：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業：学習指導要領の変遷と性格（グループ・ワーク） 復習：学習指導要領の変遷について整理する</p> <p>【第4回】 予習：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業：教育課程編成の基本原則 復習：教育課程編成の基本原則について整理する</p> <p>【第5回】 予習：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業：教育課程の類型－教科カリキュラム、相関カリキュラム、融合カリキュラム－ 復習：教育課程の類型について整理する</p> <p>【第6回】 予習：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業：教育課程の類型－コア・カリキュラム、経験カリキュラム－ 復習：教育課程の類型について整理する</p> <p>【第7回】 予習：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業：教育課程編成の方法と教育内容 復習：教育課程編成の方法と教育内容との関連について整理する</p> <p>【第8回】 予習：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業：教育課程と教材 復習：教育課程と教材との関連について整理する</p> <p>【第9回】 予習：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業：教育課程編成の実際－教育課程編成の手順－ 復習：教育課程編成の手順について整理する</p> <p>【第10回】 予習：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業：教育課程編成の実際－教育課程を読み解く－ 復習：教育課程から読みとれることは何か整理する</p> <p>【第11回】 予習：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業：指導計画作成の実際－指導計画（授業）案作成の手順－ 復習：指導計画作成の手順について整理する</p> <p>【第12回】 予習：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業：指導計画作成の実際－指導計画（授業）案を読み解く－ 復習：指導計画作成から読みとれることは何か整理する</p>			

<p>【第13回】 予習：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業：カリキュラム・マネジメントの意義 復習：カリキュラム・マネジメントの意義について整理する</p> <p>【第14回】 予習：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業：教育課程評価の基本原則 復習：教育課程評価の基本原則について整理する</p> <p>【第15回】 予習：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業：教育課程開発の今日的意義と課題(グループ・ディスカッション) 復習：教育課程開発の今日的意義と課題について整理する</p>								
授業開始前学習	各回の授業においては、事前に配付した資料プリントを読み、専門用語等を調べた上で臨んでほしい。							
授業内課題の フィードバックの方法	小テスト及び課題については、次回授業においてフィードバックを行う。							
テキスト・教材	文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』（東山書房） 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編』（東洋館出版社） このほか適宜、資料プリントを配付する。							
参考書	授業にて、適宜、紹介する。							
評価の基準と方法	小テスト（20%）、試験（60%）、平常点〔授業への取組・課題提出〕（20%）により総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△		○	◎			
関連科目	教職科目である本教科は他の教職教養系科目と有機的に関連しており、特に「教育原理」での知見は本教科の理解を深めてくれる。							
その他	予習、復習の内容については授業時に具体的に指示するが、資料プリントを読んで授業に臨むことを常とする。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	☆道徳教育の指導法／道徳教育の研究		
科目分類	110-411-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Teaching Methods (Moral Education)	授業区分	講義
科目責任者	田中 正浩	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中 正浩	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	学生が、単に知識の提示に終わるのではなく、自分自身が道徳指導について持つ課題に引きつけて多様な道徳指導上の視点から考えて実践できる可能性を見出す姿勢を身につける。道徳教育の意義や歴史、学習指導要領における位置づけ、実践の基盤となる諸理論について概説する。指導案の作成や模擬授業の実践を行い、道徳教育実践についての教材を開発することを通じて、よりよい道徳指導の可能性について考えていく。		
到達目標	本授業は、教員法「教職に関する科目」内の「道徳指導法」に該当する科目である。学生が道徳指導に関わる基本的な知識を身につけること、またそれらをヒントとしながら道徳指導の可能性について深く考えることができること、さらに道徳指導の実践についてのアイデアを多様に展開できること、指導案の作成や模擬授業を通して実践的な指導力を身につけることが到達目標である。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：「道徳教育」「道徳指導」の概要について調べる 授業：オリエンテーション：「道徳教育」「道徳指導」とは何か 復習：「道徳教育」「道徳指導」の基本的な知識をまとめる			
【第2回】 予習：日本の道徳教育に歴史について調べる 授業：日本の道徳教育の歴史：明治期から現代まで 復習：日本の道徳教育の変遷を整理する			
【第3回】 予習：学習指導要領の役割について調べる 授業：学習指導要領の変遷：小学校・中学校・高等学校 復習：学習指導要領の変遷と道徳教育の在り方を確認する			
【第4回】 予習：指導案の作成について調べる 授業：中間課題①：読み物資料を使用した指導案作成とその検討（発表） 復習：作成した指導案を見直す			
【第5回】 予習：「基本型」や内容項目について調べる 授業：道徳授業の検討（1）：「基本型」と内容項目理解（発表） 復習：「基本型」の特徴を整理し、内容項目についてまとめる			
【第6回】 予習：道徳性の発達理論や「モラルジレンマ」授業について調べる 授業：道徳授業の検討（2）：道徳性の発達理論と「モラルジレンマ」授業（発表） 復習：道徳性発達理論の展開と「モラルジレンマ」授業の特徴を整理する			
【第7回】 予習：道徳授業の教材開発について調べる 授業：中間課題②：道徳授業の教材開発：実践編（発表） 復習：開発した教材を見直す			
【第8回】 予習：道徳授業の教材開発について調べる 授業：道徳授業の教材開発の実践：検討編（発表） 復習：他学生の開発した教材と比較し、問題点を検討する			
【第9回】 予習：「価値明確化」授業について調べる 授業：道徳授業の検討（3）：「価値明確化」授業（発表） 復習：「価値明確化」授業の特徴を整理する			
【第10回】 予習：「モラルスキルトレーニング」授業について調べる 授業：道徳授業の検討（4）：「モラルスキルトレーニング」授業（発表） 復習：「モラルスキルトレーニング」授業の特徴を整理する			
【第11回】 予習：海外の道徳教育について調べる 授業：現代社会が抱える問題点と海外の道徳教育（ディスカッション） 復習：日本と海外の道徳教育を比較する			
【第12回】 予習：「道徳の社会化」について調べる 授業：「道徳の社会化」と道徳教育の在り方			

復習：「道徳の社会化」と道徳教育の在り方について整理する 【第13回】 予習：模擬授業の準備をする 授業：模擬授業の実践と検討（1）：開発した教材及び指導案の実践・検討（発表） 復習：実践内容を振り返る 【第14回】 予習：模擬授業の準備をする 授業：模擬授業の実践と検討（2）：道徳指導の実践に関する評価（発表） 復習：道徳授業を実践する際の課題についてまとめる 【第15回】 予習：これまでの授業内容を見直す 授業：まとめ：今後の道徳指導における問題と展望 復習：この授業で学んだことを整理する								
授業開始前学習	学習指導要領における道徳教育の目標や道徳科の内容を確認しておく。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内で課題を2回実施し、解説も同授業内または翌授業内で行なう。							
テキスト・教材	文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（2018） 適宜、資料プリントを配付する。 このほか適宜、資料プリントを配付する。							
参考書	授業にて、適宜、介する。							
評価の基準と方法	以下の4項目の評価をもとに最終的な評価を決定する。 ・授業への参加度：20% ・中間課題①：10% ・中間課題②：20% ・試験：50%							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成	自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成	社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成	文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	○	○	
関連科目								
その他	授業内で質問する時間も設け、自由な質問・討議を促す。 授業は講義形式と発表形式の両方をとり、どちらでも学生の主体的な参加を期待する。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	総合的な学習の時間の指導法		
科目分類	110-411-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Teaching Methods (Integrated Studies)	授業区分	講義
科目責任者	野中 潤	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野中 潤	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	総合的な学習の時間の目標や内容や方法などについて、最新の教育実践を視野に入れながら学ぶ。また、社会に開かれた教育課程を実現するための教育のあり方を考え、総合的な学習の時間のための基礎的・基本的な知識や技能を習得する。		
到達目標	自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するための学習がどのように実践されるかを理解することができる。 生徒が学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を身につけ、自己の生き方を考える学習をデザインできる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：「総合的な学習の時間」についての基本事項をインターネットなどを活用して調べる 授業：「総合的な学習の時間」とは何か（質問づくり・グループワーク） 復習：他のグループの質問づくりのファイルを開覧し、講義ノートにまとめる</p> <p>【第2回】 予習：質問づくりに基づく探究課題についてインターネットなどを活用して調べる 授業：「総合的な学習の時間」の実践事例調査（協働的な学び・グループワーク） 復習：実践事例調査の結果を講義ノートにまとめる</p> <p>【第3回】 予習：他のグループが調査した実践事例の詳細を確認する 授業：『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』の概要把握（ABD・グループワーク） 復習：ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）でわかったことを講義ノートにまとめる</p> <p>【第4回】 予習：『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』の事例1～3の内容を確認する 授業：「総合的な学習の時間」の指導にあたって留意すべきことやICTを活用した授業プランについて、事例別に考察する（ジグソー法・エキスパート活動） 復習：エキスパート活動で明らかにしたことを講義ノートにまとめる</p> <p>【第5回】 予習：エキスパート活動で担当しているスライドにポイントをまとめる 授業：「総合的な学習の時間」の指導にあたって留意すべきことやICTを活用した授業プランについて事例別に発表する（ジグソー法・発表） 復習：ジグソー方を通じて学んだことを講義ノートにまとめる</p> <p>【第6回】 予習：質問づくりで掲げた探究課題について、具体的な事例を踏まえて検証する 授業：探究課題についての発表資料を作成する（個人ワーク） 復習：他の受講生が作成中の発表資料を開覧し、付箋でコメントする</p> <p>【第7回】 予習：発表資料の付箋を確認し、他の受講生のコメントに返信する 授業：探究課題についての発表資料を完成させ、発表動画を作成する（個人ワーク） 復習：共有された他の受講生の発表動画を視聴して、Google フォームなどでフィードバックする</p> <p>【第8回】 予習：スプレッドシートで他の受講生のフィードバックの内容を確認する 授業：「総合的な学習の時間」をめぐる対話（ワールドカフェ）とまとめ 復習：探究課題についての学びを講義ノートにまとめ、授業全体をふりかえる</p> <p>※注、予習復習を含めた授業内容は、原則として電子的なドキュメントに随時入力していく。また、まとめレポートも同様にドキュメントに執筆する。</p>			
授業開始前学習	Google Workspace for Education での課題提出		
授業内課題のフィードバックの方法	Google Classroom によるコメントやルーブリックなどを活用した評価		
テキスト・教材	適宜資料を配信する		
参考書	中学校・高等学校学習指導要領、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校編）		
評価の基準と方法	毎回の課題提出を積算した平常点 60%、講義ノート 40%		

ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	○	○	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間（2 時間×7.5 週） + 予習・復習時間 30 時間（4 時間×7.5 週）							
実務経験を活かした教育内容	中学校および高等学校教諭として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教科の枠組みにとらわれず、生徒の実態に合わせて、課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力等の向上をはかるための教育実践に関する授業を行う。							

科目名称	☆特別活動の指導法		
科目分類	110-411-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Teaching Methods (Special Activities)	授業区分	講義
科目責任者	橋本 衆宝	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橋本 衆宝	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:00 後期 水曜日 09:00～12:00	研究室	10-616
授業概要	本授業は、特別活動の目的に基づき、実践的な集団活動による学び合いを通して、指導に資する理論とスキルの修得を図る。毎時のテーマごとに、教育現場における実際問題と事例を取り上げながら、実際の学級(ホームルーム)活動、生徒会活動、学校行事を想定したグループワークと「話し合い活動」、「リフレクション(省察)」を通して、指導方法を学修する。特に、学級担任の視点で学級(ホームルーム)活動の事例研究、実践演習を行い、中学校、高等学校の教育および生徒の現状と課題を理解し、特別活動の教育的意義と特徴を踏まえ、望ましい集団づくりと適切な指導のあり方を深めていく。		
到達目標	中学校、高等学校における特別活動の教育的意義と特徴を理解し、活動内容の目標に即して、実際場面で適切に指導できる資質と能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習 (予習・復習)			
<p>【第1回】 予習：学校教育の中でどのようなものが特別活動なのか、自身の中学校・高校時代を振り返り、考えてくる。 授業：オリエンテーション、特別活動の特質と教育的意義 復習：テキスト P8～P19 を読み、授業で学修した特別活動の特質と教育的意義についてのポイントを整理する。</p> <p>【第2回】 予習：テキスト P20～P25 を通読してくる。 授業：特別活動の教育課程上の位置付け・特別活動の変遷 復習：授業で学修した特別活動の教育課程上の位置付け・特別活動の変遷についてのポイントを整理する。</p> <p>【第3回】 予習：テキスト P26～P33 を通読してくる。 授業：特別活動の目標と内容 復習：授業で学修した特別活動の目標と内容についてのポイントを整理する。</p> <p>【第4回】 予習：テキスト P34～P39 を通読してくる。 授業：特別活動における人間関係形成 復習：授業で学修した特別活動における人間関係形成についてのポイントを整理する。</p> <p>【第5回】 予習：テキスト P40～P45 を通読してくる。 授業：特別活動における話し合い活動 復習：授業で学修した特別活動における話し合い活動についてのポイントを整理する。</p> <p>【第6回】 予習：テキスト P46～P59 を通読してくる。 授業：特別活動の指導計画の作成と指導・評価 復習：授業で学修した特別活動の指導計画の作成と指導・評価についてのポイントを整理する。</p> <p>【第7回】 予習：テキスト P60～P65 を通読してくる。 授業：特別活動と組織的取組 復習：授業で学修した特別活動と組織的取組についてのポイントを整理する。</p> <p>【第8回】 予習：テキスト P66～P69 を通読してくる。 授業：特別活動と道徳教育 復習：授業で学修した特別活動と道徳教育についてのポイントを整理する。</p> <p>【第9回】 予習：テキスト P70～P75 を通読してくる。 授業：特別活動とキャリア教育 復習：授業で学修した特別活動とキャリア教育についてのポイントを整理する。</p> <p>【第10回】 予習：テキスト P76～P81 を通読してくる。 授業：特別活動と生徒指導 復習：授業で学修した特別活動と生徒指導についてのポイントを整理する。</p> <p>【第11回】 予習：テキスト P82～P87 を通読してくる。 授業：特別活動と学級経営 復習：授業で学修した特別活動と学級経営についてのポイントを整理する。</p> <p>【第12回】 予習：テキスト P96～P109 を通読してくる。 授業：学級(ホームルーム)活動の実践 復習：授業で学修した学級(ホームルーム)活動の実践についてのポイントを整理する。</p>			

<p>【第 13 回】 予習：テキスト P110～P121 を通読してくる。 授業：生徒会活動の実践 復習：授業で学修した生徒会活動の実践についてのポイントを整理する。</p> <p>【第 14 回】 予習：テキスト P128～P139 を通読してくる。 授業：学校行事の実践① 復習：授業で学修した学校行事の実践についてのポイントを整理する。</p> <p>【第 15 回】 予習：テキスト P128～P139 を通読してくる。 授業：学校行事の実践②・特別活動の実践的課題と可能性 復習：授業で学修した学校行事の実践及び特別活動の実践的課題と可能性についてのポイントを整理する。</p>								
授業開始前学習	特別活動は学級・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事から成り立っている。自身の今までの経験を振り返ってほしい。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業時に講評及びコメントを付してフィードバックする。授業テーマを深め、学修を省察する教材として、適宜、授業内でも活用する。							
テキスト・教材	『特別活動指導法 改訂 2 版(日本文教出版)』 上記テキストを中心に使用し、適宜、授業のテーマに該当する内容のプリントを配付する。							
参考書	中学校・学習指導要領解説「特別活動編」(文部科学省)、生徒指導提要(文部科学省)、その他授業時に指定する。							
評価の基準と方法	授業内の演習および課題を 40 パーセント、定期試験またはそれに準ずる課題を 60 パーセントとして総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎		○	△
関連科目	教職課程の本科目は、他の教職教養系科目と有機的に関連するが、特に「生徒指導の研究」での知見は、本教科の理解を深めてくれる。							
その他	予習、復習の内容については授業時に具体的に指示するが、学習指導要領と参考書等を読んで授業に臨むことを心がけてほしい。授業では、受講生自身の体験等をもとに意見発表や討論を行う。また、「ワークシート」や「学級・ホームルーム通信」などを作成したり、皆の前で発表（プレゼンテーション）したりする機会を複数回設ける。常に問題意識をもって主体的かつ積極的な態度で臨んでほしい。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	公・私立中学校・高等学校教員および学校心理士としての心理・教育的知見と実務経験を活かし、特別活動の指導において教員に求められる資質・能力を育成する授業を展開する。							

科目名称	☆教育方法・技術／教育メディアの研究		
科目分類	110-411-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Education Techniques and Technology	授業区分	講義
科目責任者	八木 浩雄	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	八木 浩雄	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	「教育」という観点から、学校教育の意味を理解し、その上で「教育の方法」についての在り方を学んでいく。また、今日の社会は「知識基盤社会」と称されることから、私たちの生活上欠かせない情報メディアと教育現場の在り方等についても注目していく。特に授業内での情報メディア機器の活用を通して、教員としての情報メディアの活用の事例を考える機会に生かしていきたいと思う。		
到達目標	今日の社会がどのようなものであるのかを各自で分析（課題発見）し、その上で適切な学校教育上の方法を理解し模索する姿勢（問題解決）・方法・技術を身に付けて行く。 特に、子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現＝アクティブ・ラーニング）を理解していく。 また、情報メディア機器の特性を理解し、ICTを学校教育上で活用していく方法を自身の担当科目の特性を踏まえて模索していく。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：簡単な自己紹介、教育上の関心・テーマについて 授業：オリエンテーション（授業時の情報メディア活用の説明を含む）、「教育」とは？（問題意識の確認） 復習：「教育」とは何であるか（「教育」とその「方法」の問題意識の確認）			
【第2回】 予習：前回授業の内容の確認（小レポート内容の把握） 授業：「教育」とは（「教育」と「学校教育」） 復習：「教育」の意味を踏まえた上での、日頃の取り組みについての振り返り			
【第3回】 予習：前回授業の内容の確認（「教育」の意味するところの理解と「学校」の意義） 授業「教育」という営みについて（教育方法の基礎的理論と実践の変遷）—教育史概観①：歴史を学ぶ意義— 復習：世界史の把握			
【第4回】 予習：前回授業の内容の確認（世界史特に西洋の歴史の把握（高校での世界史程度）） 授業：「教育」という営みについて（教育方法の基礎的理論と実践の変遷）—教育史概観②：教育についての変遷（西洋史より）— 復習：世界史の把握（時代・社会の変化と「教育」の関係について）			
【第5回】 予習：前回授業の内容の確認（古代～中世～近世～近代～現代までの特色） 授業：「教育」という営みについて（教育方法の基礎的理論と実践の変遷）—教育史概観③：教育思想の視点から— 復習：教育思想家のポイント等の整理（「教育史」から今日の問題へ）			
【第6回】 予習：前回授業の内容の確認（今日までに形成された「教育」的視点と方法の把握） 授業：教育方法と学習（授業を構成する基礎的要件、教授＝学習の関係） 復習：「教授」・「学習」・「陶冶」等の整理			
【第7回】 予習：前回授業の内容の確認（「教育」≠「伝達」ではないことへの理解） 授業：今日の社会状況と教育課題（教育方法の在り方（アクティブ・ラーニング）について） 復習：学校教育における「生きる力」について			
【第8回】 予習：前回授業の内容の確認（基本的なPC操作の理解） 授業：情報メディアと教育方法・学習について①—ICT教育と学習環境（情報機器の基礎的活用）— 復習：「生きる力」と「知識基盤社会」について			
【第9回】 予習：前回授業の内容の確認 授業：情報メディアと教育方法・学習について②—情報メディアの活用と教育方法（授業を視野に入れた適切な活用）— 復習：情報メディアと子どもに関するニュース等の確認			
【第10回】 予習：前回授業の内容の確認 授業：情報メディアと教育方法・学習について③—教材研究と「知識基盤社会」（情報モラルを含む教育方法な在り方について）— 復習：情報メディアは「子ども」たちにとっての教材であるかどうかの考察			
【第11回】 予習：前回授業の内容の確認 授業：教育方法の考案と実践①（学習評価の基礎的な考え方やアクティブ・ラーニング）（グループワーク・プレゼンテーション・発表） 復習：教育課程の構造の復習			
【第12回】			

<p>予習：前回授業の内容の確認 授業：教育方法の考案と実践②（自己研鑽と協同、学習評価の基礎的な考え方）（グループワーク・プレゼンテーション・発表） 復習：学習指導要領等に記載されている内容との確認 【第13回】 予習：前回授業の内容の確認 授業：教育方法の考案と実践③（教育実践の情報の蓄積と活用上の留意点）（グループワーク・プレゼンテーション・発表） 復習：記録化の重要性（PDCAサイクルを踏まえて）とその際の留意点の再整理 【第14回】 予習：前回授業の内容の確認 授業：今後の教育の在り方について（これまでの内容の補足を含む）（グループワーク・プレゼンテーション・発表） 復習：様々な視点から物事を捉える姿勢の確認 【第15回】 予習：前回授業の内容の確認 授業：授業のまとめ（11回目～14回目までの活動の予備日としても使用する） 復習：今後の自身の課題について</p>								
授業開始前学習	「教育」という営みについての自分なりのイメージを持って授業に臨んでほしい。 また、授業後半で情報メディア機器を使用することから、自身のPCやスマートフォン操作についても慣れておいて欲しい。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内で小レポートを用いて、自分の意見を述べてもらうことを行いたいと考えている。 その意見に応じて、次の授業のスライド（板書）等でコメントを返し、双方向性のある内容を構築したいと考えている。また、授業後半で予定している発表では、他の発表者の発表の仕方を通して、自身の発表の仕方を振り返る機会に生かしてもらいたいと考えている。							
テキスト・教材	1回目の授業以降、テキストに応じたプリント資料を配布する。							
参考書	参考書・参考資料等 中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領 またその他については授業内容に応じて適宜紹介する。							
評価の基準と方法	評価に当たっては、授業内課題（発表を含む、50%）と提出課題（レポート、50%）を総合して、60%以上の評価を受けた者が単位認定となる。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	「教育」に関する科目並びに教職系科目と大いに関連する。また、教育方法の歴史を扱う際に、世界史の知識を必要とする。							
その他	毎回の授業が、前回の内容の積み重ねで進めていくため、授業後の内容把握としての復習は是非お願いしたい。 「情報メディア機器の活用」を取り扱う際に、コンピュータ並びにスマートフォン等の各自の理解の程度を確認することがある為、用意してもらう場合がある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	ICT 活用の理論と方法		
科目分類	110-411-21	単位数	履修ガイド参照
英文名称	ICT Utilization, Theory and Method	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	八木 浩雄	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	八木 浩雄	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	学校教育での ICT 活用の実際を理解し、授業や校務等での ICT 活用の方法を学んでいく。 尚、学校教育での ICT 活用は、現在進行形で取り組まれている部分もある為、学生自身が身近に使用しているスマートフォン・アプリを例にタブレット活用の可能性も考えていく。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータやタブレット（スマートフォンを含む）をはじめとした情報メディア機器を教育活動の中で活用することができる。 ・学校教育での ICT 活用の実際が理解できる。 ・生徒に対して情報メディア機器を活用する上での留意点を指導することができる。（情報モラルを含む。） 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：簡単な自己紹介、教育上の関心・テーマについて 授業：オリエンテーション（授業時の情報メディア活用の説明を含む）、コンピュータ（以下 PC）操作の確認 復習：本授業で説明した操作等の復習確認</p> <p>【第2回】 予習：PC・スマホでの検索練習 授業：web 検索操作①（基本的な検索操作） 復習：操作等の復習確認（PC・スマホでの検索操作）</p> <p>【第3回】 予習：授業準備に応じた情報収集の練習 授業：web 検索操作②（応用的な検索操作、ポータルサイトの活用） 復習：操作等の復習確認（PC・スマホでの検索操作）</p> <p>【第4回】 予習：Word、Excel、PowerPoint の操作の把握 授業：web サービスの活用①（Google サービス、スマホアプリ等） 復習：操作等の復習確認（スマホの場合はアプリの確認）</p> <p>【第5回】 予習：Word、Excel、PowerPoint の操作の把握 授業：文書作成、表計算、プレゼンテーション等の活用①（例：Google サービスの活用、登録等について） 復習：操作等の復習確認（Google ID での操作確認、PC・スマホでの連携準備）</p> <p>【第6回】 予習：Word、Excel、PowerPoint の操作の把握 授業：文書作成、表計算、プレゼンテーション等の活用②（操作とオンライン・ドライブ） 復習：操作等の復習確認（Google ID での操作確認、PC・スマホでの連携準備）</p> <p>【第7回】 予習：Word、Excel、PowerPoint の操作の把握 授業：文書作成、表計算、プレゼンテーション等の活用③（資料作成…入力） 復習：操作等の復習確認（Google ID での操作確認、PC・スマホでの連携準備）</p> <p>【第8回】 予習：Word、Excel、PowerPoint の操作の把握 授業：文書作成、表計算、プレゼンテーション等の活用④（資料作成…編集） 復習：操作等の復習確認（Google ID での操作確認、PC・スマホでの連携準備）</p> <p>【第9回】 予習：Word、Excel、PowerPoint の操作の把握 授業：文書作成、表計算、プレゼンテーション等の活用⑤（課題作成） 復習：操作等の復習確認（Google ID での操作確認、PC・スマホでの連携準備）</p> <p>【第10回】 予習：Google ドライブ（作成ファイル）の確認 授業：web サービスの活用②（その他のサービス） 復習：本授業で説明した操作等の復習確認</p> <p>【第11回】 予習：PC・スマホの接続端子等についての把握 授業：文情報メディア機器と周辺機器①（情報発信として） 復習：本授業で説明した操作等の復習確認</p> <p>【第12回】 予習：PC・スマホの接続端子等についての把握 授業：情報メディア機器と周辺機器②（周辺機器とアプリの連携した活用） 復習：本授業で説明した操作等の復習確認</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : Google ID 等の把握 (ドライブへのアクセス確認など) 授業 : PC とタブレット (スマートフォンを含む) の連携 復習 : 本授業で説明した操作等の復習確認 【第 14 回】 予習 : 作成課題のテーマ準備 授業 : 総合課題作成 (質疑応答を含む) 復習 : 本授業で説明した操作等の復習確認 【第 15 回】 予習 : 作成課題の内容検討 (提出に向けて作成) 授業 : 総合課題作成 (提出までを含む) 、まとめ 復習 : 本授業で説明した操作等の復習確認								
授業開始前学習	自身の目指す教員免許状に応じた科目に対しての、情報メディア機器の活用について、自分なりに考えておいて欲しい。情報メディア機器を使用することから、自身の PC やスマートフォン操作についても慣れておいて欲しい。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で課題作成や小レポートを用いて、自分の意見を述べてもらうことを行いたいと考えている。その意見に応じて、次の授業のスライド (板書) 等でコメントを返し、双方向性のある内容を構築したいと考えている。また、課題作成を通して発表を行ってもらうため、他の発表者の発表の仕方を通して、自身の発表の仕方を振り返る機会に生かしてもらいたいと考えている。							
テキスト・教材	テキストに応じたプリント資料を配布する。							
参考書	中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領 またその他については授業内容に応じて適宜紹介する。							
評価の基準と方法	評価に当たっては、授業内課題 (発表を含む、50%) と提出課題 (レポート、50%) を総合して、60% 以上の評価を受けた者が単位認定となる。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成	自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成	社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成	文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	△	◎	○
関連科目	情報メディア機器を操作することから、PC 等の操作を扱った授業内容の復習を行っておいて欲しい。							
その他	毎回の授業が、前回の内容の積み重ねで進めていくため、授業後の内容把握としての復習は是非お願いしたい。「情報メディア機器の活用」を取り扱う際に、コンピュータ並びにスマートフォン等の各自の理解の程度を確認することがある為、用意してもらう場合がある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	☆生徒指導論（進路指導を含む）／生徒指導の研究		
科目分類	110-411-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Methods for Student Guidance and Career Guidance	授業区分	講義
科目責任者	田中 正浩	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中 正浩	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	授業で得た知識や理論が教職を目指す受講生の力量形成の一助となることを主眼に置き、生徒指導（進路指導も含む）の意義と役割、さらには指導機能が働く実際の場面と諸問題について実践例を取り上げながらできる限り詳細かつ具体的に解説し、理解を深めていく。		
到達目標	本授業では、生徒指導（進路指導も含む）の理論を理解し、実際の場面（教育相談、進路指導場面も含む）で用いられる児童理解の方法、集団・個別指導の方法等といった実践的能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバス（本教科の授業テーマ・内容及び到達目標等）読んでおく 授業：生徒指導の意義と原理 復習：生徒指導の原理について整理する</p> <p>【第2回】 予習：配付資料を読んでおく 授業：教育課程における生徒指導 復習：教育課程と生徒指導の関連性について整理する</p> <p>【第3回】 予習：配付資料を読んでおく 授業：児童生徒理解の意義と方法 復習：児童生徒理解の方法について整理する</p> <p>【第4回】 予習：配付資料を読んでおく 授業：学校における生徒指導体制 復習：生徒指導体制について整理する</p> <p>【第5回】 予習：配付資料を読んでおく 授業：生徒指導の在り方と方法原理 復習：生徒指導の方法原理について整理する</p> <p>【第6回】 予習：配付資料を読んでおく 授業：生徒指導に生かす教育相談 復習：教育相談について整理する</p> <p>【第7回】 予習：配付資料について読んでおく 授業：学級担任が行う生徒指導 復習：学級担任による生徒指導について整理する</p> <p>【第8回】 予習：配付資料を読んでおく 授業：進路指導の意義と原理 復習：進路指導の原理について整理する</p> <p>【第9回】 予習：配付資料を読んでおく 授業：教育課程における進路指導 復習：教育課程と進路指導の関連性について整理する</p> <p>【第10回】 予習：配付資料を読んでおく 授業：進路指導の在り方と方法原理 復習：進路指導の方法原理について整理する</p> <p>【第11回】 予習：配付資料を読んでおく 授業：生徒指導に関する法令等の理解 復習：生徒指導に関する法令について整理する</p> <p>【第12回】 予習：配付資料を読んでおく 授業：暴力行為、いじめ、不登校等の理解と対応(プレゼンテーション) 復習：暴力行為、いじめ、不登校への対応について整理する</p> <p>【第13回】</p>			

予習：配付資料を読んでおく 授業：飲酒、喫煙、薬物乱用、自殺予防等の理解と対応（プレゼンテーション） 復習：飲酒、喫煙、薬物乱用、自殺予防等への対応について整理する 【第14回】 予習：配付資料を読んでおく 授業：生徒指導と他機関連携 復習：生徒指導における他機関との連携及び実務の実際について整理する 【第15回】 予習：配付資料を読んでおく 授業：生徒指導の動向と課題（グループ・ディスカッション） 復習：生徒指導の課題について整理する								
授業開始前学習	今日の教育問題である、いじめ、不登校、学級崩壊等について、書物などを通して情報を得ておくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	小テスト及び課題については、次回授業においてフィードバックを行う。							
テキスト・教材	文部科学省『生徒指導提要』（教育図書）最新版 このほか適宜、資料プリントを配付する。							
参考書	授業にて、適宜、紹介する。							
評価の基準と方法	小テスト（20%）、試験（60%）、平常点〔授業への取組・課題提出〕（20%）により総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎	○	○	
関連科目	本教科は他の教職教養系科目と有機的に関連しており、特に「教育原理」での知見は本教科の理解を深めてくれる。							
その他	予習、復習の内容については授業時に具体的に指示するが、資料プリントを読んで授業に臨むことを常とする。授業では、受講生自身の体験等をもとに意見発表や討論を行ってもらう。常に問題意識をもって主体的かつ積極的な態度で臨んでほしい。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	教育実習指導		
科目分類	110-411-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Teaching Practice Guidance	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中野 達也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野 達也	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-508
授業概要	次年度教育実習に行く前段階として、教員に必要な識見、態度、技能を得るための学習を行う。		
到達目標	教育実習の意義を認識し、実習時の実践的指導に必要な基礎的な指導力を身につける。 教育実習における注意点を自分のことばで説明することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：01/02/03 を読み、ポイントをまとめる。 授業：01/02/03 「教育実習って、何だろう？」「教育実習の服装や持ち物は？」「教育実習までの流れは？」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習：自分の教育実習の目的と意義をまとめる			
【第2回】 予習：04/05/06 を読み、ポイントをまとめる。 授業：04/05/06 「実習校はどう選ぶ？」「どのように決まる？」「事前打ち合わせでは、どんなことをする？」「礼儀・マナーに自信がないのですが？」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習：自分の教育実習の心得をまとめる			
【第3回】 予習：07/08/09 を読み、ポイントをまとめる 授業：07/08/09 「クラスの子どもたちに、どう接したい？」「先生方とのコミュニケーションはどうとる？」「初日をどう迎える？」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習：生徒、教員とのコミュニケーションの取り方についてまとめる			
【第4回】 予習：10/12/13/14 を読み、ポイントをまとめる 授業：10/12/13/14 「朝の会・帰りの会はどうしたらいい？」「学級経営のポイントは？」「給食指導って、どうするの？」「部活動や学校行事への参加は？」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習：授業外の指導についてまとめる			
【第5回】 予習：15 を読み、ポイントをまとめる 授業：15 「教育実習、こんなときはどうする？」事例に基づいた討論（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習：具体的事例についてまとめる			
【第6回】 予習：16 を読み、ポイントをまとめる 授業：16 「教育実習はどこを、どう評価される？」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習：教育実習の評価についてまとめる			
【第7回】 予習：25/29 を読み、ポイントをまとめる 授業：25/29 「国語科の指導案はどう書くの？」「英語科の指導案はどう書くの？」「駒沢学園女子中学・高等学校見学の準備（教科指導）」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習：教科指導の注意点をまとめる			
【第8回】 予習：学校見学時の自分の課題を見つける 授業：駒沢学園女子中学・高等学校見学 ※状況を見て変更もあり得る、その場合は中高の実践事例を紹介する 復習：学校見学時に発見した自分の課題をまとめる			
【第9回】 予習：30/31 を読み、ポイントをまとめる 授業：30/31 「総合的な学習の時間」の指導法は？「教育実習にはどんなプロセスがある？」学校見学についてのレポート提出（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習：専門教科以外の科目についてまとめる			
【第10回】 予習：32/33/34 を読み、ポイントをまとめる 授業：32/33/34 「板書を上手に書くには？」「授業での発問と指名のポイントは？」「ノート指導・机間指導のポイントは？」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習：具体的指導方法についてまとめる			
【第11回】 予習：35/36 を読み、ポイントをまとめる			

<p>授業：35/36「情報機器を使いこなすには？」「授業で配布するプリントはどう作ればいいのか？」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習：ICTの活用法・教材研究の意義をまとめる 【第12回】 予習：37/38を読み、ポイントをまとめる 授業：37/38「これで安心！研究授業の準備と心得」「研究授業の反省会、気をつけるべきことは？」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習：研究授業についてまとめる 【第13回】 予習：39/41/42/43を読み、ポイントをまとめる 授業：39/41/42/43「実習日誌には、何をどう書けばいい？」「実習日誌がなかなか書けない！」「よりよい実習日誌を書くためのポイントは？」「実習日誌のまとめはどうか書けばいいの？」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習：実習の振り返り方についてまとめる 【第14回】 予習：45/46/47/48/49/50を読み、ポイントをまとめる 授業：45/46/47/48/49/50「教員採用試験って、どんな試験？」「教員の待遇は？」「教員採用試験の攻略法は？」「一般教養の勉強方法方法は？」「教職教養の勉強方法は？」「私学適性検査とは？」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習：教員採用試験に向けた取り組みについてまとめる 【第15回】 予習：後期の学びを振り返る 授業：「教育実習に臨むにあたり、どのような実習にしたいか決意を述べる」討論（グループワーク）（ディスカッション）（発表）・後期のまとめ 復習：4年次の実習に向け、自己研鑽課題をまとめ、教育実習に備える</p>								
授業開始前学習	既修得の教育職員養成課程科目の教科書及び実際の中学校・高等学校の現場を理解できるような本を読んでおくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	各回提出のレポートは個別にフィードバックを行い、指導する。共通した質問・課題については授業内で全体講評を行う。							
テキスト・教材	「教育実習完璧ガイド」宮崎猛・小泉博明編著 小学館							
参考書	授業内で適宜紹介する。							
評価の基準と方法	授業への参加度（発表を含む）30%、レポート30%、定期試験40%を総合して評価する							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	△
関連科目								
その他	遅刻、無断欠席は認めない。 中学校・高等学校見学について、詳細な実施日程は講義開始後に決定する。							
予習・復習の所要時間	講義時間30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間15時間（1時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校教員として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。							

科目名称	教育実習 I (中学校)			
科目分類	110-411-24 (J)	単位数	履修ガイド参照	
英文名称	Teaching Practice I	授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者	中野 達也	必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	中野 達也	開講時期	履修ガイド参照	
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00~10:30 木曜日 13:00~14:30 後期 火曜日 09:00~10:30 木曜日 13:00~14:30	研究室	10-508	
授業概要	国語科・英語科の教員に必要な識見、態度、技能を得るために実際に中学校あるいは高等学校で教員生活を実習体験する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導に関する知識を活かして授業を担当することができる。 ・実習校の校務全般に関わり、学校経営、学年経営、学級経営等のあり方を正しく説明することができる。 ・指導教官の指示にしたがい、最後まで充実した実習期間を過ごすことができる。 			
アクティブ・ラーニング型授業	有			
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）				
<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学でオリエンテーションを行う。 オリエンテーション中に模擬授業を行い、その後改善のためのグループワークを行う。 2) 実習校を訪問する。 <ul style="list-style-type: none"> ・事前打ち合わせをする（担当学年・授業数等）。 ・教科書を準備する。 ・服装を準備する（体操着・上履・運動靴等）。 ・印鑑を準備する。 3) 実習開始 <ul style="list-style-type: none"> ・実習日誌に実習校の概略を記載する。 ・挨拶を準備する。 ・観察実習を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 職員朝会（学校運営・連絡事項確認等） 学級朝会（学級運営・連絡事項・生徒観察等） 授業観察参加（教材研究・時間配分・生徒観察等）、事前学習で学んだことについてのレポートの提出 学級終会（学級運営・連絡事項・生徒観察等） 清掃活動（学級運営・生徒観察） 部活動（生徒観察）、事前学習で学んだことについてのレポートの講評 委員会活動（学校運営・生徒観察等） ・教壇実習を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 教材研究 指導案作成（時間配分・留意点・指導計画・指導目標等） ・実習日誌を記載する。 4) 実習終了 <ul style="list-style-type: none"> ・実習反省会に参加する。 ・実習日誌を受け取る。 5) 大学に戻る。 <ul style="list-style-type: none"> ・大学に実習日誌・諸記録・レポートを提出する。 ・大学での実習反省会・報告会に参加する。実習日誌・諸記録・レポートの講評。 6) 実習校にお礼状を書く。 				
授業開始前学習	教科教育法で学んだことを生かし、教材研究をして、指導案を事前を書いておくことが望ましい。			
授業内課題のフィードバックの方法	オリエンテーション期間中、指導案や授業運営について学生ごとに指導する。			
テキスト・教材	初回の授業で指示する。			
参考書				
評価の基準と方法	実習校の指導教諭と協議して評価する。			
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成	自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成	社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成	文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		○	◎
関連科目								
その他	大学に対する評価を下げたり、後輩の実習条件を悪くしたりしないよう、注意深く考えて行動すること。また実習校の指示に従い、上靴や運動着などを用意すること。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間 (2 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容	中学校・高等学校教員として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。							

☆教育実習Ⅱ(高等学校)／教育実習(高等学校)

科目名称	☆教育実習Ⅱ(高等学校)／教育実習(高等学校)			
科目分類	110-411-24 (J)	単位数	履修ガイド参照	
英文名称	Teaching Practice II	授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者	中野 達也	必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	中野 達也	開講時期	履修ガイド参照	
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-508	
授業概要	国語科・英語科の教員に必要な識見、態度、技能を得るために実際に中学校あるいは高等学校で教員生活を実習体験する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導に関する知識を活かして授業を担当することができる。 ・実習校の校務全般に関わり、学校経営、学年経営、学級経営等のあり方を正しく説明することができる。 ・指導教官の指示にしたがい、最後まで充実した実習期間を過ごすことができる。 			
アクティブ・ラーニング型授業	有			
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）				
<p>1) 大学でオリエンテーションを行う。 オリエンテーション中に模擬授業を行い、その後改善のためのグループワークを行う。</p> <p>2) 実習校を訪問する。 ・事前打ち合わせをする（担当学年・授業数等）。 ・教科書を準備する。 ・服装を準備する（体操着・上履・運動靴等）。 ・印鑑を準備する。</p> <p>3) 実習開始 ・実習日誌に実習校の概略を記載する。 ・挨拶を準備する。 ・観察実習を行う。 職員朝会（学校運営・連絡事項確認等） 学級朝会（学級運営・連絡事項・生徒観察等） 授業観察参加（教材研究・時間配分・生徒観察等）、事前学習で学んだことについてのレポートの提出 学級終会（学級運営・連絡事項・生徒観察等） 清掃活動（学級運営・生徒観察） 部活動（生徒観察）、事前学習で学んだことについてのレポートの報告 委員会活動（学校運営・生徒観察等） ・教壇実習を行う。 教材研究 指導案作成（時間配分・留意点・指導計画・指導目標等） ・実習日誌を記載する。</p> <p>4) 実習終了 ・実習日誌・諸記録・レポートを提出する。 ・実習反省会に参加する。 ・実習日誌を受け取る。</p> <p>5) 大学に戻る。 ・大学に実習日誌・諸記録・レポートを提出する。 ・大学での実習反省会・報告会に参加する。実習日誌・諸記録・レポートの講評。</p> <p>6) 実習校にお礼状を書く。</p>				
授業開始前学習	教科教育法で学んだことを生かし、教材研究をして、指導案を事前に書いておくことが望ましい。			
授業内課題のフィードバックの方法	オリエンテーション期間中、指導案や授業運営について学生ごとに指導する。			
テキスト・教材	初回の授業で指示する。			
参考書				
評価の基準と方法	実習校の指導教諭と協議して評価する。			
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成	自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成	社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成	文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		○	◎
関連科目								
その他	大学に対する評価を下げたり、後輩の実習条件を悪くしたりしないよう注意深く考えて行動すること。実習校謝礼等 18,000円。また実習校の指示に従い、上靴や運動着などを用意すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間 (2 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校教員とし教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。							

科目名称	教職実践演習（中・高）		
科目分類	110-411-24（J）	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Teacher Training Practice Seminar (Junior High School and High School)	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中野 達也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野 達也	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-508
授業概要	これまでの教職課程で身につけたこと、課題であることを明らかにして、不足している知識や技能等を演習等により補い、定着を図ることにより、教員としての最低限必要な資質能力を身につける。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習や3年時までの活動を通じて身に付けた能力を自覚することができる。 ・教職に就いた際の自らの課題を探索し、不足している知識や技能を学ぶ計画を立てることができる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：第1章・第2章を読み、ポイントをまとめる。 授業：第1章「教職実践演習とは」、第2章「教科等の指導：教育実習のふり返り」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：「教職実践演習」という授業の意義についてまとめる</p> <p>【第2回】 予習：第3章を読み、ポイントをまとめる。 授業：第3章「教科等の指導：学習指導要領内容」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：「教科指導：学習指導要領」についてまとめる</p> <p>【第3回】 予習：第4章・第5章・第6章を読み、ポイントをまとめる 授業：第4章「教科等の指導：学習指導案作成の重要性とその意義」、第5章「教科等の指導：学習指導案の作成と授業の展開・工夫」、第6章「教科等の指導：模擬授業」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：「学習指導案の作成」についてまとめる</p> <p>【第4回】 予習：第7章を読み、ポイントをまとめる 授業：第7章「教科等の指導：道徳教育と特別活動」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：「道徳教育及び特別活動」についてまとめる</p> <p>【第5回】 予習：第8章を読み、ポイントをまとめる 授業：第8章「生徒理解：子どもの発達理解」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：「子どもの発達」についてまとめる</p> <p>【第6回】 予習：第9章を読み、ポイントをまとめる 授業：第9章「9. 生徒理解：生徒指導と教育相談」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：「生徒指導と教育相談」についてまとめる</p> <p>【第7回】第10章を読み、ポイントをまとめる 授業：第10章「生徒理解：特別支援教育」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：「特別支援教育」についてまとめる</p> <p>【第8回】 予習：第11章を読み、ポイントをまとめる 授業：第11章「学級経営：学級経営のあり方について」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：「学級経営」についてまとめる</p> <p>【第9回】 予習：自分の教育実習を振り返り、見学時のポイントをまとめる 授業：中学校授業見学 ※後期の状況を見て変更もあり得る、その場合は中高の実践事例を紹介する 復習：授業見学について振り返るレポートをまとめる</p> <p>【第10回】 予習：第12章を読み、ポイントをまとめる 授業：第12章「社会性や対人関係力：教師のコミュニケーション力—組織の一員として・児童生徒に対して」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：「教師のコミュニケーション力」についてまとめる。お礼状を書く</p> <p>【第11回】 予習：第13章を読み、ポイントをまとめる 授業：第13章「社会性や対人関係力：保護者・地域社会への対応について」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：「保護者・地域社会への対応」についてまとめる</p> <p>【第12回】 予習：外部講師の講演に備えて、質問事項を考える 授業：外部講師講演（ディスカッション） ※後期の状況を見て変更もあり得る、その場合は別課題を用意する 復習：外部講師講演内容・討論内容をまとめる</p>			

<p>【第13回】 予習：第14章を読み、ポイントをまとめる 授業：第14章「教師としての使命感・責任感、倫理観、教育的愛情」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：「教師としての使命感・責任感」についてまとめる</p> <p>【第14回】 予習：国際化推進における教師の役目について調べる 授業：外部講師講演「外国語教育と国際化」（ディスカッション） 復習：外部講師講演内容・討論内容をまとめる</p> <p>【第15回】 予習：第15章を読み、ポイントをまとめる 授業：第15章「まとめ：教師の力量とキャリア形成—自己成長の重要性」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション）、後期のまとめ 復習：教職課程で学んだことを活かし、教師になったときに一番伝えたいことをまとめる</p>								
授業開始前学習	今までの教職課程で学んだことを整理しておくこと							
授業内課題の フィードバックの方法	各回提出のレポートは、GWSEを活用して個別に指導する。 共通した質問・課題については授業内で全体講評を行う。							
テキスト・教材	「自己成長を目指す教職実践演習に」原田 恵理子、森山 賢一著 北樹出版							
参考書	その都度紹介する							
評価の基準と方法	授業への参加度（発表を含む）30%、レポート30%、定期試験40%を総合して評価する。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△	○				◎	○
関連科目								
その他	遅刻、無断欠席は認めない。教育現場を訪問する（交通費各自負担）。 見学校、外部講師の都合により実施日を変更する可能性がある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	中学校・高等学校教員として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。							

科目名称	介護等の体験		
科目分類	110-411-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Care Work Experience	授業区分	講義
科目責任者	山口 遼	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山口 遼	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>中学校教諭の免許状取得希望者は「介護等の体験」を受講する必要があります。本授業では、「介護等の体験」の意義を理解するとともに、必要な知識と行動規範を身につけることを目的とします。</p> <p>具体的には、なぜ本体験が必要なのか（意義）、社会福祉施設や特別支援学校はどのような場所なのか（知識）、体験ではどのような振る舞いが必要なのか（行動規範）などを取り上げます。また、本授業や体験を通して、介護等体験の目的の1つである、個人や集団間に存在する様々な違い（多様性）について理解し、考えを深めていただきたいと思います。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校教諭の免許状取得に必要な“介護等体験”の位置づけを理解し、説明できるようになる。 ・ダイバーシティとインクルージョンの定義を理解し、説明できるようになる。 ・「介護等の体験」を行う施設の種類と施設利用者の特徴を理解し、他者に概説できるようになる。 ・「介護等の体験」を行う上での行動規範について理解し、他者に概説できるようになる。 ・「介護等の体験」に必要な書類等の種類と提出期限を把握し、準備する。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：介護等体験特例法について調べる 授業：介護等の体験の位置づけと意義、心得 復習：介護等の体験の位置づけと意義、心得について整理する</p> <p>【第2回】 予習：ダイバーシティとインクルージョンについて調べる 授業：ダイバーシティ、インクルージョン及び共生社会について考える（ディスカッション） 復習：ダイバーシティ、インクルージョン及び共生社会について整理する</p> <p>【第3回】 予習：日本の社会保障制度について調べる 授業：社会保障について考える（ディスカッション） 復習：社会保障の良い点と課題について整理する</p> <p>【第4回】 予習：社会福祉施設の種類について調べる 授業：社会福祉施設について（1）～高齢期のエイジング～ 復習：高齢社会の現状と課題について整理する</p> <p>【第5回】 予習：社会福祉施設利用者のケアについて調べる 授業：社会福祉施設について（2）～施設利用者のケア～ 復習：社会福祉施設利用者のケアのポイントについて整理する</p> <p>【第6回】 予習：障害の定義や種類について調べる 授業：障害について考える（ディスカッション） 復習：障害にまつわる知識について整理する</p> <p>【第7回】 予習：知的障害について調べる 授業：特別支援学校について（1）～知的障害教育～ 復習：知的障害教育の要点について整理する</p> <p>【第8回】 予習：聴覚障害について調べる 授業：特別支援学校について（2）～聴覚障害教育～ 復習：聴覚障害教育の要点について整理する</p> <p>【第9回】 予習：視覚障害について調べる 授業：特別支援学校について（3）～視覚障害教育～ 復習：視覚障害教育の要点について整理する</p> <p>【第10回】 予習：肢体不自由・病弱について調べる 授業：特別支援学校について（4）～肢体不自由・病弱教育～ 復習：肢体不自由・病弱教育の要点について整理する</p> <p>【第11回】 予習：発達障害について調べる 授業：発達障害について考える～ASD・ADHD・LD～ 復習：発達障害支援の要点について整理する</p> <p>【第12回】</p>			

<p>予習 : 社会福祉施設について調べ、プレゼン資料を作成する 授業 : 調べ学習(1)～社会福祉施設～(プレゼンテーション、ディスカッション) 復習 : 社会福祉施設での体験に向けて、心構えについて整理する 【第13回】 予習 : 特別支援学校について調べ、プレゼン資料を作成する 授業 : 調べ学習(2)～特別支援学校～(プレゼンテーション、ディスカッション) 復習 : 社会福祉施設での体験に向けて、心構えについて整理する 【第14回】 予習 : その他関連学級について調べ、プレゼン資料を作成する 授業 : 調べ学習(3)～その他関連学級～(プレゼンテーション、ディスカッション) 復習 : 特別支援学校での体験に向けて、心構えについて整理する 【第15回】 予習 : 体験先へ提出する書類を確認する、実際の体験施設について基本情報を調べる 授業 : 実際の体験に向けて～提出書類と体験日程の確認、体験にあたっての注意事項～ 復習 : 今後の流れ、手続き、及びスケジュールを確認し、実行する</p>								
授業開始前学習	オリエンテーションでの内容を踏まえ、本授業で何を学びたいか自分なりに整理してください。また、「介護等体験特例法」について調べ、「介護等の体験」の成り立ちや対象について知りましょう。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内で課すショートレポート等は、次回以降の授業内で講評します。							
テキスト・教材	授業資料はパワーポイントで作成し、適宜配布します。							
参考書	全国特別支援学校長会他(編著)『介護等体験ガイドブック 新フリア』(ジアース教育新社) 橋本創一他(編著)『教職課程コアカリキュラム対応版 特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育』(福村出版)							
評価の基準と方法	プレゼンテーション(30%)、期末レポート(30%)、平常点:授業参加姿勢・コメントペーパー(40%)を総合的に判断し、評価します。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△	○				○	◎
関連科目								
その他	授業の進め方や内容については、受講学生の興味関心等に応じて適宜変更する可能性があります。その場合は、授業内にて別途指示を出します。また本授業では、プレゼンテーションやディスカッション等を予定しています。履修者はそのつもりで参加してください。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	☆視聴覚教育メディア論		
科目分類	110-411-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Audiovisual Media Education	授業区分	講義
科目責任者	篠 政行	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	篠 政行	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	4-204
授業概要	この授業は、視聴覚教育の歴史や教育方法について考え、その意義や教材およびメディアの関係性や重要性を知り、日本における視聴覚教育の始まりや定義、視聴覚教材の長所短所を検討します。教育現場での活用方法のみならず、博物館の学芸員として必要な事柄も学んでいきます。授業は、下記に記したテキストを中心に据え、受講生が模擬授業形式を通して問題解決型学習で進めていきます。この授業では、発表及びグループ・ディスカッションを行います。		
到達目標	教育の場で活用する視聴覚機器（テレビ、DVD、スライド、映画等）、情報機器（PC、Web等）などの教育メディアについて、その機能や種類、利用方法を身につけます。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：テキストに目をとおりて概要を見ておく。 授業：オリエンテーション（この授業の目的と授業に対する姿勢、授業の進め方）、「1. 視聴覚教育の意味」（テキストp1-4） 復習：本日の内容をノートにまとめ、視聴覚教育に関連した事項を調べて追加記入する。			
【第2回】 予習：テキスト（p4-20）に目をとおりて、関連した人物や事柄に関して考えておく。 授業：「2. 視聴覚教育の源流」～「5. 視聴覚教育の定義」（テキストp4-20）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習：本日の内容をノートにまとめ、関連した人物や事柄に関して調べて追加記入する。			
【第3回】 予習：テキスト（p20-33）に目をとおりて、歴史的流れに関して考えておく。 授業：「6. 視聴覚教育の動向」～「1. 教育メディアの種類と選択」（テキストp20-33）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習：本日の内容をノートにまとめ、歴史的流れに関して調べて追加記入する。			
【第4回】 予習：テキスト（p33-50）に目をとおりて、視聴覚機器に関して考えておく。 授業：「2. 非投映系視覚メディア」～「6. 放送メディア」（テキストp33-50）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習：本日の内容をノートにまとめ、視聴覚機器に関して調べて追加記入する。			
【第5回】 予習：テキスト（p50-64）に目をとおりて、視聴覚機器の変遷に関して考えておく。 授業：「7. コンピュータと通信メディア」～「1. メディア概説」（テキストp50-64）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習：本日の内容をノートにまとめ、視聴覚機器の変遷に関して調べて追加記入する。			
【第6回】 予習：テキスト（p65-79）に目をとおりて、各自のこれまでのメディアを使っの教育内容に関して考えておく。 授業：「2. メディアについての教育」（テキストp65-79）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習：本日の内容をノートにまとめ、各自のこれまでのメディアを使っの教育内容に関して調べて追加記入する。			
【第7回】 予習：これまでの内容をノートにまとめておく。 授業：わかりやすいノートの取り方とまとめ方-1（個人作業） 復習：本日の内容を踏まえ、ノート提出の準備をする。			
【第8回】 予習：テキスト（p79-96）に目をとおりて、メディア教育と博物館展示に関して考えておく。 授業：「3. メディア教育の内容と今後」～「1. 博物館と展示・教育事業」（テキストp79-96）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習：本日の内容をノートにまとめ、メディア教育と博物館展示に関して追加記入する。			
【第9回】 予習：テキスト（p96-111）に目をとおりて、展示方法の違いに関して考えておく。 授業：「2. 博物館の資料」～「4. 視聴覚メディアの展望」（テキストp96-111）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習：本日の内容をノートにまとめ、展示方法の違いに関して調べて追加記入する。			
【第10回】 予習：テキスト（p112-125）に目をとおりて、映像情報の認知方法に関して考えておく。 授業：「1. 映像・イメージ」～「2. 映像情報の認知」（テキストp112-125）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習：本日の内容をノートにまとめ、映像情報の認知方法に関して調べて追加記入する。			
【第11回】 予習：テキスト（p125-140）に目をとおりて、映像メディアによる教育的効果に関して考えておく。 授業：「3. 教育における映像の効果-実証的諸研究を通して」～「4. 映像・イメージと教育」（テキストp125-140）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習：本日の内容をノートにまとめ、映像メディアによる教育的効果に関して調べて追加記入する。			
【第12回】 予習：テキスト（p141-148）に目をとおりて、コンピュータの変遷に関して考えておく。 授業：「1. コンピュータの発展とデジタル処理」（テキストp141-148）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習：本日の内容をノートにまとめ、コンピュータの変遷に関して調べて追加記入する。			

<p>【第13回】 予習：テキスト（p148-161）に目をとおして、教育の情報化に関して考えておく。 授業：「2. マルチメディア対応のコンピュータ」～「4. 生涯学習と情報通信ネットワーク」（テキストp148-161）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習：本日の内容をノートにまとめ、教育の情報化に関して追加記入する。</p> <p>【第14回】 予習：これまでの内容をノートにまとめたものを確認する。 授業：わかりやすいノートの取り方とまとめ方-2（グループ・ワーク） 復習：これまでの内容をノートにまとめ、必要事項を調べさらに追加記入し、次回の提出に備える。</p> <p>【第15回】 予習：本日の提出に備え、これまでの内容のまとめを再検討する。 授業：ふりかえりとまとめ（グループ・ワーク及びグループ・ディスカッション） 復習：これまで学んできた事項で、気になったことに関して再度調べ、より理解を深める。</p>								
授業開始前学習	教職を取る学生が考えるべき問題などを新聞やインターネットから調べておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	発表（プレゼン）は、その時点で個別の講評を行う。またレポート課題は、個々の内容を充実させる目的で、学生の相互評価と全体の講評を行います。							
テキスト・教材	<ul style="list-style-type: none"> ・「改訂 視聴覚メディアと教育」（佐賀啓男著、樹村房）。 ・プリントと関連資料は、適宜配付（（Google-classroom 上にアップ）します。 							
参考書								
評価の基準と方法	発表（30%）、定期試験（30%）、質疑応答等への積極性（10%）、授業態度（10%）ノート提出（10%）、毎回のリアクションペーパーへのコメント（10%）により総合的に評価します。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	
関連科目								
その他	遅刻、欠席を極力避けること。なお、遅刻、欠席した場合には原則として事前に連絡を行うこと。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	日本国憲法 I		
科目分類	100-121-11	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese Constitution I	授業区分	講義
科目責任者	福王 守	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	福王 守	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-614
授業概要	日本国憲法とは、日本国のあり方を定めた基本法を意味します。これは、一人ひとりの国民を人格の担い手として尊重するという、例外を許さない価値観の下に作られました。なぜ、第二次世界大戦後にこの憲法は制定されたのでしょうか。そして、なぜ「基本的人権の尊重」、「国民主権」、および「平和主義」という 3 つの柱が立てられたのでしょうか。この授業では、はじめにこのような基本的な仕組みを歴史的に検証します。その上で、第 1 の柱である「基本的人権の尊重」について、急がずに具体例を踏まえつつ理解を深めたいと思います。		
到達目標	日本国における基本法である「日本国憲法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力を身につけることを目標とします。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
※ 毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。			
【第 1 回】 予習：本科目シラバスおよびテキスト目次 1～11 頁の講読 授業：「日本国憲法」とは：授業の目的・内容・学習方法について【テキスト 目次 1～11 頁】 復習：テキスト目次 1～11 頁の再読、第 1 回授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 2 回】 予習：テキスト 3 頁の講読およびキーワードの確認 授業：市民社会と法：法の役割と憲法の意義 【テキスト 3 頁】 復習：テキスト 3 頁の再読、第 2 回授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 3 回】 予習：テキスト 13～16 頁の講読およびキーワードの確認 授業：日本国憲法の背景：立憲主義と個人の尊厳 【テキスト 13～16 頁】 復習：テキスト 13～16 頁の再読、第 3 回授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 4 回】 予習：テキスト 17～26 頁の講読およびキーワードの確認 授業：日本国憲法の背景：戦後憲法制定の背景 【テキスト 17～26 頁】 復習：テキスト 17～26 頁の再読、第 4 回授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 5 回】 予習：テキスト 27～31 頁の講読およびキーワードの確認 授業：憲法の目的と趣旨：日本国憲法前文の意味 【テキスト 27～31 頁】 復習：テキスト 27～31 頁の再読、第 5 回授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 6 回】 予習：テキスト 32～43 頁の講読およびキーワードの確認 授業：憲法の目的と趣旨：平和主義原理と平和的生存権 【テキスト 32～43 頁】 復習：テキスト 32～43 頁の再読、第 6 回授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 7 回】 予習：テキスト 15、29、53 頁の講読およびキーワードの確認 授業：憲法の目的と趣旨：基本的人権尊重原理と人権の類型 【テキスト 15、29、53 頁】 復習：テキスト 15、29、53 頁の再読、第 7 回授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 8 回】 予習：テキスト 73～81 頁の講読およびキーワードの確認 授業：人権の基本：包括的基本権としての幸福追求権 【テキスト 73～81 頁】 復習：テキスト 73～81 頁の再読、第 8 回授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 9 回】 予習：テキスト 81～88 頁の講読およびキーワードの確認 授業：人権の基本：法の下での平等 【テキスト 81～88 頁】 復習：テキスト 81～88 頁の再読、第 9 回授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 10 回】 予習：第 2 回～9 回までのテキスト全学習頁の講読およびキーワードの確認 授業：これまでの授業の総括と発展学習の手引：授業全体の体系的整理と論証に向けて（課題解決型学習）【テキスト全学習頁】 復習：テキスト全学習頁の再読、【第 10 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 11 回】 予習：テキスト 134～150 頁の講読およびキーワードの確認 授業：人身の自由：奴隷的拘束からの自由・適正手続と刑罰 【テキスト 134～150 頁】 復習：テキスト 134～150 頁の再読、第 11 回授業ノートおよび配布プリントの整理			

<p>【第 12 回】 予習 : テキスト 161～168 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 社会権 : 福祉国家思想と社会権 【テキスト 161～168 頁】 復習 : テキスト 161～168 頁の再読、第 12 回授業ノートおよび配布プリントの整理</p> <p>【第 13 回】 予習 : テキスト 162～168 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 社会権 : 生存権 【テキスト 162～168 頁】 復習 : テキスト 162～168 頁の再読、第 13 回授業ノートおよび配布プリントの整理</p> <p>【第 14 回】 予習 : テキスト 168～172 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 社会権 : 教育を受ける権利 【テキスト 168～172 頁】 復習 : 頁の再読、第 14 回授業ノートおよび配布プリントの整理</p> <p>【第 15 回】 予習 : テキスト目次 1～11 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 「日本国憲法 I」発展学習の手引き : 授業全体の体系的整理と論証に向けて (課題解決型学習) 【テキスト全学習頁】 復習 : テキスト全学習頁の再読、第 15 回授業ノートおよび配布プリントの整理</p>

授業開始前学習	テレビや新聞の社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。							
授業内課題のフィードバックの方法	適宜次回の授業冒頭において課題レポートに対する講評と質問への回答を述べます。また第 10 回および 15 回目において、レポート課題全般に関する講評と個々の問題解決に向けた助言等を行います。							
テキスト・教材	古野豊秋・畑尻剛編『新・スタンダード憲法 (第 4 版補訂版)』(尚学社、2016 年) 『ポケット六法 (令和 5 年版)』(有斐閣、2022 年)							
参考書	授業を通じて適宜紹介します。							
評価の基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・15 回のレポートの総合点で 100%評価します (10 点×15 回 = 150 点を 100 点満点に換算)。 ・単位取得のためには、すべての授業回数のうち出席を前提とした 10 回以上の提出が必要です。 							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性を身につける	自己実現のためのコミュニケーション力と社会性を身につける	社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力を身につける	文化の創造的担い手となるための技術力と実践力を身につける				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△		◎				
関連科目	「法学」および「法と社会」を基礎として、授業が組み立てられています。よりよく授業理解を深めるためにも、同授業の履修を勧めます。							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	日本国憲法Ⅱ		
科目分類	100-121-11	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese Constitution Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	福王 守	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	福王 守	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-614
授業概要	現在の日本国憲法は、戦前に対する深い反省の下で制定されました。一人ひとりの国民を人格の担い手として尊重するために、憲法は国家の政治のあり方を定めています。この授業では、こうした国家統治の仕組みを中心に学びます。さらに、現在憲法をめぐる議論されている問題点についても触れていきます。結論を急がずに、私たちの社会における基本法のあり方を考えていきましょう。		
到達目標	日本国における基本法である「日本国憲法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力を身につけることを目標とします。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
※ 毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。			
【第1回】 予習：本科目シラバスおよびテキスト目次 1～11 頁の講読 授業：「日本国憲法」とは：この授業の目的・内容・学習方法【テキスト 目次 1～11 頁】 復習：テキスト目次 1～11 頁の再読、【第1回】授業ノートおよび配布プリントの整理 【第2回】 予習：テキスト 3 頁の講読およびキーワードの確認 授業：市民社会と法：法の役割と憲法の意義【テキスト 3 頁】 復習：テキスト 3 頁の再読、【第2回】授業ノートおよび配布プリントの整理 【第3回】 予習：テキスト 13～16 頁の講読およびキーワードの確認 授業：日本国憲法の背景：立憲主義と個人の尊厳【テキスト 13～16 頁】 復習：テキスト 13～16 頁の再読、【第3回】授業ノートおよび配布プリントの整理 【第4回】 予習：テキスト 17～26 頁の講読およびキーワードの確認 授業：日本国憲法の背景：戦後憲法制定の背景【テキスト 17～26 頁】 復習：テキスト 17～26 頁の再読、【第4回】授業ノートおよび配布プリントの整理 【第5回】 予習：テキスト 27～29 頁の講読およびキーワードの確認 授業：日本国憲法の目的と趣旨：憲法前文の意味【テキスト 27～29 頁】 復習：テキスト 27～29 頁の再読、【第5回】授業ノートおよび配布プリントの整理 【第6回】 予習：テキスト 9～10、27～29 頁の講読およびキーワードの確認 授業：国民主権について：立憲民主主義と権力分立との関わりから【テキスト 9～10、27～29 頁】 復習：テキスト 9～10、27～29 頁の再読、【第6回】授業ノートおよび配布プリントの整理 【第7回】 予習：テキスト 187～193 頁の講読およびキーワードの確認 授業：国会：立法機関としての地位と役割【テキスト 187～193 頁】 復習：テキスト 187～193 頁の再読、【第7回】授業ノートおよび配布プリントの整理 【第8回】 予習：テキスト 193～207 頁の講読およびキーワードの確認 授業：国会：国会と議院の権能【テキスト 193～207 頁】 復習：テキスト 193～207 頁の再読、【第8回】授業ノートおよび配布プリントの整理 【第9回】 予習：テキスト 208～214 頁の講読およびキーワードの確認 授業：内閣：行政機関としての地位と役割【テキスト 208～214 頁】 復習：テキスト 208～214 頁の再読、【第9回】授業ノートおよび配布プリントの整理 【第10回】 予習：第2回～9回までのテキスト全学習頁の講読およびキーワードの確認 授業：これまでの授業の総括と発展学習の手引：授業全体の体系的整理と論証に向けて（課題解決型学習）【テキスト全学習頁】 復習：テキスト全学習頁の再読、【第10回】授業ノートおよび配布プリントの整理 【第11回】 予習：テキスト 218～227 頁の講読およびキーワードの確認 授業：裁判所：司法機関としての地位と役割【テキスト 218～227 頁】 復習：テキスト 218～227 頁の再読、【第11回】授業ノートおよび配布プリントの整理			

【第 12 回】
 予習 : テキスト 227～234 頁の講読およびキーワードの確認
 授業 : 裁判所 : 司法権の独立と民主的統制 【テキスト 227～234 頁】
 復習 : テキスト 227～234 頁の再読、【第 12 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
 【第 13 回】
 予習 : テキスト 234 頁の講読およびキーワードの確認
 授業 : 裁判所 : 裁判員制度 【テキスト 234 頁】
 復習 : テキスト 234 頁の再読、【第 13 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
 【第 14 回】
 予習 : テキスト 235～248 頁の講読およびキーワードの確認
 授業 : 違憲審査制 : 憲法の保障と付随的違憲審査制【テキスト 235～248 頁】
 復習 : テキスト 235～248 頁の再読、【第 14 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
 【第 15 回】
 予習 : テキスト目次 1～11 頁の講読およびキーワードの確認
 授業 : 「日本国憲法Ⅱ」発展学習の手引き : 授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】
 復習 : テキスト全学習頁の再読、【第 15 回】授業ノートおよび配布プリントの整理

授業開始前学習	テレビや新聞の社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。							
授業内課題のフィードバックの方法	適宜次回の授業冒頭において課題レポートに対する講評と質問への回答を述べます。また第 10 回および 15 回目において、レポート課題全般に関する講評と個々の問題解決に向けた助言等を行います。							
テキスト・教材	古野豊秋・畑尻剛編『新・スタンダード憲法（第 4 版補訂版）』（尚学社、2016 年） 『ポケット六法（令和 5 年版）』（有斐閣、2022 年）							
参考書	授業を通じて適宜紹介します。							
評価の基準と方法	・15 回のレポートの総合点で 100%評価します（10 点×15 回 = 150 点を 100 点満点に換算）。 ・単位取得の前提として、すべての授業回数のうち 10 回以上の提出が必要です。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性を身につける		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性を身につける		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力を身につける		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力を身につける	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△		◎				
関連科目	「法学」および「法と社会」を基礎として授業が組み立てられています。よりよく授業理解を深めるためにも、同授業の履修を勧めます。							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	スポーツ I		
科目分類	100-131-21	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Physical Education I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	丸山 麻子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	丸山 麻子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	生涯にわたり健康的な生活を送る上で、自分自身の身体に関する知識・関心を持つことは重要である。そして、心身の健康を維持・増進するためには、運動を取り入れることが望ましい。しかし、誤った方法での運動は効果がないばかりか、心身を害することもあるため、正しい運動の実施方法を理解し、修得することが必要である。 本授業では様々な種類のスポーツを行うことにより、生涯を通して続けられるようなスポーツ・運動を見つけ、上達する方法について探究する。		
到達目標	本授業では様々なスポーツについて調べたうえで体験し、健やかな心身を形成するための運動に関する知識を得るとともに、様々な人と関わりながら互いに協力し合う力を身につけることを目的とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：体育実技にふさわしい服装の準備 授業：オリエンテーション、スポーツを行う上での注意点 復習：伝達事項ポイントの復習</p> <p>【第 2 回】 予習：ニュースポーツ（ピロポロなど）のルールを調べる 授業：ニュースポーツ（ピロポロなど） 復習：伝達事項ポイントの復習</p> <p>【第 3 回】 予習：ドッジボールのルールを調べる 授業：ドッジボール（球技系スポーツ1）（実習） 復習：プレー・ポイントの復習</p> <p>【第 4 回】 予習：卓球（シングルス）のルールを調べる 授業：卓球（シングルス）（ラケット系スポーツ1）（実習） 復習：プレー・ポイントの復習</p> <p>【第 5 回】 予習：卓球（ダブルス）のルールを調べる 授業：卓球（ダブルス）（ラケット系スポーツ2）（実習） 復習：プレー・ポイントの復習</p> <p>【第 6 回】 予習：卓球（団体戦）のルールを調べる 授業：卓球（団体戦）（ラケット系スポーツ3）（実習） 復習：プレー・ポイントの復習</p> <p>【第 7 回】 予習：バドミントン（シングルス）のルールを調べる 授業：バドミントン（シングルス）（ラケット系スポーツ4）（実習） 復習：プレー・ポイントの復習</p> <p>【第 8 回】 予習：バドミントン（ダブルス）のルールを調べる 授業：バドミントン（ダブルス）（ラケット系スポーツ5）（実習） 復習：プレー・ポイントの復習</p> <p>【第 9 回】 予習：テニスボールのルールを調べる 授業：テニスボール（球技系スポーツ2）（実習） 復習：プレー・ポイントの復習</p> <p>【第 10 回】 予習：バスケットボールのルールを調べる 授業：バスケットボール（球技系スポーツ3）（実習） 復習：プレー・ポイントの復習</p> <p>【第 11 回】 予習：戦略を考える 授業：バスケットボール（球技系スポーツ4）（実習） 復習：プレー・ポイントの復習</p> <p>【第 12 回】 予習：レクリエーションスポーツ（バドボン等）のルールを調べる 授業：レクリエーションスポーツ（バドボン等）（実習） 復習：プレー・ポイントの復習</p>			

<p>【第13回】 予習：ソフトバレーボールのルールを調べる 授業：ソフトバレーボール（球技系スポーツ5）（実習） 復習：プレー・ポイントの復習</p> <p>【第14回】 予習：シッティングバレーボールのルールを調べる 授業：シッティングバレーボール（球技系スポーツ5）（実習） 復習：プレー・ポイントの復習</p> <p>【第15回】 予習：ルールを調べる 授業：バレーボール（球技系スポーツ7）（実習） 復習：プレー・ポイントの復習</p>								
授業開始前学習	日ごろから体を動かす習慣を作り、自らの体をよく知ること。また、受講前に行うスポーツを見るなどして事前にルール等の知識を得てから受講すること。							
授業内課題のフィードバックの方法	毎授業において回収するレポートに対しては、理解度の確認および適宜個別にコメントし、授業内にて全体の講評等を行う。							
テキスト・教材	なし							
参考書								
評価の基準と方法	レポート課題（60%）、学習意欲（20%）、授業参加態度（20%）を総合して評価を行う。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性を身につける		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性を身につける		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力を身につける		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力を身につける	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	○	○				
関連科目	なし							
その他	受講の際には、ジャージ等運動着、靴下、運動靴（外履き不可）にて臨むこと。運動を行うために適していないと判断される服装の場合には、受講を認めない。また、筆記用具および水分補給のための飲み物を持参すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	スポーツ I		
科目分類	100-131-21 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Physical Education I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	塩嶋 理恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	塩嶋 理恵	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	健康・体力づくりは、国民全体の大きな課題となっている。この科目の目標は、スポーツその他の身体運動を通して継続できるスポーツを選択しながら、健康志向への動機付けを図り、それらの実践に関する知識や技術を得ると共に、その方法を自分自身に当てはめ、応用展開する能力を体験して養ってもらうことである。 スポーツ I の実技種目は、インドア（体育館）で体操・バドミントン・バレーボールなどを行う。		
到達目標	各種スポーツにおけるルールの理解・個々のスキルアップを目指す。 またチームプレイを通して協調性を養う。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：体育実技にふさわしい服装の準備 授業：ガイダンス（授業説明・注意事項） 復習：高等学校で使用した体育館専用シューズの確認</p> <p>【第 2 回】 予習：体育実技にふさわしい服装と体育館専用シューズの準備 授業：ゆがみ修正体操（実習） 復習：ゆがみ修正体操 復習</p> <p>【第 3 回】 予習：服装とシューズの準備 授業：バドミントン（基本練習・サーブ）（実習） 復習：バドミンソンのサーブの復習</p> <p>【第 4 回】 予習：バドミンソンのルール確認。服装とシューズの準備 授業：バドミントン（ゲーム・ルール説明）（実習） 復習：バドミンソンのルールの復習</p> <p>【第 5 回】 予習：バドミンソンのゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業：バドミントン（ゲーム・マナー）（実習） 復習：バドミンソンのゲームとマナーの復習</p> <p>【第 6 回】 予習：バドミンソンのゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業：バドミントン（ゲーム・フォーメーション）（実習） 復習：バドミンソンのゲームとフォーメーションの復習</p> <p>【第 7 回】 予習：バドミンソンのシングルスゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業：バドミントン（ゲーム・フォーメーション）（実習） 復習：バドミンソンのゲームとフォーメーションの復習</p> <p>【第 8 回】 予習：バドミンソンのダブルスゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業：バドミントン（ゲーム・フォーメーション）（実習） 復習：バドミンソンのゲームとフォーメーションの復習</p> <p>【第 9 回】 予習：バレーボールのオーバー・アンダーハンドパスの予習 授業：バレーボール（基本練習、オーバー・アンダーハンドパス）（実習） 復習：バレーボールのオーバー・アンダーハンドパスの復習</p> <p>【第 10 回】 予習：バレーボールのアンダーサーブ・オーバーサーブの予習 授業：バレーボール（基本練習・サーブ）（実習） 復習：バレーボールのアンダー・オーバーサーブの復習</p> <p>【第 11 回】 予習：バレーボールのサーブとレシーブの予習 授業：バレーボール（基本練習・サーブとレシーブ）（実習） 復習：バレーボールのサーブとレシーブの復習</p> <p>【第 12 回】 予習：バレーボールのゲーム・ルールの予習 授業：バレーボール（ゲーム・ルール説明）（実習） 復習：バレーボールのゲーム・ルールの復習</p>			

<p>【第13回】 予習：バレーボールのルールとマナーの予習 授業：バレーボール（ゲーム・ルールとマナー説明）（実習） 復習：バレーボールのルールとマナーの復習</p> <p>【第14回】 予習：バレーボールのルールとマナーの予習 授業：バレーボール（ゲーム・ルールとマナー説明）（実習） 復習：バレーボールのルールとマナーの復習</p> <p>【第15回】 予習：バスケットボールのドリブルの予習 授業：バスケットボール（基本練習・ドリブル）（実習） 復習：バスケットボールのドリブルの復習</p>								
授業開始前学習	体育実技にふさわしい服装の準備と高等学校で使用した体育館専用シューズの確認							
授業内課題のフィードバックの方法	授業8回目、14回目に各種目ごとのゲーム結果を発表し、個人、チーム全体の講評を行う。個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	特にありません							
参考書								
評価の基準と方法	実技態度 70%、技術・試合評価 30%							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性を身につける		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性を身につける		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力を身につける		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力を身につける	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	○	○				
関連科目	スポーツⅡ、スポーツⅢ							
その他	人数調整等により卓球などの他のスポーツを並行して実施することもある。体操では各自バスタオルを準備すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	競技チアリーディング上級指導資格・審査員資格をもち、幼児から大学生までを指導してきた経験を活かし、体のストレッチングや柔軟性を高めるよう授業に取り入れて行う。							

科目名称	スポーツⅡ		
科目分類	100-131-21	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Physical Education II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三辻 浩子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三辻 浩子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	自分の身体とは一生つきあって行かねばならない。そして健康を維持する事が幸せにつながる。更になりたい自分の身体づくりをすることは楽しさにもつながる。脂肪燃焼の仕方、筋肉の適正な付け方、きれいな姿勢など身体を意識していく。この授業ではエアロビクス（有酸素運動）に楽しい音楽を用いて心肺機能向上、脂肪燃焼を目指す。またフレックスクッション、バランスボール、ダンベルも用いて楽しみながら Body Making の方法を学ぶ。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全身持久力・筋持久力の向上・脂肪燃焼促進の方法を学ぶ。 ・基本的な STEP を習得し楽しく動く事を学ぶ。 ・正しい姿勢を習得することを学ぶ。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 授業：エアロビクスとは 実技1（フレックスクッション導入）（実習） 予習：エアロビクスについて調べておく 復習：本日のSTEPを合致させておく</p> <p>【第2回】 授業：ウォームアップについて 実技2（実習） 予習：ウォームアップについて調べておく 復習：本日のSTEPを覚える</p> <p>【第3回】 授業：メインエクササイズについて 実技3（実習） 予習：本日のSTEPを合致させておく 復習：本日のSTEPを覚える</p> <p>【第4回】 授業：筋肉強化エクササイズについて 実技4（ダンベル導入）（実習） 予習：本日のSTEPを合致させておく 復習：本日のSTEPを覚える</p> <p>【第5回】 授業：クールダウンについて 実技5（バランスボール導入）（実習） 予習：本日のSTEPを合致させておく 復習：本日のSTEPを覚える</p> <p>【第6回】 授業：創作の仕方（1）STEPのコンビネーション 実技6（実習） 予習：本日のSTEPを合致させておく 復習：32カウントの創作（足の動きを考えておく）</p> <p>【第7回】 授業：創作の仕方（2）アームス導入 実技7（実習） 予習：発表者のみ自分の作品を考えてくる 復習：32カウントアームスを導入し創作</p> <p>【第8回】 授業：創作の仕方（3）フォーメーション・方向の導入 実技8（実習） 予習：発表者のみ自分の作品を考えてくる 復習：32カウント方向を導入し創作</p> <p>【第9回】 授業：創作の仕方（4）キューイングの導入 実技9（実習） 予習：発表者のみ自分の作品を練習してくる 復習：32カウントの創作をしキューイング練習</p>			

<p>【第10回】 授業：グループ創作（1）＝グループ分け 実技10（実習） ＊グループ創作を行わない場合はレッスンを続ける 予習：発表者のみ自分の作品を練習してくる 復習：本日の創作作成内容を覚える</p> <p>【第11回】 授業：グループ創作（2） 実技11（実習） ＊グループ創作を行わない場合はレッスンを続ける 予習：作成した内容を覚えてくる 復習：本日の創作内容を覚える</p> <p>【第12回】 授業：グループ創作（3） 実技12（実習） ＊グループ創作を行わない場合はレッスンを続ける 予習：作成した内容を覚えてくる 復習：本日の創作内容を覚える</p> <p>【第13回】 授業：グループ創作（4） 実技13（実習） ＊グループ創作を行わない場合はレッスンを続ける 予習：作成した内容を覚えてくる 復習：本日の創作内容を覚える</p> <p>【第14回】 授業：グループ創作（5） 実技14（実習） ＊グループ創作を行わない場合はレッスンを続ける 予習：作成した内容を覚えてくる 復習：作品を練習してくる</p> <p>【第15回】 授業：創作発表会（ビデオ撮影）・まとめ（撮影したビデオを教室で見る） ＊創作発表を行わない場合はレッスンを続ける 予習：作品を練習してくる</p>

授業開始前学習	『エアロピクス』が生まれた背景を調べておく。ケネス・H・クーバー、ジャッキー・ソーレンセン、ジェーン・フォンダの3人物を調べておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	少しずつ学び覚えた Step を組み合わせ創作を行う。その Step Sheet（用紙あり）を提出する。それに対してコメント（フィードバック）を行う。							
テキスト・教材	プリント配布							
参考書								
評価の基準と方法	実技＋授業態度（片付け・協力度）・・・(70%) グループワーク（創作活動）＋提出物（グループで1セット）・・・(30%)							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性を身につける		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性を身につける		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力を身につける		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力を身につける	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	○	○				
関連科目								
その他	シューズ・ソックス・ウエアー（動ける用意）・筆記用具・タオル・飲料（水分補給）を持参のこと							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	スポーツⅡ		
科目分類	100-131-21 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Physical Education II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	塩嶋 理恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	塩嶋 理恵	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	健康・体力づくりは、国民全体の大きな課題となっている。この科目の目標は、スポーツその他の身体運動を通して継続できるスポーツを選択しながら、健康志向への動機付けを図り、それらの実践に関する知識や技術を得ると共に、その方法を自分自身に当てはめ、応用展開する能力を体験して養ってもらうことである。 スポーツⅡの実技種目は、インドア（体育館）でソフトバレーボール・卓球・軽スポーツなどを行う。		
到達目標	各種スポーツにおけるルールの理解・個々のスキルアップを目指す。 またチームプレイを通して協調性を養う。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：体育実技にふさわしい服装の準備 授業：ガイダンス（授業説明・注意事項） 復習：高等学校で使用した体育館専用シューズの確認</p> <p>【第2回】 予習：体育実技にふさわしい服装と体育館専用シューズの準備 授業：リラックスヨガ（実習） 復習：リラックスヨガ 復習</p> <p>【第3回】 予習：服装とシューズの準備 授業：ソフトバレーボール（基本練習・サーブ）（実習） 復習：ソフトバレーボールサーブの復習</p> <p>【第4回】 予習：ソフトバレーボールのルール確認。服装とシューズの準備 授業：ソフトバレーボール（ゲーム・ルール説明）（実習） 復習：ソフトバレーボールのルールの復習</p> <p>【第5回】 予習：ソフトバレーボールのゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業：ソフトバレーボール（ゲーム・マナー）（実習） 復習：ソフトバレーボールのゲームとマナーの復習</p> <p>【第6回】 予習：ソフトバレーボールのゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業：ソフトバレーボール（ゲーム・フォーメーション）（実習） 復習：ソフトバレーボールのゲームとフォーメーションの復習</p> <p>【第7回】 予習：ソフトバレーボールゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業：ソフトバレーボール（ゲーム・フォーメーション）（実習） 復習：ソフトバレーボールのフォーメーションの復習</p> <p>【第8回】 予習：ソフトバレーボールゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業：ソフトバレーボール（ゲーム・フォーメーション）（実習） 復習：ソフトバレーボールのゲームとフォーメーションの復習</p> <p>【第9回】 予習：卓球のフォア・バックの予習 授業：卓球（基本練習、フォア・バック）（実習） 復習：卓球のフォア・バックの復習</p> <p>【第10回】 予習：卓球のサーブの予習 授業：卓球（基本練習・サーブ）（実習） 復習：卓球のサーブの復習</p> <p>【第11回】 予習：卓球のサーブとレシーブの予習 授業：卓球（基本練習・サーブとレシーブ）（実習） 復習：卓球のサーブとレシーブの復習</p> <p>【第12回】 予習：卓球のゲーム・ルールの予習 授業：卓球（ゲーム・ルール説明）（実習） 復習：卓球のゲーム・ルールの復習</p>			

<p>【第13回】 予習：卓球のルールとマナーの予習 授業：卓球（ゲーム・ルールとマナー説明）（実習） 復習：卓球のルールとマナーの復習</p> <p>【第14回】 予習：卓球のルールとマナーの予習 授業：卓球（ゲーム・ルールとマナー説明）（実習） 復習：卓球のルールとマナーの復習</p> <p>【第15回】 予習：卓球のゲームとルールの予習 授業：卓球（ゲーム・ルールの説明）（実習） 復習：卓球のゲームとルールの復習</p>								
授業開始前学習	体育実技にふさわしい服装の準備と高等学校で使用した体育館専用シューズの確認							
授業内課題の フィードバックの方法	授業8回目、14回目に各種目ごとのゲーム結果を発表し、個人、チーム全体の講評を行う。 個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	特にありません							
参考書								
評価の基準と方法	実技態度 70%、技術・試合評価 30%							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性を身につける		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性を身につける		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力を身につける		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力を身につける	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	○	○				
関連科目	スポーツⅡ、スポーツⅢ							
その他	人数に応じて、バドミントンや軽スポーツなどの他のスポーツを並行して実施することもあります。 リラックスヨガでは各自バスタオルを準備すること。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	競技チアリーディング上級指導資格・審査員資格をもち、幼児から大学生までを指導してきた経験を活かし、体のストレッチングや柔軟性を高めるよう授業に取り入れて行う。							

科目名称	英会話 I		
科目分類	100-131-21	単位数	履修ガイド参照
英文名称	English Conversation I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	K.バーンズ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	K.バーンズ	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	The emphasis of this class will be on speaking. However, listening, reading and writing will also be developed. This class though, focuses on improving the productive skills of speaking. In principle, lessons are conducted in English. If we are online we will still do speaking using software.		
到達目標	After this class, students will be able to communicate more freely in English. They will be able to have a basic conversation in English.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習 : Read pp. 9-12 in the textbook/ Listen to CD, tracks 3-7 授業 : Self-Introductions/Course goals 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第2回】 予習 : Read pp. 13-16/ Listen to tracks 10-14 授業 : Talking about entertainment ? movies and music 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第3回】 予習 : Read pp. 17-20/ Listen to tracks 17-21 授業 : Talking about art and impressions 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第4回】 予習 : Read pp. 21-24 /Listen to tracks 24-28 授業 : Talking about family members 復習 : Review notes/ Do homework p. 84</p> <p>【第5回】 予習 : Prepare a short talk about your family 授業 : Talking about family customs and traditions 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第6回】 予習 : Prepare any questions you have about class material 授業 : Consolidation and review 復習 : Reread textbook pp.9-24</p> <p>【第7回】 予習 : Prepare several topics you want to talk about 授業 : Conversation advice and coaching 復習 : Write self-evaluation for your conversation practice</p> <p>【第8回】 予習 : Review all homework assignments 授業 : General review 復習 : Reread textbook pp.9-24</p> <p>【第9回】 予習 : Read pp. 25-28/ Listen to tracks 31-35 授業 : Talking about beliefs and fears 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第10回】 予習 : Read pp. 29-32/ Listen to tracks 38-43 授業 : Talking about experiences 復習 : Review notes/ Do homework</p>			

【第 11 回】

予習 : Read pp. 33-36/ Listen to tracks 46-48

授業 : Telling stories

復習 : Review notes/ Do homework

【第 12 回】

予習 : Prepare some sentences about your plans for summer vacation

授業 : Talking about future plans

復習 : Review notes/ Do homework

【第 13 回】

予習 : Prepare any questions you have about class material

授業 : Consolidation and review

復習 : Reread textbook pp.25-36

【第 14 回】

予習 : Prepare several topics you want to talk about

授業 : Conversation advice and coaching

復習 : Write self-evaluation for your conversation practice

【第 15 回】

予習 : Review all homework assignments

授業 : General review

復習 : Reread textbook pp.9-36

授業開始前学習	Before the class starts students can prepare by listening to English recordings and reading English books, magazines or comics. Look up words in the dictionary.							
授業内課題の フィードバックの方法	Once class starts, homework assignments will be provided after each class to help students review and better understand the material.							
テキスト・教材	Impact Conversation 1 Kirsten Sullivan, Todd Beuckens (Pearson Longman)							
参考書								
評価の基準と方法	Students are evaluated on a total of class participation points of 40% (mini tests, submitted coursework, presentations, class participation etc.) and regular examinations 60%							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性を身につける	自己実現のためのコミュニケーション力と社会性を身につける	社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力を身につける	文化の創造的担い手となるための技術力と実践力を身につける				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○
関連科目	English Conversation							
その他	It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival after 30 minutes or more after the start of class will be counted as an absence. Further explanation will be provided in the first class.							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	英会話 I		
科目分類	100-131-21	単位数	履修ガイド参照
英文名称	English Conversation I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	D.パートレイ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	D.パートレイ	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	This course aims at enjoyment & interest. When you are interested in something, you will enjoy doing it, so this class is based on enjoyment & interest. The key to success in anything you do depends on how interesting it is & how much you enjoy doing it. Through interest & enjoyment, you will improve your ability to speak English.		
到達目標	The goal of this class is a purely practical one: to get you to speak English better. To do this, we must find out what you are interested in because when you are interested in something, you will want to talk about it. So our lessons are designed to be informal meetings at which you will talk about the things that interest you. Your success will depend on the amount of interest you have in what you are talking about, so this course relies on your interest & enjoyment.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>第1回： 予習：Getting settled in 授業：Course Introduction: I will explain the policies (attendance, participation & assignments) & protocols (contact, feedback & evaluation) of this course. 復習：generally assess the English you have studied from high school until now.</p> <p>第2回： 予習：Checking class materials (paper, dictionary, writing implements). 授業：Preparation: What things interest you? 復習：Take stock of the English you have studied up until now.</p> <p>第3回： 予習：Review all class notes from the previous lesson, Q&A 授業：Practice: talking about what interests you with your classmates & I will explain how to prepare your class notes so that you can express your thoughts more easily. 復習：Review today's explanation about preparing your class notes, Q&A.</p> <p>第4回： 予習：Study your class notes in preparation for our discussion of the 1st topic. 授業：Begin our first group discussion on the 1st topic. 復習：Review & revise your class in preparation for our next discussion.</p> <p>第5回： 予習：Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson, Q&A 授業：Continue the discussion of the 1st topic. 復習：Review & revise your class in preparation for our next discussion.</p> <p>第6回： 予習：Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson 授業：Conclude our discussion of the 1st topic by presenting your final points or arguments to the group. 復習：Review & revise your class note in order to write your post-discussion report which will be due in 2-week's time.</p> <p>第7回： 予習：Prepare to announce & decide the 2nd topic of discussion. 授業：Decide the 2nd topic & have a free discussion on the second most popular topic decided by your group. 復習：Prepare your class notes by gathering information about the topic so that you will have something interesting to say in your group during the discussion.</p> <p>第8回： 予習：Review the class notes you prepared for today's discussion. 授業：Begin your group's discussion on the 2nd topic. 復習：Review & revise your class in preparation for our next discussion.</p> <p>第9回： 予習：Review class notes by going over the important points we discussed in the last discussion, Q&A 授業：Continue the discussion of the 2nd topic. 復習：Review & revise your class in preparation for our next discussion.</p> <p>第10回： 予習：Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson, Q&A. 授業：Conclude our discussion of the 2nd topic by presenting your final points or arguments to the group. 復習：Review & revise your class note in order to write your post-discussion report which will be due in 2-week's time.</p> <p>第11回： 予習：Prepare to announce & decide the 3rd topic of discussion. 授業：Decide the 3rd topic & have a free discussion on the second most popular topic decided by your group.</p>			

<p>復習 : Prepare your class notes by gathering information about the topic so that you will have something interesting to say in your group during the discussion.</p> <p>第 1 2 回 :</p> <p>予習 : Review the class notes you prepared for today's discussion.</p> <p>授業 : Begin your group's discussion on the 3rd topic.</p> <p>復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.</p> <p>第 1 3 回 :</p> <p>予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last discussion, Q&A</p> <p>授業 : Continue the discussion of the 2nd topic.</p> <p>復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.</p> <p>第 1 4 回 :</p> <p>予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson, Q&A.</p> <p>授業 : Conclude our discussion of the 3rd topic by presenting your final points or arguments to the group.</p> <p>復習 : Review & revise your class note in order to write your post-discussion report which will be due in 2-week's time.</p> <p>第 1 5 回 :</p> <p>予習 : Prepare to submit all post-discussion rewrites (optional activity).</p> <p>授業 : We will have a general assessment of our progress this semester.</p> <p>復習 : Students will complete their final reports & submit them to me by email.</p>								
授業開始前学習	Students are encouraged to encounter English in their daily lives whenever & wherever possible whether it be watching TV, listening to music, or reading English newspapers.							
授業内課題のフィードバックの方法	Feedback is an essential part of the course & is embedded in every lesson. A thorough review of the previous lesson is assessed in the daily lesson activities which provide ample opportunities for both the student & the teacher to appraise her level of progress. In addition, I will always give generous feedback on every post-discussion report & encourage the student to rewrite them if they wish to improve their marks.							
テキスト・教材	No textbook is assigned for this course. All necessary & relevant materials will be provided by the teacher. However, every student is required to bring paper, a dictionary, & writing implements to every lesson.							
参考書	notebook, dictionary, pen & pencil							
評価の基準と方法	continuous assessment based on attendance, participation & post-discussion reports.							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性を身につける		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性を身につける		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力を身につける		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力を身につける	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	英会話Ⅱ		
科目分類	100-131-21	単位数	履修ガイド参照
英文名称	English Conversation II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	K.バーンズ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	K.バーンズ	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	The emphasis of this class will be on speaking. However, listening, reading and writing will also be developed. This class though, focuses on improving the productive skills of speaking. In principle, lessons are conducted in English. If we are online we will still do speaking using software.		
到達目標	After this class, students will be able to communicate more freely in English. They will be able to have a basic conversation in English.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習 : Read pp. 37-40 in the textbook/ Listen to CD, tracks 51-55 授業 : Self-Introductions/Course goals 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第2回】 予習 : Read pp. 45-48/ Listen to tracks 58-59 授業 : Talking about health and habits 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第3回】 予習 : Read pp. 49-52/ Listen to track 62 授業 : Talking about friends and relationships 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第4回】 予習 : Read pp. 53-56/ Listen to tracks 65-69 授業 : Talking about family members 復習 : Review notes/ Do homework p. 84</p> <p>【第5回】 予習 : Prepare a short talk about a travel experience 授業 : Talking about travel and studying abroad 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第6回】 予習 : Prepare any questions you have about class material 授業 : Consolidation and review 復習 : Reread textbook pp.37-40,45-56</p> <p>【第7回】 予習 : Prepare several topics you want to talk about 授業 : Conversation advice and coaching 復習 : Write self-evaluation for your conversation practice</p> <p>【第8回】 予習 : Review all homework assignments 授業 : General review 復習 : Reread textbook pp.37-40,45-56</p> <p>【第9回】 予習 : Read pp. 57-60/ Listen to tracks 72-73 授業 : Talking about behavior and qualities in people 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第10回】 予習 : Read pp. 61-64/ Listen to tracks 76-77 授業 : Talking about cultural stereotypes 復習 : Review notes/ Do homework</p>			

【第 11 回】

予習 : Read pp. 65-68/ Listen to tracks 80-84

授業 : Talking about cooking and food

復習 : Review notes/ Do homework

【第 12 回】

予習 : Prepare some sentences about something interesting you have done recently

授業 : Talking about past experiences

復習 : Review notes/ Do homework

【第 13 回】

予習 : Prepare any questions you have about class material

授業 : Consolidation and review

復習 : Reread textbook pp.57-68

【第 14 回】

予習 : Prepare several topics you want to talk about

授業 : Conversation advice and coaching

復習 : Write self-evaluation for your conversation practice

【第 15 回】

予習 : Review all homework assignments

授業 : General review

復習 : Reread textbook pp. 37-40,45-68

授業開始前学習	Before the class starts students can prepare by listening to English recordings and reading English books, magazines or comics. Look up words in the dictionary.							
授業内課題の フィードバックの方法	Once class starts, homework assignments will be provided after each class to help students review and better understand the material.							
テキスト・教材	Impact Conversation 1 Kirsten Sullivan, Todd Beuckens (Pearson Longman)							
参考書								
評価の基準と方法	Students are evaluated on a total of class participation points of 40% (mini tests, submitted coursework, presentations, class participation etc.) and regular examinations 60%							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性を身につける		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性を身につける		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力を身につける		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力を身につける	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○
関連科目	English Conversation							
その他	It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival after 30 minutes or more after the start of class will be counted as an absence. Further explanation will be provided in the first class.							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	英会話Ⅱ		
科目分類	100-131-21	単位数	履修ガイド参照
英文名称	English Conversation II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	D.パートレイ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	D.パートレイ	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	This course builds upon the foundation of the previous course & also aims at enjoyment & interest. When you are interested in something, you will enjoy doing it, so this class is based on enjoyment & interest. The key to success in anything you do depends on how interesting it is & how much you enjoy doing it. Through interest & enjoyment, you will improve your ability to speak English.		
到達目標	As in the previous course, this course, the goal of this class is a purely practical one: to get you to speak English better. To do this, we must find out what you are interested in because when you are interested in something, you will want to talk about it. So our lessons are designed to be informal meetings at which you will talk about the things that interest you. Your success will depend on the amount of interest you have in what you are talking about, so this course relies on your interest & enjoyment.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>第1回： 予習：Getting settled in 授業：Course Introduction: I will explain the policies (attendance, participation & assignments) & protocols (contact, feedback & evaluation) of this course. 復習：generally assess the English you have studied from high school until now.</p> <p>第2回： 予習：Checking class materials (paper, dictionary, writing implements). 授業：Preparation: What things interest you? 復習：Take stock of the English you have studied up until now.</p> <p>第3回： 予習：Review all class notes from the previous lesson, Q&A 授業：Practice: talking about what interests you with your classmates & I will explain how to prepare your class notes so that you can express your thoughts more easily. 復習：Review today's explanation about preparing your class notes, Q&A.</p> <p>第4回： 予習：Study your class notes in preparation for our discussion of the 1st topic. 授業：Begin our first group discussion on the 1st topic. 復習：Review & revise your class in preparation for our next discussion.</p> <p>第5回： 予習：Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson, Q&A 授業：Continue the discussion of the 1st topic. 復習：Review & revise your class in preparation for our next discussion.</p> <p>第6回： 予習：Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson 授業：Conclude our discussion of the 1st topic by presenting your final points or arguments to the group. 復習：Review & revise your class note in order to write your post-discussion report which will be due in 2-week's time.</p> <p>第7回： 予習：Prepare to announce & decide the 2nd topic of discussion. 授業：Decide the 2nd topic & have a free discussion on the second most popular topic decided by your group. 復習：Prepare your class notes by gathering information about the topic so that you will have something interesting to say in your group during the discussion.</p> <p>第8回： 予習：Review the class notes you prepared for today's discussion. 授業：Begin your group's discussion on the 2nd topic. 復習：Review & revise your class in preparation for our next discussion.</p> <p>第9回： 予習：Review class notes by going over the important points we discussed in the last discussion, Q&A 授業：Continue the discussion of the 2nd topic. 復習：Review & revise your class in preparation for our next discussion.</p> <p>第10回： 予習：Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson, Q&A. 授業：Conclude our discussion of the 2nd topic by presenting your final points or arguments to the group. 復習：Review & revise your class note in order to write your post-discussion report which will be due in 2-week's time.</p> <p>第11回： 予習：Prepare to announce & decide the 3rd topic of discussion.</p>			

<p>授業 : Decide the 3rd topic & have a free discussion on the second most popular topic decided by your group. 復習 : Prepare your class notes by gathering information about the topic so that you will have something interesting to say in your group during the discussion. 第 1 2 回 : 予習 : Review the class notes you prepared for today's discussion. 授業 : Begin your group's discussion on the 3rd topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion. 第 1 3 回 : 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last discussion, Q&A 授業 : Continue the discussion of the 2nd topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion. 第 1 4 回 : 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson, Q&A. 授業 : Conclude our discussion of the 3rd topic by presenting your final points or arguments to the group. 復習 : Review & revise your class note in order to write your post-discussion report which will be due in 2-week's time. 第 1 5 回 : 予習 : Prepare to submit all post-discussion rewrites (optional activity). 授業 : We will have a general assessment of our progress this semester. 復習 : Students will complete their final reports & submit them to me by email.</p>								
授業開始前学習	Students are encouraged to encounter English in their daily lives whenever & where-ever possible whether it be watching TV, listening to music or reading English newspapers.							
授業内課題のフィードバックの方法	Feedback is an essential part of the course & is embedded in every lesson. A thorough review of the previous lesson is assessed in the daily lesson activities which provide ample opportunities for both the student & the teacher to appraise her level of progress. In addition, I will always give generous feedback on every post-discussion report & encourage the student to rewrite them if they wish to improve their marks.							
テキスト・教材	No textbook is assigned for this course. All necessary & relevant materials will be provided by the teacher. However, every student is required to bring paper, a dictionary, & writing implements to every lesson.							
参考書	notebook, dictionary, pen & pencil							
評価の基準と方法	continuous assessment based on attendance, participation & module tests							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性を身につける		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性を身につける		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力を身につける		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力を身につける	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	コンピュータ演習 I		
科目分類	100-111-21	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Computer Laboratory I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	各担当教員	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	高橋・末木・スワット・明田川・篠・星野	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>ここ数年の情報を取り巻く環境とそれを取り扱う情報機器の変化が著しい。コンピュータ中心だった情報処理からスマートフォンやタブレット端末が主流の情報共有に変化し、情報そのものも複雑化してきた。コロナ禍における社会の変化はますます、テレワークや遠隔授業など私たちの生活を一変させるものでした。また、小中高においても情報活用能力の育成と ICT 活用が新学習指導要領のもと全面实施されました。こうした中、コンピュータ演習 I および II では、ICT（情報通信技術）を中心とした情報リテラシーを身につけるため、基礎理論の講義とその演習を中心に広範囲にわたって授業を行う。本演習では、オフィス系ソフトのワープロとプレゼンテーションを中心に、基礎ゼミや専門ゼミ、2 年次以降の授業で活かせるよう課題解決型学習に準じて演習を行う。</p>		
到達目標	<p>コンピュータとスマートフォン（タブレット）を連携し、適切な情報収集および情報処理ができるようになる。具体的には、オフィス系ソフトが使えるようになる。併せてメールやクラウドの概念を理解し、情報のやり取りができるようになる。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：履修ガイド・学生生活ガイドを読んでおくこと 授業：コンピュータの仕組みと起動/KOMAJO ポータルの使い方/Google クラウドの使い方/メールの使い方 復習：KOMAJO ポータルのログインやメールの送受信などおさらいして慣れておくこと</p> <p>【第 2 回】 予習：教科書 P10～P13 を読んでおくこと 授業：ワープロ演習：タイピング（課題 2-1-1） 復習：タイピングのホームポジションを振り返っておくこと</p> <p>【第 3 回】 予習：教科書 P14～P15 を読んでおくこと 授業：ワープロ演習：四字熟語・慣用句の入力（課題 2-1-2・課題 2-1-3） 復習：四字熟語・慣用句の意味を振り返っておくこと</p> <p>【第 4 回】 予習：教科書 P16～P17 を読んでおくこと 授業：ワープロ演習：文書作成とレイアウト（課題 2-1-4・課題 2-2-1・課題 2-2-5） 復習：さまざまな文章のレイアウトを確認すること</p> <p>【第 5 回】 予習：教科書 P18～P21 を読んでおくこと 授業：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理（時間割）（課題 2-3-1） 復習：作成した時間割から操作方法を振り返ること</p> <p>【第 6 回】 予習：教科書 P22～P23 を読んでおくこと 授業：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理（履歴書）（課題 2-3-2） 復習：作成した履歴書から操作方法を振り返ること</p> <p>【第 7 回】 予習：教科書 P24～P25 を読んでおくこと 授業：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理（レシピ）（課題 2-3-3） 復習：作成したレシピから操作方法を振り返ること</p> <p>【第 8 回】 予習：教科書 P26～P27 を読んでおくこと 授業：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理（レシピ）（課題 2-3-3） 復習：作成したレシピから画像の取り扱いを振り返ること</p> <p>【第 9 回】 予習：教科書 P28～P30 を読んでおくこと 授業：ワープロ演習：ビジネス文書の作成（見積書）（課題 2-3-4） 復習：さまざまな表組みと文章を組み合わせた文書を確認すること</p> <p>【第 10 回】 予習：教科書 P31～P32 を読んでおくこと 授業：ワープロ演習：図形描画（キャラクタ）（課題 2-4-1） 復習：図形描画の操作方法を振り返ること</p> <p>【第 11 回】 予習：教科書 P33～P35 を読んでおくこと 授業：ワープロ演習：図形描画（地図）（課題 2-4-2） 復習：さまざまな表組みと文章を組み合わせた文書を確認すること</p> <p>【第 12 回】</p>			

<p>予習：教科書 P36～P40 を読んでおくこと 授業：ワープロ演習：ビジネス文書の作成（クラス会）（課題 2 - 4 - 3） 復習：文字データと図形データが混在した書類等を確認すること 【第 13 回】 予習：教科書 P41～P42 を読んでおくこと 授業：プレゼン演習：シナリオメイキングと情報収集（旅行計画） 復習：シナリオ（ストーリー）を何度も振り返ること 【第 14 回】 予習：教科書 P43～P44 を読んでおくこと 授業：プレゼン演習：情報の構造化と構成（旅行計画） 復習：さまざまなプレゼン資料を確認すること 【第 15 回】 予習：教科書 P45～P46 を読んでおくこと 授業：プレゼン演習：プレゼンテーションと演出（旅行計画） 復習：全体の流れの振り返りをする</p>								
授業開始前学習	高校の教科「情報」の教科書を読んでおくこと全体像をつかみやすい。							
授業内課題の フィードバックの方法	全体には、次の回到復習として解説を行う。個別には、課題返却時にアドバイスを行う。							
テキスト・教材	『講義と演習 情報のこころえ』ポラーノ出版							
参考書								
評価の基準と方法	毎回出される課題 40%、課題の内容および出来ばえ 40%と授業に対する取り組み（授業態度） 20%で評価を決める。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性を身につける		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性を身につける		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力を身につける		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力を身につける	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	
関連科目	コンピュータ演習Ⅱ 情報と科学							
その他	GWE(Google Workspace for Education)を中心に、Microsoft オフィスもしくは、Google ドキュメント、スプレッドシート、スライドにて課題作成を行う。 課題の提出および資料の配布は、GWE を通して行う。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	コンピュータ演習Ⅱ		
科目分類	100-111-21	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Computer Laboratory Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	各担当教員	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	高橋・末木・スワット・明田川・篠・星野	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	コンピュータ演習Ⅰと同様に、総合的に ICT（情報通信技術）を活用する知識とリテラシーを身につけるため、基礎理論の講義とその演習を広範囲にわたって授業を行う。本演習では、オフィス系ソフトのエクセル（スプレッドシート）を中心に、特に、数値処理や統計処理など基礎ゼミや専門ゼミ、2 年次以降の授業で活かせるよう課題解決型学習に準じて実務的な演習を行う。		
到達目標	コンピュータとスマートフォン（タブレット）を連携し、適切な情報収集および情報処理ができるようになる。具体的には、オフィス系ソフトが使えるようになる。併せてメールやクラウドの概念を理解し、情報のやり取りができるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：教科書 P45～P46 を読んでおくこと 授業：表計算演習：作表（データ入力と罫線処理）（課題 3 - 1 - 1） 復習：時間割、カレンダーなど格子状のデータを確認すること</p> <p>【第2回】 予習：教科書 P47～P48 を読んでおくこと 授業：表計算演習：作表（複雑な罫線処理）（課題 3 - 1 - 2） 復習：フロアマップや料金表など複雑な表形式のデータを確認すること</p> <p>【第3回】 予習：教科書 P49～P50、P53～54 を読んでおくこと 授業：表計算演習：計算とグラフの基本（課題 3 - 2 - 1～課題 3 - 2 - 5） 復習：構造化された情報を紙に書き起こして見返すこと</p> <p>【第4回】 予習：教科書 P51～P52 を読んでおくこと 授業：表計算演習：世界の人口分布（課題 3 - 3 - 1） 復習：総務省統計局のさまざまなデータを確認すること</p> <p>【第5回】 予習：教科書 P56～P57 を読んでおくこと 授業：表計算演習：世界の主要都市の平均気温（課題 3 - 3 - 2） 復習：気象庁のさまざまなデータを確認すること</p> <p>【第6回】 予習：教科書 P58～P59 を読んでおくこと 授業：表計算演習：成績表（課題 3 - 3 - 3） 復習：基本統計量（その1）を振り返ること</p> <p>【第7回】 予習：教科書 P60～P62 を読んでおくこと 授業：表計算演習：成績表（課題 3 - 3 - 3） 復習：基本統計量（その2）を振り返ること</p> <p>【第8回】 予習：教科書 P63～P64 を読んでおくこと 授業：表計算演習：身体測定表（課題 3 - 3 - 4） 復習：複雑な理論式による求め方についてまとめておくこと</p> <p>【第9回】 予習：教科書 P65～P66 を読んでおくこと 授業：表計算演習：身体測定表（課題 3 - 3 - 4） 復習：プログラミングの概念を振り返ること</p> <p>【第10回】 予習：教科書 P67～P68 を読んでおくこと 授業：表計算演習：レシート（課題 3 - 4 - 1） 復習：さまざまなレシートを確認すること</p> <p>【第11回】 予習：教科書 P69～P71 を読んでおくこと 授業：表計算演習：レシピ（課題 3 - 4 - 7） 復習：栄養管理について確認すること</p> <p>【第12回】 予習：教科書 P72～P73 を読んでおくこと 授業：表計算演習：ローンシミュレーション（課題 3 - 4 - 4） 復習：金利について確認すること</p>			

<p>【第13回】 予習：教科書 P75～P77 を読んでおくこと 授業：表計算演習：歳入・歳出の概要（課題3-4-2） 復習：それぞれの区分について理解すること</p> <p>【第14回】 予習：次年度予算関連のニュース記事を確認すること 授業：表計算演習：歳入・歳出の概要（課題3-4-2） 復習：財政状況と時事問題を理解すること</p> <p>【第15回】 予習：いままでの課題について振り返ること 授業：表計算演習：見積書（課題3-4-3） 復習：それぞれの課題について振り返ること</p>								
授業開始前学習	高校の教科「情報」の教科書を読んでおくこと全体像をつかみやすい。コンピュータ演習Ⅰの内容をおさらいしておくこと							
授業内課題の フィードバックの方法	全体には、次の回に復習として解説を行う。個別には、課題返却時にアドバイスを行う。							
テキスト・教材	『講義と演習 情報のこころえ』ポラーノ出版							
参考書								
評価の基準と方法	毎時間出される課題 40%、課題の内容および出来映え 40%と授業に対する取り組み（授業態度）20%で評価を決める。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性を身につける		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性を身につける		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力を身につける		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力を身につける	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	
関連科目	コンピュータ演習Ⅰ 情報と科学							
その他	GWE(Google Workspace for Education)を中心に、Microsoft オフィスもしくは、Google ドキュメント、スプレッドシート、スライドにて課題作成を行う。 課題の提出および資料の配布は、GWE を通して行う。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	学校経営と学校図書館		
科目分類	110-411-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	School Management and School Library	授業区分	講義
科目責任者	平井 孝明	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	平井 孝明	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	司書教諭課程の総論的な内容である。学校図書館の理念と課題、法制度、司書教諭の役割について理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校図書館の教育的な意義と役割について説明ができる。 2 学校図書館に関する法律および政策について説明できる。 3 司書教諭の役割について説明できる。 4 学校図書館運営の方法についてのスキルを身につける。 		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】			
予習：各自がこれまでに経験してきた学校図書館を振り返り、学校図書館に関するイメージを持つ。			
授業：学校教育における学校図書館の役割			
復習：学校教育の変遷と学校図書館の役割の変化について考察を行う。			
【第2回】			
予習：事前に配布する資料を読み、疑問点などをメモしてくる。			
授業：学校図書館の理念と教育的意義			
復習：学校図書館の役割の違いや機能について考える。			
【第3回】			
予習：事前に配布する資料を読み、疑問点などをメモしてくる。			
授業：学校図書館の歴史			
復習：学校図書館の歴史の変遷を整理する。			
【第4回】			
予習：事前に配布する資料を読み、疑問点などをメモしてくる。			
授業：学校図書館法をめぐる法体系			
復習：学校図書館法について、関係する法規を参照して考察する。			
【第5回】			
予習：事前に配布する資料を読み、疑問点などをメモしてくる。			
授業：学習指導要領と学校図書館			
復習：学習活動でどのように学校図書館を活用していくか考察する。			
【第6回】			
予習：事前に配布する資料を読み、疑問点などをメモしてくる。			
授業：学校図書館教育における司書教諭の役割			
復習：司書教諭の果たすべき役割について、多角的な視点から考察する。			
【第7回】			
予習：事前に配布する資料を読み、疑問点などをメモしてくる。			
授業：学校司書など図書館担当職員との連携			
復習：学校図書館担当職員の役割を考え、学校図書館を協同して運営していく方法を考える。			
【第8回】			
予習：事前に配布する資料を読み、疑問点などをメモしてくる。			
授業：学校図書館の施設・設備			
復習：学校図書館の施設・設備について具体的に考える。			
【第9回】			
予習：事前に配布する資料を読み、疑問点などをメモしてくる。			
授業：学校図書館メディア（資料）の種類と活用			
復習：どのようなメディアが学校図書館にあるべきか考察を行う。			
【第10回】			
予習：事前に配布する資料を読み、疑問点などをメモしてくる。			
授業：読書指導の方法と意義			
復習：読書が児童生徒に及ぼす影響と学力との関係について考える。			
【第11回】			
予習：事前に配布する資料を読み、疑問点などをメモしてくる。			
授業：学校図書館のレファレンス、広報活動			
復習：学校図書館のサービス業務について整理する。			
【第12回】			
予習：事前に配布する資料を読み、疑問点などをメモしてくる。			

<p>授業：学校図書館の情報教育への支援 復習：情報活用能力の育成について考える。 【第13回】 予習：事前に配布する資料を読み、疑問点などをメモしてくる。 授業：図書委員会活動 復習：特別活動における図書委員会活動の教育的意義を整理する。 【第14回】 予習：事前に配布する資料を読み、疑問点などをメモしてくる。 授業：学校図書館の連携・相互協力 復習：学校図書館のネットワークを運用する上での課題を考える。 【第15回】 予習：これまで学んだ内容を元に、学校図書館の課題にはどのようなものがあるか考えておく。 授業：学校図書館の展望と課題 復習：学校図書館を取り巻く課題をもとに、解決に向けた取り組みについて考察を深める。</p>								
授業開始前学習	ふだんから大学図書館や公共図書館を使い慣れておくことが望ましい。 また、図書館、出版界、教育関連のニュースはチェックすること。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回、授業の内容の要約および質問、感想を記して提出する。 次回授業時に、教員のコメントを付して返却する。							
テキスト・教材	授業中に適宜参考資料を配布する。							
参考書	『学校経営と学校図書館』『探究学校図書館学』編集委員会編著（全国学校図書館協議会） その他、適宜指示する。							
評価の基準と方法	授業内課題（40%）と、学期末レポート（60%）で評価する。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	
関連科目	司書教諭資格取得に必要な5科目のうちの1つである。 他の4科目は「読書と豊かな人間性」、「学校図書館メディアの構成」、「学習指導と学校図書館」、「情報メディアの活用」である。							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	東京都の公立高校の学校司書として図書館運営に携わっている。他の国公立学校や公共図書館との連携経験も活かし、実務から得た経験と知識を講義で提供していく。							

科目名称	学校図書館メディアの構成		
科目分類	110-411-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	School Libraries and Media Resources	授業区分	講義
科目責任者	平井 孝明	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	平井 孝明	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	学校図書館が取り扱うメディアについて、種類と特性、出版と流通、その構築に必要な収集方針、選択基準、その他の諸作業を解説する。 また、それらを効果的に提供する方法について実践的に学習する。		
到達目標	1 学校図書館に必要なメディアの特性を理解し、必要な資料を収集選択することができる。 2 学校図書館で資料をわかりやすく利用させるための組織化の基礎を理解できる。 3 資料の排架やレイアウトを知り、使いやすい学校図書館運用の必要性を理解できる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：自分が体験した学校図書館にはどんなメディアがあったか振り返っておく。 授業：学校教育と学校図書館メディア 復習：学校図書館の機能を整理するとともに、本講義で学ぶ内容について概略を押さえる。			
【第2回】 予習：学校・大学・公共図書館を見学し、どんなメディアの取り扱いがあるか確認しておく。 授業：学校図書館メディアの種類と特性1（印刷メディア、視聴覚メディア、ファイル資料など） 復習：学校図書館にある基本的なメディアについて整理し、それぞれの特性を理解する。			
【第3回】 予習：電子図書館に関するニュースを調べておく。 授業：学校図書館メディアの種類と特性2（電子メディア、特別な教育的ニーズに応えるメディア）（実習） 復習：特徴的なメディアの種類を整理し、実際に触れてみることでそれぞれの特性を理解する。			
【第4回】 予習：出版社、取次、大型書店について、どんな企業があるか調べておく。 授業：学校図書館メディアの出版と流通 復習：出版流通制度の仕組みについて整理する。			
【第5回】 予習：学校・大学・公共図書館の新着コーナーを見学し、どんな本が選ばれているか確認しておく。 授業：学校図書館のコレクション構築1（メディアの選択と収集方針、選択のためのツール）（実習） 復習：学校図書館機能を発揮するためのコレクション構築について考察する。			
【第6回】 予習：学校・大学・公共図書館の書架を更新、廃棄の視点から見学しておく。 授業：学校図書館のコレクション構築2（コレクションの評価および更新、廃棄）（フィールドワーク） 復習：蔵書の更新、廃棄について、実際の除籍基準を参照し、その在り方を考察する。			
【第7回】 予習：書店・各種図書館に訪れ、本棚の配置や案内表示を「利便性」に着目し見学しておく。 授業：学校図書館メディアの配置と利用（フィールドワーク） 復習：学校図書館メディアの効果的な排架と利用しやすさについて考察する。			
【第8回】 予習：日本十進分類法（NDC）を確認しておく。 授業：学校図書館メディア組織化の実際1（分類法と基礎演習）（実習） 復習：分類の意義、日本十進分類法（NDC）、請求記号について理解する。			
【第9回】 予習：前時の学習を振り返りながら、NDCに着目して各種図書館の棚を見学しておく。 授業：学校図書館メディア組織化の実際2（分類法と応用演習、件名標目法）（実習） 復習：日本十進分類法（NDC）の地理区分、形式区分、件名の意義について理解する。			
【第10回】 予習：学校・大学・公共図書館でオンライン蔵書目録検索システム（OPAC）を利用してみる。 授業：学校図書館メディア組織化の実際3（目録の意義、コンピュータ目録）（実習） 復習：学校・大学・公共図書館のOPACを利用して、検索結果の内容を比較しまとめる。			
【第11回】 予習：学校・大学・公共図書館で各種メディアがどう装備され提供されているか確認しておく。 授業：学校図書館メディアの受入れと装備（実習） 復習：学校図書館メディアの受入れと装備の手順と技能を習得する。			
【第12回】 予習：学校・大学・公共図書館のホームページを利用しておく。 授業：学校図書館メディアにおけるホームページの活用 復習：利用しやすいホームページについて考察する。			
【第13回】			

<p>予習 : 各教科においてどのように学校図書館を利用できるかを考える。 授業 : 学校図書館メディアの授業支援 復習 : 授業で紹介された実際の授業を参考に学校図書館メディアの使い方を考察する。 【第14回】 予習 : 学校図書館と公共図書館、他の学校図書館との協力体制について調べる。 授業 : 学校図書館メディアのネットワーク 復習 : 学校図書館のネットワークを運用する上での課題を考える。 【第15回】 予習 : 学習全体を通し、学んだことを振り返る。 授業 : まとめと振り返り 復習 : 司書教諭としてどのように学校図書館メディアを組織していくかを考察する。</p>								
授業開始前学習	ふだんから大学図書館や公共図書館を使い慣れておくことが望ましい。また、図書館、出版界、教育関連のニュースはチェックすること。							
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、授業の内容の要約および質問、感想を記して提出する。次回授業時に、教員のコメントを付けて返却する。							
テキスト・教材	授業中に適宜参考資料を配布する。							
参考書	『学校図書館メディアの構成』『探究学校図書館学』編集委員会編著 (全国学校図書館協議会) その他、適宜指示する。							
評価の基準と方法	授業内課題 (40%) と、学期末レポート (60%) で評価する。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	
関連科目	司書教諭資格取得に必要な5科目のうちの1つである。他の4科目は「学校経営と学校図書館」、「読書と豊かな人間性」、「学習指導と学校図書館」、「情報メディアの活用」である。							
その他	実習中心の授業とし、実践に活かせる知識、技能の習得を目指す。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	東京都の公立高校の学校司書として図書館運営に携わっている。他の国公立学校や公共図書館との連携経験も活かし、実務から得た経験と知識を講義で提供していく。							

科目名称	読書と豊かな人間性		
科目分類	110-411-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Theories of Reading and Personal Development in Schools	授業区分	講義
科目責任者	平井 孝明	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	平井 孝明	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	読書の意義を理解するとともに、児童・生徒の豊かな人間性を育むための司書教諭の役割を考える。児童・生徒、それぞれの発達段階に応じた適切な読書指導を学び、具体的な方法を身に付ける。		
到達目標	1 児童・生徒の発達段階に応じた読書指導の方法を身につける。 2 子どもの読書資料についての知識を深める。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスを確認して授業の全体像を把握する。また自らの読書体験を振り返っておく。 授業：読書の意義と目的 復習：読書の意義について理解を深める。</p> <p>【第2回】 予習：事前に配布する資料を読み、疑問点などをメモしてくる。 授業：読書指導と学校図書館 復習：国や地方自治体の取り組みについて整理する。</p> <p>【第3回】 予習：事前に配布する資料を読み、疑問点などをメモしてくる。 授業：子どもの読書環境 復習：子どもの読書の実態から見える問題点を考察する。</p> <p>【第4回】 予習：どのような絵本、児童文学が読み継がれているか、今人気があるものは何か、調べておく。 授業：子どもの本の種類と提供1（フィールドワーク） 復習：発達段階（乳児期、小学校低・中・高学年）に応じた適切な絵本、児童文学を整理する。</p> <p>【第5回】 予習：中学生、高校生にどんな本が読まれているか「学校読書調査」を調べておく。 授業：子どもの本の種類と提供2（フィールドワーク） 復習：中高生にふさわしいヤングアダルト作品、漫画を整理する。</p> <p>【第6回】 予習：中高生向けに出版されている各社のレーベルを図書館、書店で調べておく。 授業：子どもの本の種類と提供3（フィールドワーク） 復習：中高生にふさわしい新書、知識の本、ノンフィクションを整理する。</p> <p>【第7回】 予習：事前に配布する資料を読み、疑問点などをメモしてくる。 授業：読書環境の整備 復習：読書資料の種類と分類に関する知識を整理する。</p> <p>【第8回】 予習：絵本の「読み聞かせ」に関して下調べし、知識及び疑問点を整理しておく。 授業：発達に応じた読書指導1（幼児期、小学校低学年）（実習） 復習：絵本の「読み聞かせ」に関する知識・技能を整理し、実技の復習をする。</p> <p>【第9回】 予習：POPを作成する本を選び、POP作成の準備をする。 授業：発達に応じた読書指導2（小学校中学年、高学年）（実習） 復習：本を紹介する技術（POP）の作成に関する知識・技能を整理する。</p> <p>【第10回】 予習：ブックトーク、ビブリオバトルに関して下調べし、知識及び疑問点を整理しておく。 授業：発達に応じた読書指導3（中学生、高校生）（実習） 復習：本を紹介する技術（ビブリオバトル）の実践を振り返り、知識・技能を整理する。</p> <p>【第11回】 予習：読書会に関して下調べし、知識及び疑問点を整理しておく。 授業：発達に応じた読書指導4（中学生、高校生）（実習） 復習：読書会に関する知識・技能を整理する。</p> <p>【第12回】 予習：事前に配布する資料を読み、疑問点などをメモしてくる。 授業：各教科等での読書指導 復習：経験と講義を踏まえて学校での読書指導のあるべき姿を考察する。</p> <p>【第13回】</p>			

<p>予習：事前に配布する資料を読み、疑問点などをメモしてくる。</p> <p>授業：個に応じた読書指導</p> <p>復習：障害のある児童生徒、外国にルーツのある児童生徒への読書指導について考察する。</p> <p>【第14回】</p> <p>予習：事前に配布する資料を読み、疑問点などをメモしてくる。</p> <p>授業：地域社会との連携</p> <p>復習：地域社会との連携を考える中で、生涯学習としての読書のあり方について考察する。</p> <p>【第15回】</p> <p>予習：これまでの学習内容を振り返り、疑問点や議論を深めたい点を抽出しておく。</p> <p>授業：学校図書館における読書の現状と今後の課題</p> <p>復習：学校図書館における読書活動および読書指導について、今後の課題について考察する。</p>								
授業開始前学習	公共図書館のヤングアダルトコーナー、児童コーナーを見学しておくことが望ましい。また、図書館、出版界、教育関連のニュースはチェックすること。							
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、授業の内容の要約および質問、感想を記して提出する。次回授業時に、教員のコメントを付けて返却する。							
テキスト・教材	授業中に適宜参考資料を配布する。							
参考書	『読書と豊かな人間性』『探究学校図書館学』編集委員会編著（全国学校図書館協議会）その他、適宜指示する。							
評価の基準と方法	授業内課題（40%）と、学期末レポート（60%）で評価する。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成	自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成	社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成			文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△			◎	○	○	
関連科目	司書教諭資格取得に必要な5科目のうちの1つである。他の4科目は「学校経営と学校図書館」、「学校図書館メディアの構成」、「学習指導と学校図書館」、「情報メディアの活用」である。							
その他	実際の本に触れる機会を多く設け、本についての知識を深める。また、実習中心の授業とし、実践に活かせるの指導法の習得を目指す。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	東京都の公立高校の学校司書として図書館運営に携わっている。他の国公立学校や公共図書館との連携経験も活かし、実務から得た経験と知識を講義で提供していく。							

科目名称	学習指導と学校図書館		
科目分類	110-411-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Teaching Methods (School Libraries)	授業区分	講義
科目責任者	平井 孝明	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	平井 孝明	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	学校教育における学校図書館の機能と役割、情報活用能力の育成、学習指導での司書教諭の役割を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 学習・情報センターとしての学校図書館の役割を説明できる。 2 情報活用能力の育成について考察できる。 3 学校図書館を効果的に活用した探究学習の展開方法を考えることができる。 		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
授業計画	<p>【第1回】 予習：これまでに受けた学校図書館での授業についてふりかえりを行う。 授業：学校教育と学校図書館 復習：学校図書館の役割について理解を深める。</p> <p>【第2回】 予習：事前に配布する資料を読み、疑問点などをメモしてくる。 授業：教育課程と学校図書館 復習：教育課程における学校図書館の位置づけを整理する。</p> <p>【第3回】 予習：事前に配布する資料を読み、疑問点などをメモしてくる。 授業：学習指導要領と学校図書館 復習：新しい学習指導要領の下での学校図書館活用の可能性について考察する。</p> <p>【第4回】 予習：事前に配布する資料を読み、疑問点などをメモしてくる。 授業：情報センターとしての学校図書館 復習：学校図書館の情報センターとしての機能について考察を行う。</p> <p>【第5回】 予習：事前に配布する資料を読み、疑問点などをメモしてくる。 授業：情報活用能力と学校図書館 復習：学校図書館においてどのように情報活用能力を育成できるか考察する。</p> <p>【第6回】 予習：事前に配布する資料を読み、オリエンテーションのプランを考えておく。 授業：学校図書館オリエンテーションの意義と方法（実習） 復習：学校図書館オリエンテーションについて意義と方法を整理する。</p> <p>【第7回】 予習：事前に配布する資料を読み、疑問点などをメモしてくる。 授業：学校図書館と情報サービス 復習：レファレンスサービスの事例を調査し、自分なりの回答を考える。</p> <p>【第8回】 予習：事前に配布する資料を読み、疑問点などをメモしてくる。 授業：学校図書館のメディア収集と活用 復習：小・中・高の各学校図書館で必要とされる発達段階に応じたメディアについて考察する。</p> <p>【第9回】 予習：事前に配布する資料を読み、疑問点などをメモしてくる。 授業：学校図書館メディアと環境の整備 復習：学校図書館が学習環境として活用されるためにどのように整備していくか考察する。</p> <p>【第10回】 予習：事前に配布する資料を読み、疑問点などをメモしてくる。 授業：教科における学校図書館の活用 復習：各教科においてどのように学校図書館を利用できるかを考える。</p> <p>【第11回】 予習：事前に配布する資料を読み、疑問点などをメモしてくる。 授業：総合的な学習・探究学習における学校図書館の活用 復習：探究学習で学校図書館が果たすべき役割について考察を行う。</p> <p>【第12回】 予習：事前に配布する資料を読み、疑問点などをメモしてくる。 授業：学校図書館と合理的配慮 復習：学校図書館で行うべき合理的配慮、読書バリアフリー等について整理する。</p>		

<p>【第13回】 予習 : 学習指導案の作成方法を復習しておく。 授業 : 学校図書館を活用した授業づくり 1 (計画) 復習 : 将来教えてみたい教科における学校図書館を活用した授業案を考えておく。</p> <p>【第14回】 予習 : 学校図書館を活用した授業の案を考えておく。 授業 : 学校図書館を活用した授業づくり 2 (発表) 復習 : 作成した授業案の検証を行う。</p> <p>【第15回】 予習 : これまでに学習した内容について復習を行う。 授業 : 学習指導における学校図書館活用の課題と展望 復習 : 学校図書館の可能性について考察する。</p>								
授業開始前学習	ふだんから大学図書館や公共図書館を使い慣れておくことが望ましい。また、図書館、出版界、教育関連のニュースはチェックすること。							
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、授業の内容の要約および質問、感想を記して提出する。次回授業時に、教員のコメントを付けて返却する。							
テキスト・教材	授業中に適宜参考資料を配布する。							
参考書	『学習指導と学校図書館』『探究学校図書館学』編集委員会編著 (全国学校図書館協議会) その他、適宜指示する。							
評価の基準と方法	授業内課題 (40%) と、学期末レポート (60%) で評価する。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成	自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成	社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成			文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	
関連科目	司書教諭資格取得に必要な5科目のうちの1つである。他の4科目は「学校経営と学校図書館」、「読書と豊かな人間性」、「学校図書館メディアの構成」、「情報メディアの活用」である。							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	東京都の公立高校の学校司書として図書館運営に携わっている。他の国公立学校や公共図書館との連携経験も活かし、実務から得た経験と知識を講義で提供していく。							

科目名称	☆情報メディアの活用		
科目分類	110-411-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Application of Information Media	授業区分	講義
科目責任者	篠 政行	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	篠 政行	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	4-204
授業概要	この授業は、インターネット、電子メール、SNS、スマートフォンなどを使うことが当たり前となっている今日、情報メディアを通して高度情報社会における人間とのかかわり、特に教育について考え、さらに教職を履修する学生としてどのようなことを身に着けるべきなのか。毎回、授業テーマに対してディスカッションやグループワークを行い理解を深めます。		
到達目標	学校図書館司書教諭過程取得に向けた情報メディアの特性と活用方法が理解できるようになります。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：情報の定義を調べる。 授業：オリエンテーション（情報の定義） — リアクションペーパーへのコメント提出 復習：調べた内容と授業での内容をまとめて、自分で情報の定義が言えるようにする。</p> <p>【第2回】 予習：私たちを取り巻く日常で、どんな情報があるのかを考える。 授業：情報と日常生活（情報の具体性と抽象性）（ディスカッション及びグループワーク） — リアクションペーパーへのコメント提出 復習：メディアの定義について調べる。</p> <p>【第3回】 予習：さまざまなメディアの種類を調べておく。 授業：メディアの機能（得意と不得意なこと）（ディスカッション及びグループワーク） — リアクションペーパーへのコメント提出 復習：それぞれのメディアの特徴をまとめる。</p> <p>【第4回】 予習：メディアの役割について考える。 授業：フォト・ドキュメンタリーとビデオ・ドキュメンタリー-1（過去の作品について）（ディスカッション及びグループワーク） — リアクションペーパーへのコメント提出 復習：本日の内容をまとめる。</p> <p>【第5回】 予習：メディアの伝えられることについて考える。 授業：フォト・ドキュメンタリーとビデオ・ドキュメンタリー-2（現代の作品について）（ディスカッション及びグループワーク） — リアクションペーパーへのコメント提出 復習：授業内容をもとに「自分」について考える。（プリント提出）</p> <p>【第6回】 予習：プリント提出の準備を行う。 授業：インターネット上の情報の信頼性と安全性-1（PCのセキュリティ）（ディスカッション及びグループワーク） — リアクションペーパーへのコメント提出 復習：インターネットの信頼性とは何かを調べる。</p> <p>【第7回】 予習：知的所有権について調べる。 授業：インターネット上の情報の信頼性と安全性-2（知的所有権）（ディスカッション及びグループワーク） — リアクションペーパーへのコメント提出 復習：知的所有権についてまとめ、それぞれの特徴を確認する。</p> <p>【第8回】 予習：ドキュメンタリーについて調べておく。 授業：ドキュメンタリーから学ぶ-2（教育現場から1）（ディスカッション及びグループワーク） — リアクションペーパーへのコメント提出 復習：自分で調べたことと授業で知ったことを整理してまとめる。</p> <p>【第9回】 予習：前回の内容の検討を行う。 授業：ドキュメンタリーから学ぶ-3（教育現場から2）（ディスカッション及びグループワーク） — リアクションペーパーへのコメント提出 復習：レポートにまとめる。（プレゼンテーションに備える）</p> <p>【第10回】 予習：ディスカッションを通して、レポートの追加・修正を行う。 授業：メディアと自分-1（教職を取る学生が考えるべき問題）（ディスカッション及びグループワーク） — リアクションペーパーへのコメント提出 復習：レポートにまとめる。（プレゼンテーションに備える）</p> <p>【第11回】 予習：ディスカッションを通して、レポートの追加・修正を行う。 授業：メディアと自分-2（前回の問題についての意見交換）（ディスカッション及びグループワーク） — リアクションペーパーへのコメント提出 復習：レポートにまとめる。（プレゼンテーションに備える）</p> <p>【第12回】 予習：ディスカッションを通して、レポートの追加・修正を行う。</p>			

<p>授業：ドキュメンタリーからメディアを考える-2 復習：レポートにまとめる。(プレゼンテーションに備える) 【第13回】 予習：プレゼンテーションのポイントを絞っておく。 授業：ドキュメンタリーから学ぶ-4(教育との付き合い方) 復習：レポートにまとめる。(プレゼンテーションに備える) 【第14回】 予習：プレゼンテーションの準備を行う。 授業：前期授業のふりかえり1-プレゼンテーション 復習：プレゼンテーションの評価と自己評価をまとめる。 【第15回】 予習：プレゼンテーションの準備を行う。 授業：前期授業のふりかえり2-プレゼンテーションと全体の講評 復習：最終課題レポート</p>								
授業開始前学習	教職を履修する学生が考えるべき問題などを新聞やインターネットから調べておくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	プレゼンテーションに関しては、全体の講評を行い、ディスカッション及びグループワークとリアクションペーパーは途中経過の進捗状況を確認しながら、個別に対応します。							
テキスト・教材	プリントと関連資料は、Google-classroom 上にアップします。							
参考書	授業を通じて適宜紹介します。							
評価の基準と方法	プレゼンテーション(30%)、学修態度(20%)、レポート(30%)および毎回のリアクションペーパーへのコメント(20%)により総合的に評価します。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	
関連科目								
その他	遅刻、欠席を極力避けること。なお、遅刻、欠席した場合には原則として事前に連絡を行うこと。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間(2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間(4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								